

インドネシア共和国
南スラウェシ州バル県地域総合開発
実施支援プロジェクト
終了時評価調査（フォローアップ期間）
報告書

平成14年4月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

序 文

南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクトは、インドネシア共和国初の協力隊チーム派遣プロジェクトとしてインドネシア共和国政府内務省主管の「地域総合開発計画」を支援し、南スラウェシ州バル県内6か村の農業収入向上に貢献する目的で、平成7年1月から5年間にわたり実施されました。

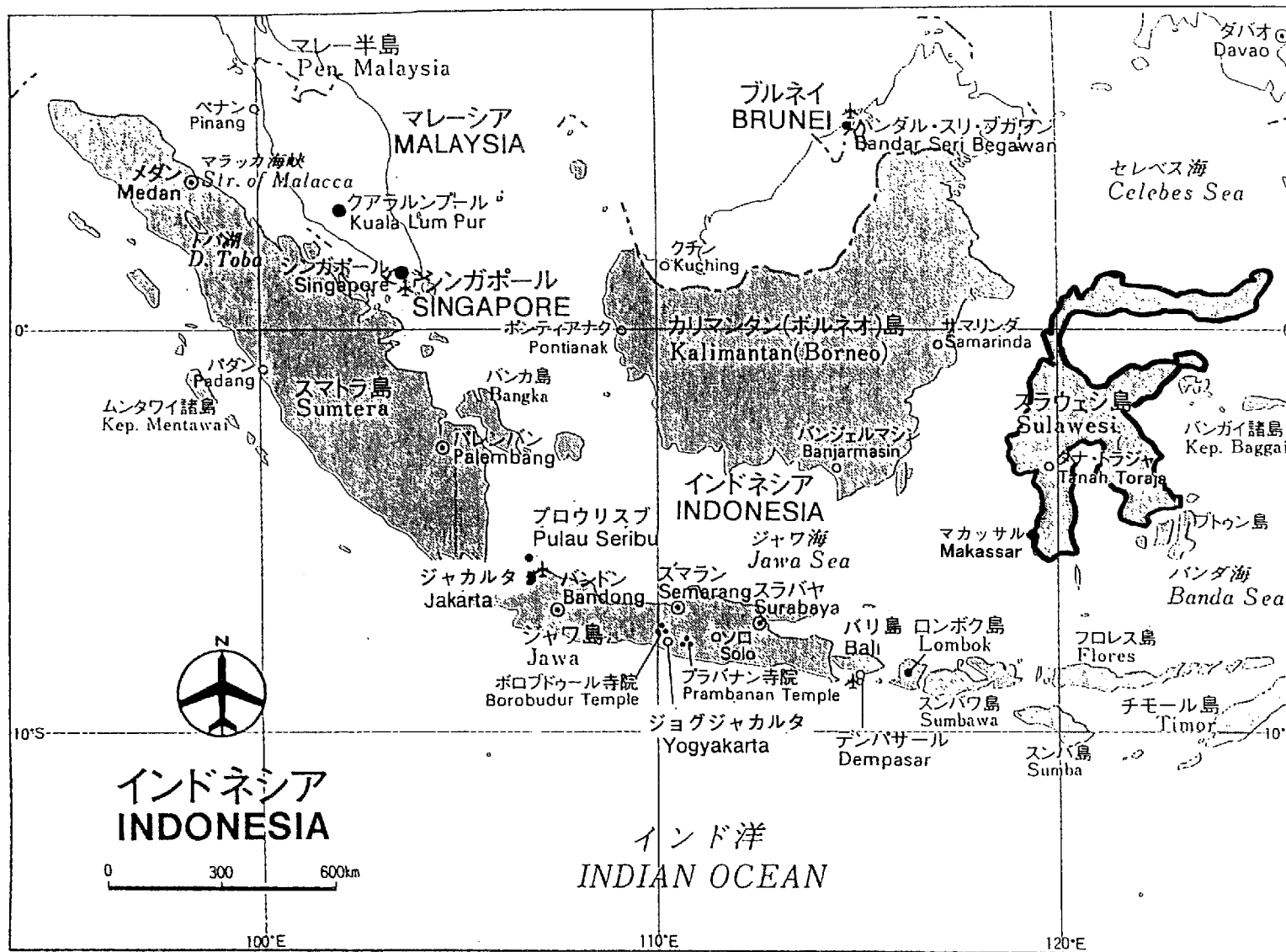
平成11年2月に派遣された計画打合せ調査団の提言を受け、平成11年11月には、同プロジェクトの終了時評価調査団を現地に派遣し、協力実績の把握、及び協力効果の測定を行うとともに、今後の協力方針についてインドネシア共和国側と協議しました。その結果、プロジェクトを当初予定どおり平成11年12月末で終了させ、平成12年1月から平成13年12月末までの2年間、進行が遅れている一部の活動について補完的な協力（フォローアップ）を行うことになりました。

本調査団は、プロジェクトサイトでの現地調査や関係者への聞き取り調査等を通じて、インドネシア共和国政府関係者と共同で、本プロジェクトフォローアップ期間における活動の達成状況把握を行うとともに、プロジェクト終了後の対応方針策定や本プロジェクトでとられたアプローチや活動内容から類似案件の参考となる教訓を導き出すことを目的として派遣されました。そして、帰国後の国内作業を経て、調査結果を本報告書に取りまとめました。

本報告書がインドネシア共和国側へのプロジェクトの円滑な受け渡しと今後のチーム派遣プロジェクトに寄与することを願うとともに、調査にご協力頂いた両国の関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

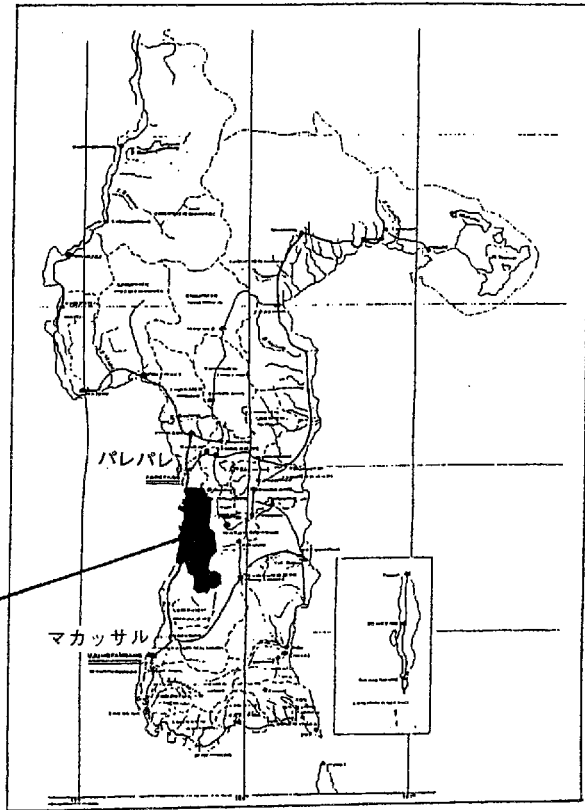
平成14年4月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局
事務局長 金子 洋三

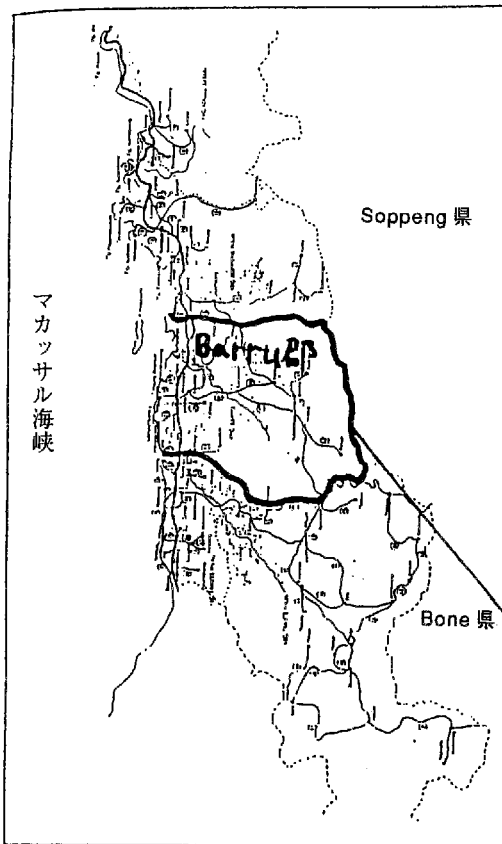


プロジェクトサイト位置図

南スラウェシ州

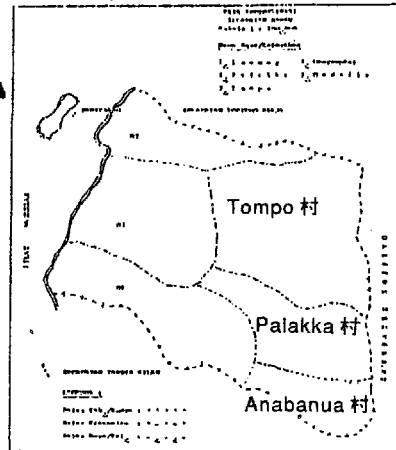


Barru 県

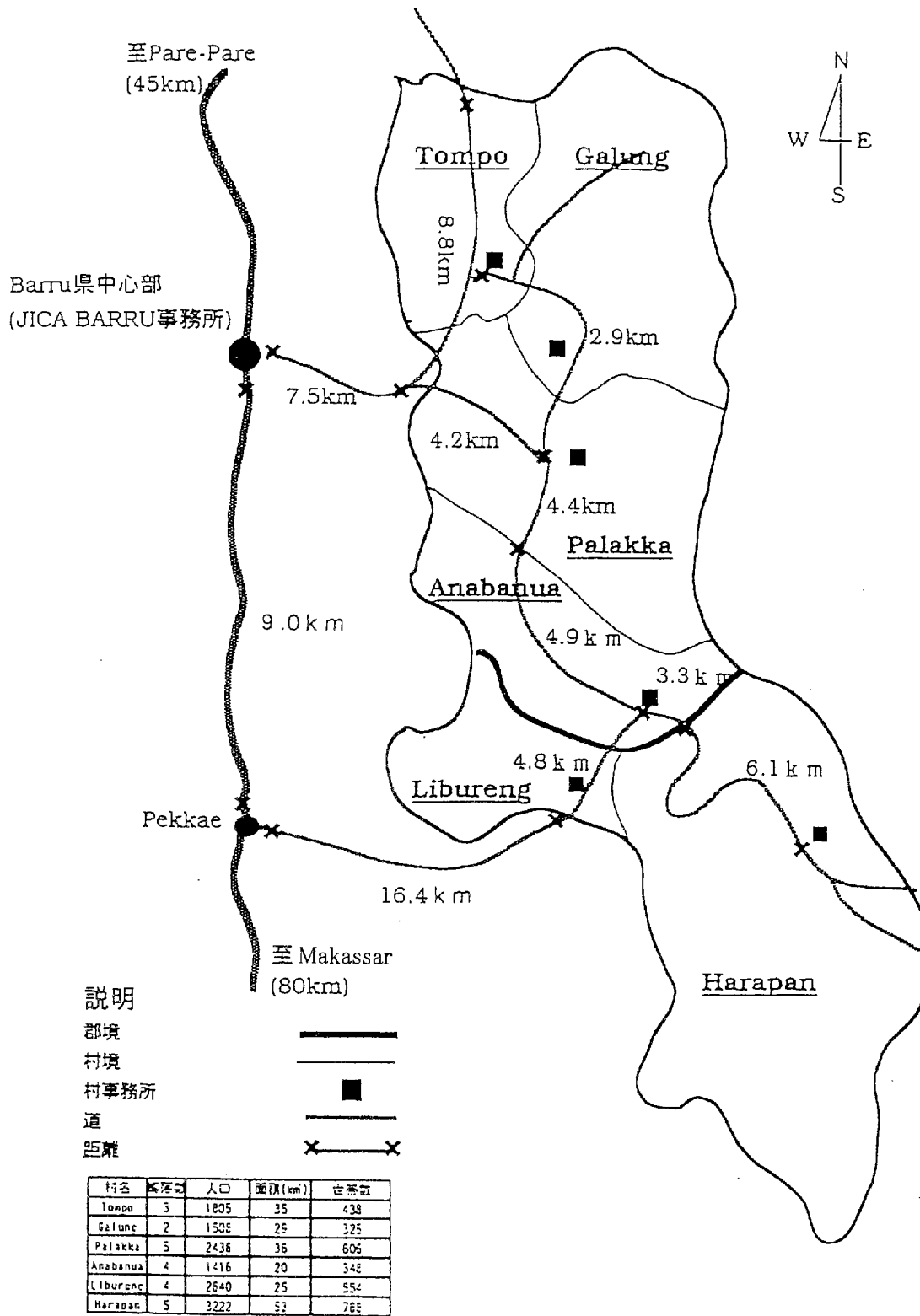


Barru 郡

Barru 県 Barru 郡



プロジェクト対象地域概略図



* 郡事務所より (1997/7)



◀生活用水事業（トンボ村ペレマリポ集落）



◀育苗所（トンボ村バラ集落）



◀山羊飼育普及事業（パラッカ村チャミン集落）



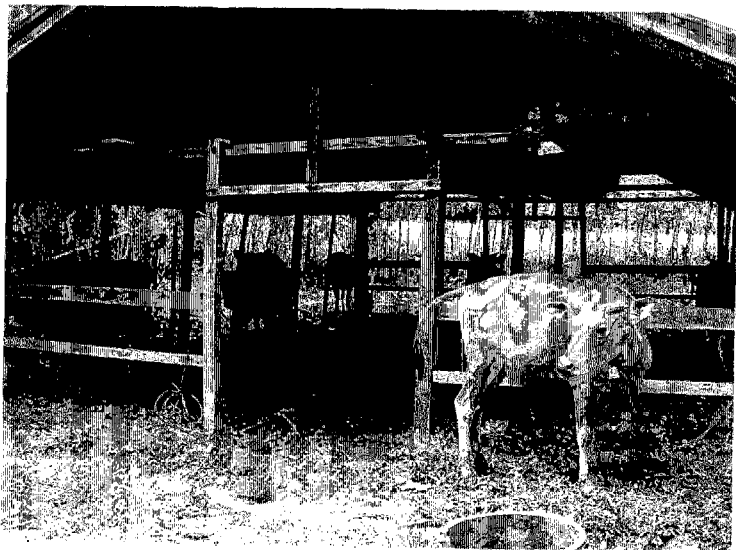
◀山羊飼育普及事業（パラッカ村チャミン集落）
インタビューの様子



◀野菜栽培・アクサン氏の畑（ガルン村ガルン集落）



◀灌漑施設改修事業（パラッカ村カレンゲ集落）



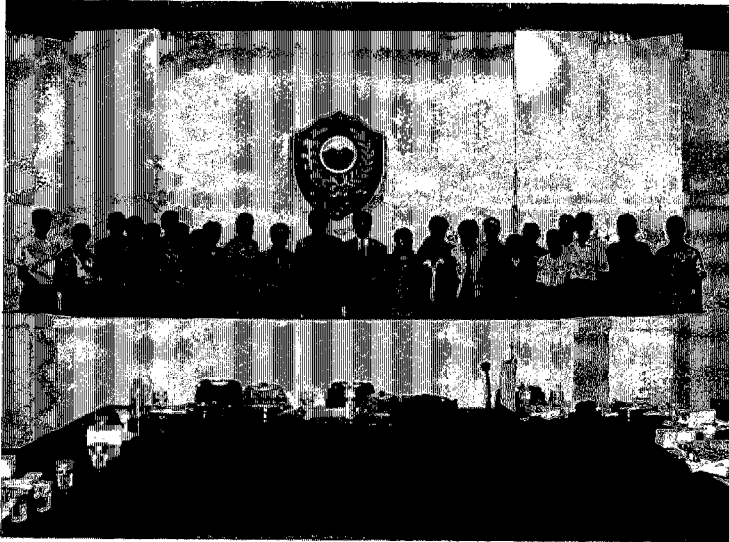
◀バリ牛普及事業（アナバヌア村バンガバンガエ集落）



◀市場（ハラパン村トンポレモレモ集落）



◀評価ミーティング（BAPPEDA会議室）



◀評価ミーティング（BAPPEDA会議室）



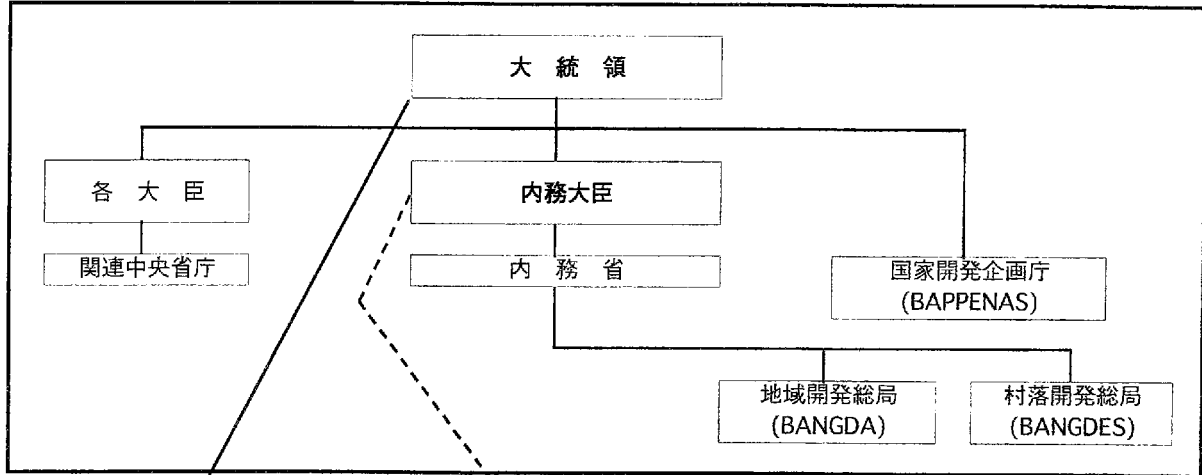
◀ミニッツ協議・締結（BANGDA会議室）



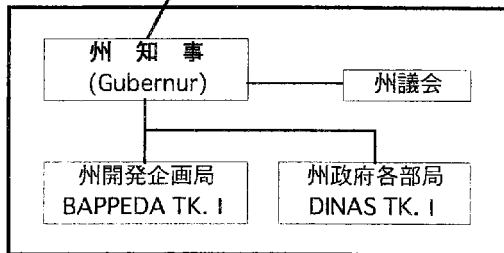
◀ミニッツ協議・締結（BANGDA会議室）

インドネシア行政組織図（地域開発及び村落開発分野）

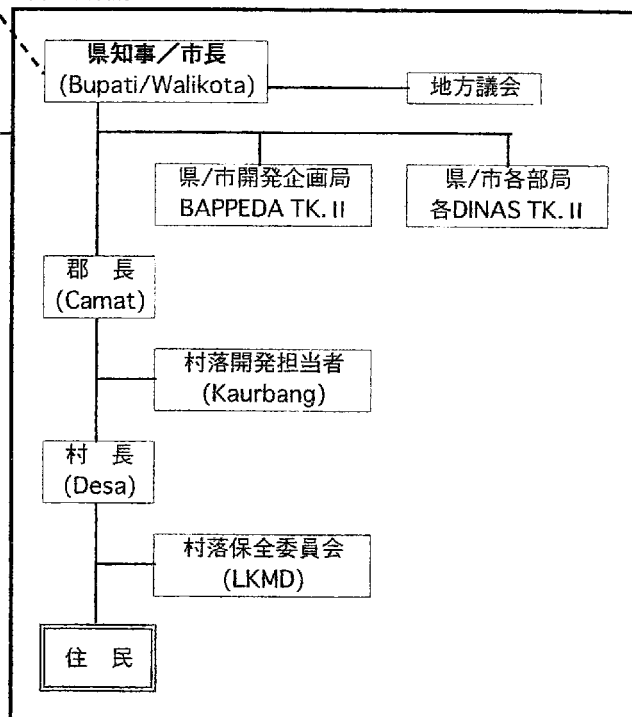
中央政府



州政府



県/市政府



- 行政単位
- 行政機関
- 責任関係
- - - - - 報告、勧告を通じての調整関係

略 語 表

BANGDA	：内務省地域開発総局
BAPPEDA	：地域開発企画局
BAPPENAS	：国家開発企画局
C/P	：カウンターパート
PDM	：プロジェクト・デザイン・マトリックス
PPWT	：地域総合開発計画

評価調査結果要約表

. 案件の概要																					
国名：インドネシア共和国	案件名：南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクト終了時評価調査（フォローアップ期間）																				
分野：村落開発	援助形態：協力隊チーム派遣																				
所轄部署：青年海外協力隊事務局海外第二課	協力金額（評価時点）：総額 1 億3,534万1,945ルピア																				
協力期間	(R/D)：1995.1.1-1999.12.31	先方関係機関：内務省地域開発総局（BANGDA）																			
	(延長)：2000.1.1-2001.12.31	日本側協力機関：JICA																			
	(F/U)：	他の関連協力：																			
	(E/N)（無償）																				
<p>1 協力の背景と概要</p> <p>インドネシア共和国（以下、「インドネシア」と記す）の第5次及び第6次開発計画では、成長、公平性、安定の均衡が重要視され、なかでも地域間格差の是正のため、東部インドネシアの開発や貧困の軽減が課題とされていた。そのような背景の下、内務省の主導により、人材育成や生活水準の向上、環境と開発の両立などを基本方針とした地域総合開発プログラムが展開されたが、地方部においては事業の効果的な実施や地域固有の問題に対処できる人材・経験が不足していたため、インドネシア政府より協力が要請され、案件発掘調査を経て本プロジェクトが実施されるに至った。</p> <p>本プロジェクトは、インドネシア初の協力隊チーム派遣プロジェクトとして、インドネシア政府内務省主管の「地域総合開発計画」を支援し、南スラウェシ州バル県内6か村の農業収入向上に貢献する目的で、1995年1月から1999年12月までの5年間にわたり実施された。2000年1月からは、進行が遅れている一部の活動について補完的な協力（フォローアップ）が実施され、これが2001年12月末をもって終了した。</p> <p>2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標 農民の生活レベルが向上する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 村・農民の経済活動が活性化される。</p> <p>(3) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される。 ・隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される。 ・隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される。 ・村の集落が行う自助活動（施設の維持・管理、住民組織の強化等）が継続され、更に拡充される。 <p>(4) 投入（評価時点）</p> <p>日本側：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">シニア隊員派遣</td> <td style="width: 10%;">2名</td> <td style="width: 30%;">機材供与</td> <td style="width: 30%;">トラクター用のエンジン1機</td> </tr> <tr> <td>一般隊員派遣</td> <td>4名</td> <td>現地業務費負担</td> <td>1億3,534万1,945ルピア</td> </tr> <tr> <td>研修員受入</td> <td>1名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>相手国側：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">カウンターパート配置</td> <td style="width: 10%;">3名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ローカルコスト負担（育苗小屋建設費を含む）</td> <td></td> <td></td> <td>9,375万ルピア</td> </tr> </table>		シニア隊員派遣	2名	機材供与	トラクター用のエンジン1機	一般隊員派遣	4名	現地業務費負担	1億3,534万1,945ルピア	研修員受入	1名			カウンターパート配置	3名			ローカルコスト負担（育苗小屋建設費を含む）			9,375万ルピア
シニア隊員派遣	2名	機材供与	トラクター用のエンジン1機																		
一般隊員派遣	4名	現地業務費負担	1億3,534万1,945ルピア																		
研修員受入	1名																				
カウンターパート配置	3名																				
ローカルコスト負担（育苗小屋建設費を含む）			9,375万ルピア																		
. 評価調査団の概要																					
調査者	（担当分野：氏名 職位） 総括：辻岡 政男 国際協力事業団青年海外協力隊事務局調査役 派遣計画・業務調整：柿田 美恵子 国際協力事業団青年海外協力隊事務局海外第二課 評価分析：柿沼 潤 株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション研究員																				
調査期間	2002年4月1日～2002年4月10日		評価種類：終了時評価																		

・ 評価結果の概要

1 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクト目標は、インドネシアの国家開発計画や地方分権化政策と合致している。また、本プロジェクトの目的はバル島の地域総合開発計画を支援することであり、インドネシアのニーズとの整合性があるといえる。また、我が国の援助政策とも合致しており、一部の作物や山羊に関してはニーズに合わないものもあったが、妥当性は高い。

(2) 有効性

フォローアップ協力期間中の成果は、全体的に効果をあげプロジェクト目標達成に有効であった。フォローアップ期間の支援により、プロジェクト目標は以前の5年間で補完する意味で十分農民に期待された効果が現われている。臨時雇用のカウンターパートが働き続けるという条件が維持されたことがプロジェクト目標達成に至る大きな役割を果たしたが、いまだ彼らの身分は不安定なままであった。

(3) 効率性

シニア隊員（チームリーダー）の後任派遣が遅れたこと、隊員の早期帰国、インドネシア側の予算執行が遅れがちであったこと、育苗所建設地のミスロケーション、治安の悪化等がプロジェクトの効率性を低くした。機材供与に関し、新たな投入は最低限にし以前投入された機材を用いて業務を遂行したことは、フォローアップ協力という位置づけから妥当であった。

(4) インパクト

プロジェクトのシンボリック施設である育苗所を建設したことで大きなインパクトがあった。育苗所を地域の多目的農業開発のセンターにするという計画は上位目標に大きな影響を与えており、今後、地元篤農家との技術交流等の連携を進展させることでプロジェクトの成果は更に波及すると考えられる。政府の地方分権化政策や本プロジェクトに高い関心と理解を示している現職の県知事が上位目標達成に向けての貢献要因となっている。また、農民やカウンターパート等から、隊員に影響され、規律や時間管理の仕方等が身に付いたというインパクトが報告された。

(5) 自立発展性

インタビューやアンケートの結果、ほとんどの農民は、自分たちで活動を維持することができると回答した。制度・財政面では、地方分権化政策により県政府の権限が強化され、地方分権化が自立発展性を促進したといえる。プロジェクトの自立発展のためには、臨時雇用のカウンターパート3名が正式な県職員として採用されることが必要である。

2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

地方分権化政策や本プロジェクトに理解を示す現職県知事の協力、カウンターパートが活動を継続していること。

3 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

農民と育苗所の交流が少ないこと。

4 結論

バリ牛・山羊の飼育普及や野菜・食用作物栽培方法の普及、育苗所の運営、灌漑施設・生活給水施設の維持・管理により、インフラストラクチャーや情報を村・農民に提供した。また、生産活動やインフラストラクチャーを維持するために、農民は自主的に委員会等を組織して運営管理を行っており、これらによって、村・農民の経済活動は活性化し、全体としてプロジェクト目標はほぼ達成された。

今回の合同評価で、ほとんどのプロジェクトの成果は、先方関係機関の協力や農民自身により継続又は普及され、県側も協力的でありプロジェクトの自立発展性は高い水準にあることを確認した。しかしながら、カウンターパートの雇用、育苗所の車両・運営等の課題が残されており、今後定期的にモニタリングを行う必要がある。

- 5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）
- ・プロジェクトの自立発展のためには、臨時雇用のカウンターパート3名を正式に県職員として採用するなどにより身分を保証し、経験を有する人材として最大限に活用することが必要である。
 - ・育苗所に配置された車両やプロジェクト事務所のパソコン等の機材は、今後も供与した目的のとおり、育苗所の運営や農業開発のために利用される必要がある。
 - ・プロジェクトの成果を波及させていくためには、育苗所と周辺の農民が頻繁な情報交換や技術交流を行うことが必要である。
 - ・これらカウンターパートの雇用や育苗所の車両・運営等の課題を定期的にモニタリングすることが必要である。
- 6 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）
- ・チーム派遣の効果をあげるためには、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）を活用し、チーム内及び相手国側とプロジェクト目標、活動計画等を共に十分認識して活動を行う必要がある。
 - ・チーム派遣の場合、最低でもチームリーダーの交代はプロジェクトの重要な時期には行わないなど、活動期間の変更を臨機応変に認めることが必要である。
 - ・プロジェクトを継続して効果的に実施するためには、引き継ぎ期間も勘案し、シニア隊員の後任要請は、適時にかつ余裕をもって行う必要がある。また、シニア隊員（チームリーダー）の派遣前研修に調整業務（会計等）を含むことができれば、現地での業務もより効率的に行うことができる。
 - ・住民のニーズに合った活動は、住民のモチベーションが高く自立発展性が高い。
 - ・モニタリング及び評価を行うためにプロジェクト全体の成果をまとめたデータベース等を作成しておく、一連のプロセスの把握がしやすく、より効果的になる。
 - ・協力隊募集は、チーム派遣と個別派遣を区分し、応募者に最初から内容の違い（メリット、デメリット）を説明する必要がある。また、チーム派遣プロジェクトの隊員に対しては、派遣前訓練の際にPCM研修を取り入れることが活動上有効である。

団長総括

辻岡 政男

本プロジェクトは、南スラウェシ州バル県内の6村を対象地域として、地域の中心産業である農業収入の向上を支援する目的で協力隊チーム派遣として、当初、5年間の計画で1995年1月から開始した。その協力成果を図るため、1999年11月にプロジェクト終了時評価調査（西村団長）を実施し、その提言を踏まえて、インドネシアからの要請を受け、2000年1月から2年間の計画でフォローアップ協力を実施した。今回の調査団はこのフォローアップ協力期間における成果等を評価する目的で派遣された。

インドネシア政府は2000年11月に策定した国家開発計画（PROPENAS）におけるキーアジェンダのひとつとして、「地方分権と貧困削減」を掲げ、本プロジェクトの対象地域であるバル県を含む、南スラウェシ州を開発重点地域として取り上げている。こうした背景を受けて、協力隊チーム派遣プロジェクトのフォローアップ協力は、インドネシア政府が地域開発の計画及び実施のオーナーシップを地方行政機関に委ねていこうとする新しい政治の方向性のなかで実施された。JICAは地方分権化への協力として本プロジェクトを実施してきたが、更に2002年4月より3年間の予定で、南スラウェシ州及び北スマトラ州をモデルサイトとする地方行政人材育成プロジェクトを開始する。

今回の評価調査団が最も重点を置いた課題は、協力隊が7年間にわたる協力を実施してきた「南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクト」の協力が終了したあと、自立的に発展していくための「インドネシア側の運営体制の確認を行うこと」であった。特に注目すべき点として2つの課題があった。1つめは、当初プロジェクト終了期間の最終段階になって建設された育苗所の運営状況を確認すること、2つめは、プロジェクトを運営する人材として、協力隊員のカウンターパート（C/P）3名の活用の可能性、例えば正式職員としての採用等による継続雇用についての方針を確認することであった。

今回の調査において、プロジェクトサイトであるバル県では、前半2日間の現地調査を行い、プロジェクトの実施期間中に手掛けた諸施設の訪問、維持管理状況の確認を行った。バスリ南スラウェシ州農業部部長、シャハルディン食糧安全補償室室長、アンディ・プスタン・バル郡郡長をはじめ、バル県の農業、土木建設担当の責任者が、現地調査に参加し、日本側、インドネシア側合わせて20名以上のメンバーで現場を歩き回り調査し、それぞれの施設では、村の運営管理責任者の人たちとインタビューを行った。訪れたすべてのサイトで例外なく、村人たちが胸を張って次のように応えた。「協力隊員の皆さんには、現地適応型の技術を分かりやすく教えてもらった。一緒に現場で働いて、見本を示してくれた。これからは、自分たちだけで運営していく自信がある。」

後半1日間、バル県庁において、本プロジェクトの事実上の総責任者にあたるムハマッド・ルン知事を交えて、評価会議を行った。会議においては、出席者は日本・インドネシア側合わせて25名が参加し、ルン知事と小職が共同で議長を行う形で進めた。議論は大変活発で、現地調査を踏まえて日本側調査団がコメントを行い、協力隊チーム派遣の芳島リーダー、加藤一般短期隊員は経験を交えて提言等を行った。インドネシア側は、ルン知事をはじめ、アンディ・オダン・バル県地域開発企画局(BAPPEDA)局長、アダンパチョ・トンポ村村長をはじめ、協力隊員のC/Pまでほとんど全員が発表及びコメントを行った。これらをミニッツに取りまとめた。

バル県における評価調査の結果として、フォローアップ協力の最大の課題であるプロジェクトの自立発展性は、特に関係者の意欲の点において大変改善され、高い水準にあることを確認した。その理由は、就任2年目にあたるルン知事の本プロジェクトへの高い関心と理解、そして強いリーダーシップによるところが大きい。プロジェクト対象地域の村民は、生活給水施設管理委員会、ダム管理委員会、バリ牛普及事業、山羊銀行等を自主的、積極的に運営しており、施設の管理及び運営状態は大変良好であった。

具体的な課題に関しては、その1つめの育苗所の運営体制については、ルン知事が「バル県は本施設を南スラウェシ州の農業開発の拠点とする構想である」と評価会議において説明した。ひとつの実績と認められるが、同知事は2001年7月に育苗所に新所長を任命した。知事のリーダーシップの下に、本施設を活発に活用する方向を確認できたと思う。本育苗所の運営については、今後、地元篤農家との技術交流等の連携を進展させること、農家と連絡を図るための専用車両を確保することなどの懸案もあるが、これらの点は、評価会議において話し合いのうえ、ミニッツにおいて、その改善を提言として確認した。

具体的な課題の2つめの点だが、現地調査を通じて、協力隊員の元C/P3名がプロジェクトの成果に大きな貢献をしたことを確認した。これを踏まえて、ミニッツ中で、今後のプロジェクトの自立的発展のためには、彼らC/Pが正式な県職員として採用され、長期的にこのプロジェクトにかかわっていく必要があることが提言された。これらの課題を克服して、この育苗所が協力隊チーム派遣による日本・インドネシア協力のシンボルとして発展することを大いに期待する。

ジャカルタにては、本プロジェクトを主管する内務省地域開発総局(BANGDA)にて、バル県での会議の日本・インドネシア評価委員の主要メンバーに加えて、スマルソノBANGDA局長、マペジュピユ南スラウェシ州BAPPEDA経済局局長が参加し、双方でバル県での評価会議を踏まえて作成したミニッツを確認後、署名した。

ミニッツ署名終了後、ルン・バル県知事より、本プロジェクトを自立発展させていくという趣旨の意志表明が改めてなされた。また、同知事より、今後のバル県の開発計画との関連のなかにおいて、下記(1)～(3)について、ダダン内務省村落開発機能局次長より(4)の要望が出された。

- (1) プロジェクト終了後も、自立発展状況の確認等を目的とするJICA調査団の定期的な派遣をしてほしい。
- (2) バル島の海老の養殖における海老の病気が問題になっており、その対策について専門家等の指導を希望する。
- (3) バル県では森林資源が大変貴重だが、近年、総森林面積7万haのうち、1万2,000haが破壊されている。エボニー、黒檀の樹種を保護したい。また、植物園（Botanical Garden）を建設することを計画している。これらの分野の技術指導を希望する。
- (4) 本プロジェクトはモデルプロジェクトであり、成果を他のケースの参考にしたいので、実施プロセス、協力手法等について、マニュアルを作って残してほしい。

これら新規要望については、今後インドネシア側から更に詳しい説明と協力要請がJICAインドネシア事務所を通じてなされると思われるが、(1)及び(4)については、本プロジェクトの関連もあり、今後、日本側として特に積極的なフォローがなされることを期待する。

(1) については、本プロジェクトの継続的発展のためと同時に、7年間にわたって本プロジェクトを通じて築き上げたインドネシアの人々がこの地で活動した日本人・協力隊員とのすばらしい人間関係を維持していくためにも、大変有意義である。具体的には、時期を見計らって、事後評価調査団他の各種JICA協カスキームを活用して、協力隊員OBや専門家を派遣してはどうか。 (4)については、小職からインドネシア側に、「まず隗より始めよ」のことわざのとおり、作業の段取りとして、「経験豊富な協力隊員の元C/Pを活用して、マニュアルの構成を練り、章立て等の骨子を作ったあと、JICAインドネシア事務所に協力を依頼しては」と提言しておいた。

まとめとして、今回、プロジェクトサイトでインタビューを行ったインドネシア側関係者、特に村民、農民らの草の根の人々が、異口同音に本プロジェクトに携わった協力隊員の活動内容、及び彼らの地域住民へ溶け込む姿勢に強い人間的な印象を受け、その協力姿勢を高く評価していた。彼ら村落の住民が、既に帰国した協力隊員の氏名をあげて、調査団に謝意を伝達する場面がしばしばあった。これらを通じて、本プロジェクトに参加した協力隊員の誠実な仕事ぶりの成果と協力隊活動の真骨頂を見た印象を受けた。

目 次

序 文

プロジェクトサイト位置図

写 真

インドネシア行政組織図（地域開発及び村落開発分野）

略語表

評価調査結果要約表

団長総括

第 1 章 評価調査実施概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	1
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	2
1 - 5 調査内容及び方法	3
1 - 5 - 1 調査内容	3
1 - 5 - 2 調査方法	4
1 - 6 評価項目	5
1 - 6 - 1 技術協力的側面の評価項目	5
1 - 6 - 2 協力隊チーム派遣における人的交流促進・ 国際協力人材育成等の側面の評価項目	6
第 2 章 プロジェクトの技術協力的側面の評価	7
2 - 1 プロジェクトの計画達成度	7
2 - 1 - 1 投入実績	7
2 - 1 - 2 活動実施状況	8
2 - 1 - 3 成果達成状況	10
2 - 1 - 4 プロジェクト目標の達成状況	12
2 - 1 - 5 上位目標及びスーパーゴールの達成見込み	12
2 - 2 評価 5 項目による評価結果	13
2 - 2 - 1 妥当性	13
2 - 2 - 2 有効性	14

2 - 2 - 3	効率性	16
2 - 2 - 4	インパクト	17
2 - 2 - 5	自立発展性	18
第3章	協力隊チーム派遣における人的交流促進・国際協力人材育成等の側面の評価	19
3 - 1	人的交流促進について	19
3 - 2	協力隊チーム派遣における国際協力人材育成について	19
3 - 3	プロジェクトを協力隊チーム派遣で実施した妥当性について	20
第4章	プロジェクト終了後の対応	21
第5章	提言・教訓	22
5 - 1	提言	22
5 - 2	教訓	22
付属資料		
1.	終了時評価用のPDM及び評価グリッド	27
2.	プロジェクトの計画達成度	30
3.	終了時評価（フォローアップ期間分）ミニッツ（2002年4月8日署名）	31
4.	フォローアップ・ミニッツ（1999年12月6日署名）	48
5.	終了時評価ミニッツ（1999年12月6日署名）	55
6.	アンケート集計結果（JOCV）	83
7.	アンケート集計結果（カウンターパート）	87

第 1 章 評価調査実施概要

1 - 1 調査団派遣の経緯と目的

南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクトは、インドネシア共和国（以下、「インドネシア」と記す）における初の協力隊チーム派遣プロジェクトとして、インドネシア政府内務省主管の「地域総合開発計画」を支援し、南スラウェシ州バル県内 6 か村（*）の農業収入向上に貢献する目的で1995年 1 月から1999年12月までの 5 年間にわたり実施された。

（*南スラウェシ州バル県内 6 か村：トンポ村、ガルン村、パラッカ村、アナバヌア村、ハラパン村、リブレン村）

2000年 1 月からは、進行が遅れている一部の活動について補完的な協力（フォローアップ）を行い、これが2001年12月末をもって終了した。

本調査団は、フォローアップ期間における活動内容の達成状況の把握、プロジェクト終了後の対応方針策定、及び本プロジェクトでとられたアプローチや活動内容から類似案件の参考となる教訓を導き出すことを目的として派遣された。

1 - 2 調査団の構成

氏 名	担 当	所 属
辻岡 政男	総括	国際協力事業団青年海外協力隊事務局調査役
柿田 美恵子	派遣計画・業務調整	国際協力事業団青年海外協力隊事務局海外第二課
柿沼 潤	評価分析	株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション 研究員

1 - 3 調査日程

月日(曜)	時間	日 程	宿泊地
4月1日(月)	午後	出国(成田 ジャカルタ)	ジャカルタ
4月2日(火)	午前 午後	JICAインドネシア事務所表敬訪問 JICAインドネシア事務所での打合せ 移動(ジャカルタ マカッサル)	マカッサル
4月3日(水)	午前 午後	移動(マカッサル バル) バル県知事表敬訪問 調査 トンポ村ペレマリンポ集落(生活用水事業) トンポ村バラン集落(育苗所) ガルン村ガルン集落(生活用水事業)	バル
4月4日(木)	終日	調査 パラッカ村チャミン集落(山羊飼育普及事業) ガルン村ガルン集落(野菜栽培・アクサン氏) パラッカ村カレンゲ集落(灌漑施設改修事業) アナバナア村バンガバンガエ集落(バリ牛普及事業) アナバナア村ゲレンゲ集落(生活用水事業)	バル
4月5日(金)	終日	評価ミーティング(BAPPEDA会議室)	バル
4月6日(土)	午前 午後	ハラパン村トンポレモレモ集落(市場)視察 移動(バル マカッサル) 移動(マカッサル ジャカルタ)	ジャカルタ
4月7日(日)	終日	ミニッツ(案)検討・修正	ジャカルタ
4月8日(月)	午前	ミニッツ協議・締結(BANGDA会議室)	ジャカルタ
4月9日(火)	午前 午後	JICAインドネシア事務所への報告 在インドネシア日本大使館表敬訪問 帰国(ジャカルタ)	機中泊
4月10日(水)	午前	成田)	

1 - 4 主要面談者

(1) インドネシア側

Drs. Sumarsono, MDM Director for Synchronized of Regional Development, Ministry of Home Affairs and Regional Autonomy

Mr. H.A. Muhammad Run Head, Government of Barru District, South Sulawesi Province

Mr. H.A. Mappedjeppu Head of Economic Division, BAPPEDA at Provincial Level, South Sulawesi Province

Mr. H.Andi Bau Oddang	Head of BAPPEDA at District Level, Barru District, South Sulawesi Province
Mr. Abustan	Head of Sub-District, Government of Barru District, South Sulawesi Province
Mr. Gunawan	Counterpart assigned the Project
Mr. Syafruddin	Counterpart assigned the Project
Mr. Hasanuddin	Counterpart assigned the Project

(2) 日本側

釜石 英雄	在インドネシア日本大使館一等書記官
神長 健夫	在インドネシア日本大使館書記官
神田 道男	JICAインドネシア事務所所長
大竹 祐二	JICAインドネシア事務所次長
星 賢	JICAインドネシア事務所ボランティア調整員
武田 長久	JICA派遣専門家（内務省地域開発政策支援）
岡本 正明	JICA派遣専門家（スラウェシ地域開発政策支援）
芳島 昭一	シニア隊員（チームリーダー）
加藤 和美	一般短期隊員（プログラムオフィサー）

1 - 5 調査内容及び方法

1 - 5 - 1 調査内容

フォローアップ・ミニッツに記載されているプロジェクト目標を踏まえてプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）を作成し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から技術協力的側面の調査を行った。

また、帰国隊員へのアンケート・聞き取り調査により、チーム派遣における人的交流促進・国際協力人材育成の側面から調査を行った。

本調査は、インドネシア側関係者と合同で行う合同評価調査の形式をとり、インドネシア側と合同でフォローアップ協力の実施状況や調査結果、今後の対応方針について協議し合意に至った（付属資料3参照）。

調査結果から導き出された教訓及び提言は、今後の協力のあり方やチーム派遣の実施方法改善に資することが期待される。

1 - 5 - 2 調査方法

(1) 事前国内準備

- 1) 関係資料の収集・整理と内容把握
- 2) PDMの作成
- 3) 評価5項目に基づく評価グリッドの作成
- 4) 帰国隊員への聞き取り調査

(2) 現地調査

- 1) 現場視察
- 2) シニア隊員への聞き取り調査
- 3) カウンターパート(C/P)への聞き取り調査
- 4) 農民への聞き取り調査
- 5) プロジェクト関係者との協議
- 6) 評価結果及び今後の対応策の大枠についての合意形成

(3) 帰国後国内作業

- ・ 評価結果の取りまとめ

1 - 6 評価項目

1 - 6 - 1 技術協力的側面の評価項目

評価項目		具体的調査留意点
1 妥当性	1-1 インドネシアのニーズとの整合性	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア政府、南スラウェシ州、及びパル県の開発政策との整合性はあるか。 ・プロジェクト目標はターゲットグループ（農民）のニーズに合致しているか。 ・ターゲットグループの選定は適正であるか。
	1-2 日本の援助事業としての妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の援助政策・国別援助実施計画との整合性はあるか。 ・公平性の観点から妥当であるか。 ・日本に農業（畜産・野菜栽培等）等や村落開発の技術のノウハウが蓄積されているか。
2 有効性	2-1 プロジェクト目標	・プロジェクトの支援を受けた農民に、プロジェクト目標の達成度合いは期待された効果であったか。
	2-2 成果	・プロジェクト目標への効果は、フォローアップ期間の成果（バリ牛普及事業・山羊銀行の普及、野菜・食用作物の普及、育苗所の運営強化、住民活動の継続・拡充）によって引き出された効果であるか。
	2-3 外部条件の影響	・プロジェクト目標に至るまでの外部条件の影響はあるか。
	2-4 貢献・阻害要因	・プロジェクトの有効性に影響を与えた貢献・阻害要因は何か。
3 効率性	3-1 投入のタイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及びインドネシア側の投入時期は計画どおりであったか。 ・投入時期は適切であったか。
	3-2 投入の質・量と成果の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及びインドネシア側の投入量・質は計画どおりであったか。 ・投入の規模や質は適切か。 ・日本側投入が協力隊派遣であったことは適切であったか。
	3-3 外部条件の影響	・活動から成果に至るまでの外部条件の影響はあるか。
	3-4 貢献・阻害要因	・プロジェクトの効率性に影響を与えた貢献・阻害要因は何か。
4 インパクト	4-1 上位目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・農民の生活向上はプロジェクト目標達成によるものか。 ・予期しなかったプラス及びマイナスの影響は何か、またその要因。
	4-2 プロジェクト目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの支援を受けた農民に何か変化が起きたか。 ・プロジェクトにかかわった組織に何か変化が起きたか。
	4-3 外部条件の影響	・上位目標に至るまでの外部条件の影響はあるか。
	4-4 貢献・阻害要因	・上位目標の達成に影響を与えた貢献・阻害要因は何か。
5 自立発展性	5-1 効果の持続性	・プロジェクト目標、上位目標等のプロジェクトがめざしていた効果は、更に上のスーパーゴールに向かい援助終了後も持続するか。
	5-2 制度的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・地域開発に対する政策に変化はないか。 ・インドネシア側だけで事業を運営管理する体制は整っているか。 ・技術移転されたスタッフは援助終了後も定着して、地域開発に携わるか。
	5-3 財政的側面	・インドネシア側だけの予算で事業を継続できるか。
	5-4 技術的側面	・導入技術は住民ニーズに合致し、発展する見込みがあるか。
	5-5 貢献・阻害要因	・自立発展性に影響を与えた貢献・阻害要因は何か。

1 - 6 - 2 協力隊チーム派遣における人的交流促進・国際協力人材育成等の側面の評価項目

(1) 人的交流促進について

協力隊事業において期待される成果のひとつである隊員活動を通じた隊員と現地の人々との交流・親善について、隊員報告書、帰国隊員と派遣中隊員へのインタビュー及びアンケートにより把握し、評価分析した。

(2) チーム派遣における国際協力人材育成について

一般的に隊員は個別に派遣され、活動に関する計画・方針を個々の隊員が計画を立て、実施している。これに対し、複数の隊員でプロジェクト方式の協力を行うチーム派遣のメリット・デメリットを、国際協力における人材育成の観点から隊員個人への影響について、帰国隊員と派遣中隊員へのインタビュー及びアンケートによって把握し、評価分析した。

(3) プロジェクトを協力隊チーム派遣で実施した妥当性について

プロジェクトの実施を協力隊チーム派遣で行った意義について、また協力隊チーム派遣に関するメリット・デメリット、チーム派遣事業の改善点に関して、帰国隊員と派遣中隊員及びC/Pへのインタビュー及びアンケートによって把握し、評価分析した。

第2章 プロジェクトの技術協力的側面の評価

2 - 1 プロジェクトの計画達成度

今回のフォローアップ期間終了時評価調査のために作成したPDMの指標に従い、投入、活動、成果、プロジェクト目標について計画の達成状況を調べ、以下の結果を得た。

2 - 1 - 1 投入実績

(1) 日本側の投入

1) 協力隊員の派遣

チームリーダー（2名）、食用作物（1名）、野菜（1名）、村落開発（2名）の各分野の隊員が（フォローアップ以前から活動し、フォローアップ期間に派遣期間が終了した隊員と、この期間に派遣された隊員を合わせて）6名派遣された。このうちチームリーダーはシニア隊員である。後半のチームリーダーは、適任者のリクルートが遅れ、日本国内で前任者と業務引き継ぎを行った。また、村落開発隊員1名は任期より4か月ほど早く帰国した。全体としてみれば、ほぼ計画どおりの派遣がなされた。

2) 機材の供与

育苗所に配置された2台のトラクターエンジンが盗まれたことにより、トラクターエンジン1機が供与された。フォローアップ期間ということもあり、新たな投入は最低限にし、以前に投入された機材を用いて業務を遂行した（福井県の協力隊を育てる会からオクラ販売支援のため、車両が供与された）。

3) 研修員の受入れ

フォローアップ期間中に、畜産分野で1名のC/Pを受け入れた。

4) ローカルコストの負担

国内研修、生活用水、家畜飼育、食用作物、野菜栽培、育苗所運営などの事業補助として、2000年1月1日～2001年12月31日までに1億3,534万1,945ルピア（2002年4月JICA基準・統制レートで1US\$ = 9,300ルピア）が支出された。

(2) インドネシア側の投入

1) 土地、建物、施設の提供

2001年12月に県政府の予算により育苗所の施設内に、屋根付の育苗小屋を新たに建設した。

2) C/Pその他の人員配置

フォローアップ期間以前同様、内務省地域開発企画局（BAPPEDA）の臨時雇用であり

ながら、隊員と共に活動するフルタイムC/Pが3名(畜産担当1名、野菜及び食用作物担当2名)配置されている。また、2001年から県政府は育苗所長を1名任命した。

3) 予算措置

プロジェクトのランニングコストとして、フォローアップ期間に9,375万ルピアが配分された。この金額には、育苗小屋の建設費(3,500万ルピア)も含まれている。

2 - 1 - 2 活動実施状況

成果項目達成のために実施された活動内容は、表2-1「活動実施状況整理表」の活動の実績欄に示すとおりである。

表2-1 活動実施状況整理表

活動項目	活動の実績	活動が成果につながった度合		フォローアップの必要性
		成果への貢献	成果へ結びつかなかった面と理由	
1.バリ牛普及事業・山羊銀行の運営を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・C/Pが中心にモニタリングを継続して行った。 ・パソコンに運営状況を入力した。 ・牛87頭、山羊19頭がリボルビングされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリ牛普及事業のニーズが高く、農民が積極的に参加を希望した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山羊の死亡率が高く運営が思わしくなかった。 	C/Pの身分保障問題をモニタリングする必要がある。
2.牛・山羊の適切な飼育管理を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・C/Pが日本での研修を基盤に「栄養指導」等を継続して行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C/Pが日本で学んだ技術が活用された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山羊に関する農民の意識が低かった。 	
3.新たに導入した作物(アカワケギ、チリ、メロン、オクラ等)の栽培及び普及を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・アカワケギの栽培普及事業を実施した。 ・オクラグループによる市場開拓・普及活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の農家にアカワケギの栽培技術が定着した。 ・オクラ栽培は若い女性の現金収入源となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカワケギの市場価格が暴落した。 ・オクラが農民の嗜好にあまり合わなかった。また、市場への交通手段が限られていた。 	C/Pの身分保障問題をモニタリングする必要がある。
4.園芸作物のマニュアルを作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫診断カードを作成した。 ・農薬早見表を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農民自身が病害虫を判断できるようになった。 ・正しく農薬を使うことができるようになった。 		
5.農民に研修を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物直販活動を支援した(農家7件参加)。 ・「タカラール県」見学を行った(農家8件参加)。 ・農薬勉強会を行った。 ・栽培技術の巡回指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の市場、野菜栽培に対する技術・意識の向上があった。 ・農家に正しい農薬の知識が身に付いた。 		

6. 育苗所の運営について助言する	<ul style="list-style-type: none"> ・BAPPEDAと県の調整のための会議を頻繁に行った。 ・堆肥を作成した。 ・トラクターの貸し出し事業を行った。 ・新品種野菜苗（トウガラシ、メロン、オクラ、ランブータン等）の研究・普及を行った。 ・2001年トウガラシ、オクラ、ナス苗の合計販売本数は10,300本であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗所が正式に県の所有物となり育苗所長や予算が配備された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗所のアクセスや治安が悪く、計画していた活動が停滞した。 ・堆肥作成の講習を行うなど、普及には至らなかった。 ・トラクターのエンジンが盗難された。 ・苗の注文に供給が追いつかない状況であった。 	育苗所に配備した車両を活用すること
7. 育苗所の給水施設を設置する	<ul style="list-style-type: none"> ・水源修理及び貯水槽の工事を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水源が確保され育苗所の運営が円滑になった。（ただし工事に手間どり2年を要した） 		
8. 灌漑施設を修理する	<ul style="list-style-type: none"> ・灌漑施設のモニタリングを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農民が独自に委員会を設置し掃除や簡単な改修工事を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の予算がなかなか下りず、大規模な改修が行われなかった。 	
9. 生活給水施設を設置する	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに設置された5か所の給水施設の運営状況をモニタリングした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農民が自主的に運営管理を行い受益した。 		
10. 農民会議を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・住民会議の促進やプロポーザルの作成指導を行った。 ・カシューナッツの女性支援事業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の灌漑施設改修が開始された。 ・住民会議やワークショップが開催された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・灌漑施設改修のための工事が中断した。 ・話し合いの結果、カシューナッツ加工を終了し、簡易食堂運営に変更したが、実現しなかった。 	

2 - 1 - 3 成果達成状況

フォローアップ・ミニッツに記載されたフォローアップ協力の目標（表2 - 2）と活動計画（表2 - 3）及び終了時評価のPDMを参考に、本調査に際しフォローアップ協力評価用のPDMを作成した。このなかで、成果は次の4項目である。

- ・成果1：産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される。
- ・成果2：隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される。
- ・成果3：隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される。
- ・成果4：村の集落が行う自助活動（施設の維持・管理、住民組織の強化等）が継続され、更に拡充される。

成果の達成状況を測る指標については、当初から各活動計画における数値目標が設定されていなかったことから、以下の項目について調査で入手した数値で評価を行った。

- ・成果1：2001年末までの牛と山羊の配布数
- ・成果2：2001年末までに普及研修に参加した農家の数
- ・成果3：2001年末までに農民に配布された野菜・食用作物の苗の数
- ・成果4：2001年末までに農民委員会が将来活動を維持するための計画を作成すること

(1) 成果1

- ・バリ牛普及事業は、プロジェクト開始当初（1996年及び1997年）に農民へ配られた100頭のメス牛が、フォローアップ期間に87頭の子牛へリボルピングされ、順調に普及しているといえる。農民や県の畜産局からも評判が良く、牛の配布を待つ農家が増えている。
- ・他方、山羊は上手くいっている農家がわずかに見られる程度である。原因は、導入した山羊の種類が土地の環境に適応しなかったこと、雨期の下痢が原因で当初導入された親山羊や子山羊の死亡率が高かったことにある〔親山羊59匹中26匹死亡（44%）、子山羊73匹中16匹死亡（22%）〕。リボルピングされた子山羊は19匹であった。C/Pによれば、「飼育意識や技術の指導で良くなる傾向がある。パラッカ村では、5グループ中3グループは成功している。トンポ村は最近減少している」とのことであった。
- ・特筆すべきことは、C/Pがフォローアップ期間に日本で3か月間研修を受け、帰国後のモチベーションが非常に高くなり、担当の隊員は既に帰国していたが自主的にプロジェクト活動を継続し、成果をあげてきたことである。

(2) 成果 2

- ・農作物の直販研修（7件の農家が参加）、タカラール県の見学（8件の農家が参加）や農薬勉強会に参加した農家が篤農家として自立を始めており、栽培技術は育苗所の技術と比較して高くなっている。
- ・トウガラシ、アカワケギ、トマト、ナス、メロンの作物及び野菜は、一般農家に普及している。特にアカワケギ、トウガラシの評判が良く、村の朝市でも販売されていた。
- ・オクラに関しては、女性グループや篤農家が中心に市場開拓や普及活動を行っているが、住民の嗜好や販売手段など今後の課題も残されている。しかし、オクラの栽培は、若い女性たちの現金収入源となり役立っている。

(3) 成果 3

- ・給水施設が2年間を要して完成した。
- ・育苗所では、堆肥作り、オクラやメロンのような新種作物の紹介、トラクター貸し出しが行われた。
- ・2001年に販売された苗の本数は1万300本（トウガラシ、オクラ、ナス）であった。
- ・県政府は、育苗所の運営管理に2001年から力を入れ、所長の任命や育苗小屋建築を独自の予算で行った。2002年度の栽培計画も文書で報告されている。
- ・県知事は更に、近い将来、この育苗所を食用作物、野菜・果樹及び林業のセンターとして強化することを明確にしている。

(4) 成果 4

- ・1997年に建設されたダム及び灌漑施設は、翌年の洪水で被害を受け、2001年まで放置されていたが、C/Pが県に報告したため、改築資材購入費用の予算が計上された。工事は、ダム・灌漑利用委員会が自分たちで実施する。また、日ごろから施設の簡単な保全や掃除は自主的に行われている。
- ・生活給水施設は、それぞれの村で委員会を設置し会計等の役割を決め、住民により組織的に運営管理されている。住民のニーズと大変良く合致していたことが成果につながっている。
- ・拡充された市場は、利用者が増え、朝市の開催時間が以前よりも3時間長くなった（ハラバン村トンポレモレモ集落）。

表 2 - 2 フォローアップ協力の具体的な到達目標

- (1) 産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動を促進すること
- (2) 隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の配布活動を継続すること
- (3) 隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培の普及のための活用を促進すること
- (4) 村の集落が行う自助活動を継続し、更に拡充すること

表 2 - 3 フォローアップ協力において協力隊が行う活動

- (1) リボルピングシステムによる牛・山羊の分配を支援すること
- (2) アカワケギ、メロン、チリなど、隊員が導入した野菜栽培の向上を支援すること
- (3) 育苗所の運営について助言すること
- (4) プロジェクトにより建設された施設の維持・修復のための技術支援を行うこと
- (5) 村民の組織を強化すること
- (6) 農民がプロジェクトの経験を普及するよう働きかけること

2 - 1 - 4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標は、前回の終了時評価の目標と同様に以下のとおりとした。

プロジェクト目標

「村・農民の経済活動が活性化される」

指標は表現を前回の終了時評価より具体的に以下のように設定した。

- ・ 農民の経済活動に関する資材やインフラの量や質が改善される。
- ・ 農民組織の機能が高くなる。

バリ牛・山羊の飼育普及や野菜・食用作物栽培方法の普及、育苗所の運営、灌漑施設・生活給水施設の維持・管理により、インフラストラクチャーや情報を村・農民に提供した。また、生産活動やインフラストラクチャーを維持するために農民グループは自主的に委員会を組織して運営管理を行っている。これらによって、村・農民の経済活動は活性化している。山羊銀行の普及や育苗所運営に多少の課題は残されているが、全体として、目標はほぼ達成されたといえる。

2 - 1 - 5 上位目標及びスーパーゴールの達成見込み

前回の終了時評価の際はマスタープランに従い、上位目標は「農民の収入向上」としていた。しかし、本調査団の派遣前対処方針会議で、前回の終了時評価調査団の提言を踏まえて、広義でのプロジェクトから受ける農民の便益を考慮し、以下のように上位目標とスーパーゴールを

変更し設定した。

スーパーゴール

「バル県農民の生活レベルが向上する」

上位目標

「農民の生活レベルが向上する」

これまでのプロジェクトの成果から、上位目標の達成見込みは高いと推察される。

また、現在の県知事をはじめ多くの中央及び地方行政関係者が、本プロジェクトをバル県全体や南スラウェシ州のモデルにしたいと述べていることから、今後もプロジェクトの成果をインドネシア側関係者が自主的に維持・普及していくことが期待される。

2 - 2 評価 5 項目による評価結果

2 - 2 - 1 妥当性

(1) インドネシアのニーズとの整合性

2000年11月に制定されたインドネシア国家開発計画（PROPENAS）において「生産者の所得向上とともに、単一作物への依存や気候変化への脆弱さに起因する食糧問題への弾力的な対応力を高めたい」としていること（第4次インドネシア国別援助報告書）や、2000年から施行された地方分権化政策（法律第22号及び2号）及び本プロジェクトの目的はバル県の地域総合開発計画（PPWT）を支援することであるということから、本プロジェクトはインドネシアのニーズとの整合性があるといえる。しかし、C/P機関のBAPPEDAとプロジェクトチームのコミュニケーション不足や連携がプロジェクト実施段階で課題となった。

プロジェクト目標は、ターゲットグループである農民のニーズにも広範囲で合致している。

また、プロジェクト対象地域は6村にしたが、当初日本が考えていた4村（トンボ村、ガルン村、アナバヌア村、パラッカ村）は成果があがり、インドネシア側の要求で追加された2村（リブレン村、ハラパン村）は活動の実績も少なかったことから、計画段階での調整が必要であった。

(2) 日本の援助事業としての妥当性

我が国のインドネシアに対する援助の重点分野として、「公平性の確保」があり、具体的には、「貧困撲滅（貧困層の生活改善）」や「東部インドネシアの開発（地域間格差是正）」があげられている。また、JICAインドネシア事務所の開発重点地域は、南スラウェシ州であり、本プロジェクトの妥当性は高い。

一部の作物や山羊に関してはニーズに合わないものもあったが、ほとんどの野菜や畜産、村落開発技術は、農民へのインタビューやC/Pへのアンケート結果からレベル等がシンプルで理解しやすく、妥当であったという回答が多かった。

2 - 2 - 2 有効性

(1) プロジェクト目標

フォローアップ期間の支援により、プロジェクト目標は以前の5年間を補完する意味で十分農民に期待された効果が現れている。例えば、「野菜・食用作物の生産販売が独立して行われるようになった」、「灌漑施設の改修により稲作が二期作から三期作になった」など、具体的に経済活動が活発化された事例を調査結果から得ている。

(2) 成果

フォローアップ協力期間中の成果は、多少の差があるものの全体的に効果をあげてきた。これらの4つの成果（バリ牛・山羊の飼育普及、野菜・食用作物の普及、育苗所の活用促進、村民組織の強化）はプロジェクト目標達成に有効であった。

(3) 外部条件の影響

PDMの外部条件にある、臨時雇用のC/Pが働き続けるという条件が維持されたことが、畜産、野菜・食用作物の成果を達成しプロジェクト目標に至る大きな役割を果たした。しかし、彼らの身分は正式職員ではなくいまだ不安定なままである。

(4) 貢献・阻害要因

影響を与えた貢献要因は、2001年から行われ始めた県政府の育苗所に対する支援があげられる。また、篤農家の1人は、日本の農協の招待で5年前、福井県の農業試験場で1年間研修を受けていたことから技術レベルも高く、隊員が新しい作物を試作する際は、その篤農家に畑を利用させてもらい栽培協力を依頼していたことや、オクラ販売支援のため、福井県（隊員の出身地）の協力隊を育てる会から車両が提供されたことも貢献要因としてあげられる。

逆に阻害要因は、C/Pの給料遅配や雇用問題が、能力や意識の高いC/Pに生活の不安を与えている。

表 2 - 4 有効性

プロジェクトの各「成果」が「プロジェクト目標」達成につながった度合い		
バリ牛・山羊の飼育普及や野菜・食用作物栽培方法の普及、育苗所の運営、灌漑施設・生活給水施設の維持・管理により、インフラストラクチャーや情報を村・農民に提供した。また、生産活動やインフラストラクチャーを維持するために農民グループは自主的に委員会等を組織して運営管理を行っている。これらによって村・農民の経済活動は活性化している。		
成果の達成度	プロジェクト目標達成の貢献要因	プロジェクト目標達成の阻害要因
<p>成果 1 : 「産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される」</p> <p>87頭の子牛がリボルピングされた。 19匹の子山羊がリボルピングされた。 C/Pのモチベーションが高く自主的にプロジェクトを継続した。</p>	<p>バリ牛普及事業は住民のニーズに合っていた。 C/Pが日本で研修を受け技術と意識が改善された。</p>	<p>山羊の種類が合わなかったこと、子山羊の下痢が多いこと、住民の飼育意識が低いことなどで死亡率が高かった。 C/Pの給与支払いが遅れた。身分も不安定である。</p>
<p>成果 2 : 「隊員がこれまで導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される」</p> <p>農作物の直販研修、他県への見学に参加した農家が篤農家として、自立を始めている。 トウガラシ、アカワケギ、トマト、ナス、メロンの作物及び野菜は一般農家に普及し、特にアカワケギ、トウガラシの評判は良く朝市でも販売されている。 オクラ販売が女性グループにより継続され、特に女性グループの現金収入源となっている。</p>	<p>C/Pが巡回指導を継続した。 篤農家の1人は5年前、日本の農協の招待で1年間研修を受けたため、技術レベルが高い。 農民のモチベーションが高い。 作物の品質が良い。 福井県の協力隊を育てる会がオクラ販売のため車両を供与した。</p>	<p>C/Pの給与支払いが遅れた。身分も不安定である。 オクラは住民の嗜好に合いにくく、市場開拓や普及、販売の交通手段に苦勞している。</p>
<p>成果 3 : 「隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される」</p> <p>給水施設が完成した。 2001年に10,300本の苗(トウガラシ、オクラ、ナス)が販売された。 県が育苗所長を任命した。 県が屋根付育苗小屋を建築した。 県が育苗所を多目的農業開発センターとして活用する計画を立てた。</p>	<p>苗が安く農民のニーズに合っていた。 地方分権化に伴い県が予算等の協力を行えるようになった。</p>	<p>育苗所が、県都からのアクセス、給水、治安の悪い所に建設されたため、運営活動が停滞した。 育苗所の技術レベルが周辺の農家より低い。</p>
<p>成果 4 : 「村の集落が行う自助活動が継続され更に拡充される」</p> <p>ダム・灌漑施設の改修が行われることとなった。 生活給水施設が住民自らの水利用委員会設置で維持管理されている。 拡充された市場の利用者が増え、朝市の開催時間が以前より3時間長くなった。</p>	<p>県が灌漑施設改修資材購入のための資金を予算に計上した。 農民のニーズとプロジェクト目的が合致していた。 技術レベルが適性であった。</p>	<p>小規模な維持管理は自主的に行われたが、大規模な改修は県が支援を示すまでは放置されていた。 協力隊員が任期より早く帰国した。</p>

2 - 2 - 3 効率性

(1) 投入のタイミング

協力隊の派遣に関し、全体としてみればほぼ計画どおりの派遣がなされたが、プロジェクト終了近く（2001年2月）にシニア隊員（チームリーダー）が交代し、その後任派遣が遅れ、現地で2か月間リーダー不在になったことがプロジェクトの効率性を低くした。

インドネシア側のプロジェクトに関連する予算執行は常に遅れがちであり、屋根付き育苗小屋建築が、プロジェクト終了間際になった。

(2) 投入の質・量と成果の関係

機材の供与に関し、新たな投入は最低限にし、以前に投入された機材を用いて業務を遂行したことはフォローアップ協力という位置づけから妥当であった。

育苗所建設のミスロケーションが、県知事を含め多くの関係者から指摘された。傾斜地にあり、初めは給水施設がなかったこと、住民や職員がアクセスしにくいこと、周辺の治安が悪く盗難の被害があったことで、育苗所の運営は停滞していた。これらの課題を解決するための水源確保、給水施設の設置、格子窓の設置等で隊員の多くの活動時間が費やされてしまった。また、治安が悪いことが原因で、プロジェクトの車両が育苗所に配置されず、10km以上も離れた街中にある県の庁舎に置かれ、普及活動に利用されていない。

村落開発隊員が任期より4か月早く帰国したため、シニア隊員がその業務を補填した。一方、ほとんどの隊員は農民の生活に溶け込み、大変友好的であり、技術指導も親切であったと評価されている。

また、隊員のアンケートに、プロジェクト内容が協力隊チーム派遣による協力には大きすぎるといった回答もあったが、農民へのインタビューから最大の貢献要因は隊員による住民に密着した「顔の見える援助」だったと思われ、協力隊を投入したことは適切であったと判断できる。

(3) 外部条件の影響

2001年9月に米国で起きたテロ事件をきっかけに、米国を支持する日本に対しても反発が強くなった。マカッサルの日本国総領事館が襲撃に遭ったことで、南スラウェシ州の隊員全員が自宅待機や外出自粛になり、プロジェクト活動が停滞し、上記事件はプロジェクトの効率性にマイナスの影響を与えた。

(4) 貢献・阻害要因

貢献要因は、県政府の予算や人員配置の投入である。

阻害要因は、既に記述したとおり、チームリーダーの交代、予算執行の遅れ、隊員の早期帰国、車両の配備、治安悪化があげられる。

2 - 2 - 4 インパクト

(1) 上位目標レベル

農民へのインタビューから生活給水に関しては、以前よりも健康になった（水が原因の病気が減少した）、水くみ労働が軽減されたなどのポジティブ・インパクトがあり、灌漑や野菜栽培農家からは収入の向上に伴う生活の改善（子供の教育費、好きなものを買える、国レベルの不景気を感じない）があることが分かった。

育苗所は、前述のとおりいくつかの課題が残されているが、プロジェクトのシンボリック施設を建設したことで、大きなインパクトがあったと県知事も評価をしていた。これまで苗は必要に応じて個別に作られていたが、育苗所に行けば苗を入手できることを周辺の農民は知っている状態になった。また、今後、育苗所を多目的農業開発のセンターにするという計画は上位目標に大きな影響を与えている。

(2) プロジェクト目標レベル

個々の農民やプロジェクトと一緒に活動した人々（C/P等）にインタビューやアンケートを行った結果、ポジティブなインパクトでは隊員に影響され、規律（Discipline）正しくなったという回答が多くみられた。この他、記録をとる習慣、時間管理、仕事の仕方が身に付いたというインパクトも報告された。ネガティブ・インパクトでは依存心が強くなったという回答もあった。

(3) 外部条件の影響

外部条件で最も関連すると思われることは、政府の地方分権化政策である。これにより、県政府の開発政策や予算執行の状況が大きく影響された。

(4) 貢献・阻害要因

上位目標の達成に向けての貢献要因は、本プロジェクトに高い関心と理解を示している現職の県知事の影響が大きいと思われる。また、住民組織運営（生活給水）に若い世代も中心的役割を担っていることも貢献要因としてあげられる。

阻害要因は、篤農家は育苗所から苗を購入しているが、育苗所職員は一度もこの高い栽培技術を有した農家を訪問したことがなく、情報交換や技術交流が進んでいないことであり、これはプロジェクトの波及効果を停滞させる原因となっている。

2 - 2 - 5 自立発展性

(1) 効果の持続性

農民のニーズが高かったバリ牛普及事業、野菜・食用作物栽培方法の普及活動や生活給水施設の維持・管理については、モチベーションも高く、インタビューを行うと、ほぼすべてのプロジェクトサイトで「JICAの支援がなくとも自分達で継続できる」という回答が得られた。実際、2年前から既に、隊員は引き上げているが十分に組織運営されている。バリ牛普及事業は、C/Pの努力により普及活動が進んでいる。また、C/Pは食用作物及び野菜農家に巡回指導を継続(病虫害等)しており、篤農家も完全に独立経営をしている。

(2) 制度的側面

2000年1月から施行された地方分権化政策により、県政府の権限が強化され、育苗所を地域の多目的農業開発センターにするという構想が具体化しようとしている。しかし、現在の日常的運営管理はまだ円滑ではないので、県政府の指導力が期待されている。

(3) 財政的側面

予算執行も現在、県政府によって決定されている。地方分権化が自立発展性を促進し、活動の成果を普及することが期待されている。

(4) 技術的側面

今回の調査のインタビューやアンケート結果から、JICAの協力がなくとも農民やC/Pにより技術は維持できるという回答が多かった。今後の課題は、前回の終了時評価同様、臨時雇用C/Pの身分保証問題である。C/Pが正式な県職員になることが、プロジェクトの普及活動に不可欠な要因とJICA関係者のみならず、相手国政府も認めているが、いまだに解決はしていない。知事によれば、正式には公務員試験に合格することや、県議会、NGO等の了承が必要とのことで、現在も未解決の状況である。

(5) 貢献・阻害要因

自立発展性に影響を与えた貢献要因は、農民のニーズとプロジェクト内容が合致したこと、県知事が協力的にリーダーシップを発揮していること、不安定な身分にもかかわらずC/Pが活動を継続していることである。

阻害要因は、C/Pの身分保証問題があり、プロジェクト終了後解雇されれば、プロジェクト効果の現状維持や自立発展性に大きなマイナスとなる。その他、農民と育苗所の交流が少ないことがあげられる。

第3章 協力隊チーム派遣における人的交流促進・ 国際協力人材育成等の側面の評価

本プロジェクトのフォローアップ期間に携わった隊員（派遣中隊員を含む）の6名中4名を対象にアンケート（付属資料6）及びインタビューを行い、回答を得た。この他、前回の終了時評価に参加したシニア隊員（プロジェクト調整員）から現地調査前に話をうかがった。さらに、現地調査でC/Pのアンケート（付属資料7）及びインタビューを行った結果は以下のとおりである。

3-1 人的交流促進について

派遣中の隊員は、対象3村で「映画祭」を行い、日本映画を紹介し、約200名の村人が鑑賞した。

帰国隊員に関しては、畜産隊員がC/Pの研修に付き添いで通訳等の支援を行ったことが、フォローアップ期間の成果達成に大きく寄与した。また、帰国隊員のなかには、再びプロジェクトサイトを訪問して、インタビューを行い農民との交流を継続している場合もある。

プロジェクトとは直接関係ないが、日本の県立農林業学校とインドネシアの農業高校とが姉妹校になっているので、文化交流会を開催する準備を支援しているという事例もあり、人的交流は様々なレベルで現在も活発に行われている。

3-2 協力隊チーム派遣における国際協力人材育成について

フォローアップ期間に派遣された6名中1名の自営業者を除いて他5名が、現在、国際協力に関係する仕事（専門家、一般短期隊員）に携わっている、若しくは大学院等に進学して開発関連について学んでいる。

個別派遣と比較して、チーム派遣活動のメリットとして、最も多かった回答は「入ってくる情報が多い」、次に同数で「個人よりも大きな成果があげられる」、「活動費や機材が付くので、活動がスムーズに行える」、「他の隊員や専門家と知識や経験を共有できる」があげられた。

デメリットは、回答が分散したが、最も多かったのは「人間関係がこじれると活動にも影響がでる」であった。

現在、国際協力に関係する仕事に携わっている、若しくは大学院等で開発関連について学んでいる帰国隊員が多かったことから、本プロジェクトは国際協力人材育成に効果的であったと考えられる。

チームで派遣されたことについて、4名中3名は「非常に良かった」で、1名は「良かった」と回答している。

3 - 3 プロジェクトを協力隊チーム派遣で実施した妥当性について

「目標達成の手段として協力隊員の派遣は妥当だったと思いますか？」という質問に対しては、4名中3名が「妥当」と回答し、1名は「他のスキームがよかった(プロ技)」という回答をした。

チームとしての隊員の派遣期間や派遣時期に妥当でない部分があったという回答が多い。これは、プロジェクト期間中(以前の5年間の協力期間も含め)に隊員の任期が2年間で入れ替わり、それが活動に影響したことを示しているが、本プロジェクトを協力隊チーム派遣で実施したことについておおむね妥当との回答が多かった。

第4章 プロジェクト終了後の対応

ほとんどのプロジェクトの成果は、先方関係機関の協力や農民自身により継続又は普及されていることが、今回の合同評価で確認された。しかしながら、C/Pの雇用、育苗所の車両・運営問題は先方へ提言をしたものの、モニタリングを今後も行いう必要がある。また、モニタリング・評価に関しては、バル県知事から「JICAインドネシア事務所から定期的にモニタリングに訪れてほしい」との要望があった。

以上の課題をフォローするため、そしてC/Pから「今度はシニアエキスパートを送ってほしい」という要望があったことから、現場型ではなく、より高い知識や技術、調整能力を有し、県や州の関係機関との交渉・調整を行うことができる専門家等を派遣し、育苗所の技術・管理運営やプロジェクトの成果の維持・普及を支援することも一案である。その場合、派遣される専門家等が、これまでの経緯をよく把握しているプロジェクトのOB・OG隊員であれば高い効果が期待できる。また、2002年4月から実施されている技術協力プロジェクト「地方公務員人材育成プロジェクト」及びその派遣専門家との連携も有効だと思われる。

必要に応じて、バル県全体にプロジェクトを拡大する基盤ができた際は、再び隊員を数名派遣して、別の地域で村落開発活動を展開することも考えられる。

第5章 提言・教訓

5 - 1 提言

- (1) 臨時雇用のC/Pが不安定な身分にもかかわらず働き続けたことがプロジェクトの目標達成に貢献した。臨時雇用の3名のC/Pを正式に県職員として採用するなどにより身分を保証し、経験を有する人材として今後も最大限に活用することがプロジェクト効果の現状維持や自立発展に有効である。
- (2) 育苗所に配置された車両やプロジェクト事務所のパソコン等の機材は、今後も供与した目的のとおり、育苗所の運営や農業開発のために利用される必要がある。
- (3) プロジェクトの成果を波及させていくためには、育苗所と周辺の農民が頻繁な情報交換や技術交流を行うことが必要である。
- (4) これらC/Pの雇用や育苗所の車両・運営等の課題を定期的にモニタリングすることが必要である。

5 - 2 教訓

- (1) プロジェクトの計画運営は、2年前の終了時評価の提言が生かされず、フォローアップ協力でもチーム派遣プロジェクトとしての認識が低かった。このため、アンケート結果からも分かるとおり、プロジェクト目標や活動計画に対する考えがチームの隊員間で異なっていることが分かった。活動計画は、チームリーダーや隊員の判断で、良い意味では臨機応変にニーズに合わせ、悪い意味では計画が調整されないまま実施された部分が見受けられた。

チーム派遣の効果をあげるためには、PDMを活用し、プロジェクト目標や活動計画等の情報をチーム内及び相手国側が共有し、その内容を十分認識して活動を行う必要がある。

- (2) 2年間のフォローアップ期間中に、シニア隊員(チームリーダー)の交代があったことは、プロジェクト運営上効率的ではなかった。前半のシニア隊員は終了時評価にも参加していることから、その評価結果をフォローアップ協力に生かすことができたと考えられる。リーダー不在が2か月間あり、現地での引き継ぎを行えなかったことで、プロジェクトの一貫性を保つことが困難であった。

チーム派遣の場合、チームリーダーの交代はプロジェクトの重要な時期には行わないなど、専門家と同じようにプロジェクトの進捗に合わせた活動期間の変更を認めることが必要である。

(3) 新しく派遣されたリーダーは、インドネシアの隊員経験者ではあったが、プロジェクトサイトは初めてであったために、地域的特性やプロジェクトを理解するのに時間を要した。また、派遣前に経理等の調整業務の研修がなく、現地での引き継ぎの機会もなかったため、赴任当初は大変苦勞をしたと報告している。

プロジェクトを継続して効果的に実施するためには、引き継ぎ期間も勘案し、シニア隊員の後任要請は、適時にかつ余裕をもって行う必要がある。

また、シニア隊員の派遣前研修（本部及び事務所）に調整業務（会計等）も含むことができれば、現地での業務もより効率的に行うことができる。

(4) 育苗所のように行政主導で作られた大型施設は、インパクトはあるが活用されるまでに大変な時間と多くの予算を要する。

一方、住民のニーズを基に生じた活動は、住民のモチベーションが高く自立発展性が高い。

(5) モニタリング及び評価を行うためにプロジェクト全体の成果をまとめたデータベース等を作成しておく、一連のプロセスの把握がしやすく、より効果的になる。

(6) 協力隊募集は、チーム派遣と個別派遣を区分し、応募者に最初から内容の違い（メリット、デメリット）を説明する必要がある。

また、チーム派遣プロジェクトの隊員に対しては、派遣前訓練の際にPCM研修を取り入れることが活動上有効である。

付 属 資 料

- 1．終了時評価用のPDM及び評価グリッド
- 2．プロジェクトの計画達成度
- 3．終了時評価（フォローアップ期間分）
ミニッツ（2002年4月8日署名）
- 4．フォローアップ・ミニッツ（1999年12月6日署名）
- 5．終了時評価ミニッツ（1999年12月6日署名）
- 6．アンケート集計結果（JOCV）
- 7．アンケート集計結果（カウンターパート）

1. 終了時評価用のPDM及び評価グリッド

評価用 プロジェクト デザイン マトリックス(PDM)

プロジェクト名

インドネシア共和国南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクト
(フォローアップ期間)

期間

2000. 1.1-2001.12.31 (2年間)

日本側実施機関

JICA, JOCV

対象地域:

南スラウェシ州バル県バル郡及びタネリジヤ郡内6か村

相手側実施機関:

国家開発企画局、内務省地域開発総局

ターゲットグループ: 地域農民

作成日: 2002.4.8

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
スーパーゴール バル県農民の生活レベルが向上する	農家実態調査	農家実態調査	
上位目標 農民の生活レベルが向上する	1 保健・衛生、栄養、教育、飲料水、農業労働時間、コミュニティーへの参加率等	1 地方事務所の統計資料	
プロジェクト目標 村・農民の経済活動が活性化される	1 農民の経済活動に関する資材やインフラの量や質が改善される 2 農民組織の機能が高くなる	1 事業評価会議実施報告書 2 プロジェクト報告書 3 農民への聞き取り 4 アンケート	a 政府が開発政策を変更しない b 大規模な自然環境変化が起こらない c 地域の経済構造が大きく変化しない
成果			
1 産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される	1 2001年末までの牛と山羊の配布数	1 牛・山羊の数(新生、貸出、返還)	a 研修を受けた農民やC/Pが農村で働き続ける
2 隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される	2 2001年末までに普及研修に参加した農家の数	2 プロジェクト報告書から農家の件数	
3 隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される	3 2001年末までに農民に配布された野菜・食用作物の苗の数	3 プロジェクト報告書から苗の本数	
4 村の集落が行う自助活動が継続され更に拡充される	4 2001年末までに農民委員会が将来活動を維持するための計画を作成すること	4 農民への聞き取り調査	
活動	投入		
1-1 バリ牛普及事業・山羊銀行の運営を行う	日本側 1 協力隊員の派遣: 6名(シニア2名、一般4名) 2 研修員受け入れ: 1名(3ヶ月、畜産分野) 3 国内研修: 4 供与機材: トラクター用のエンジン 1 5 ローカルコスト負担: 135,341,945 Rp	インドネシア側 中央政府レベル 1. 予算措置 2. 調整 州政府レベル 1. 土地、建物と施設 2. カウンターパート及び関連職員の配置 3. ローカルコスト 県政府レベル 1. 土地、建物と施設 2. カウンターパート及び関連職員の配置 3. ローカルコスト 村・農民レベル 1. ローカルコスト 2. 資材 3. 労力 コスト負担: 93,750,000 Rp (育苗小屋建設費を含む)	a 自然災害が起こらない b 気象条件に大きな変化が生じない c 治安が悪化しない
1-2 牛・山羊の適切な飼育管理を支援する			
2-1 新たに導入した作物(アカウケギ、チリ、メロン、オクラ等)の栽培及び普及を促進する			
2-2 園芸作物のマニュアルを作成する			
2-3 農民に研修を行う			
3-1 育苗所の運営について助言する			
3-2 育苗所の給水施設を設置する			
4-1 灌漑施設を修理する			
4-2 生活給水施設を設置する			
4-3 農民会議を促進する			
			前提条件 a 地域農民にプロジェクトが受け入れられる

評価用 プロジェクト デザイン マトリックス(PDM)

プロジェクト名

インドネシア共和国南スラウェシ州バル県地域総合開発実施支援プロジェクト
(フォローアップ期間)

相手側実施機関：
国家開発企画局、内務省地域開発総局
ターゲットグループ：地域農民

期間

2000. 1.1-2001.12.31 (2年間)

日本側実施機関

JICA, JOCV

対象地域:

南スラウェシ州バル県バル郡及びタネリジャ郡内8か村

作成日：2002.4.8

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
スーパーゴール バル県農民の生活レベルが向上する	農家実態調査	農家実態調査	
上位目標 農民の生活レベルが向上する	1 保健・衛生、栄養、教育、飲料水、農業労働時間、コミュニティーへの参加率等	1 地方事務所の統計資料	
プロジェクト目標 村・農民の経済活動が活性化される	1 農民の経済活動に関する資材やインフラの量や質が改善される 2 農民組織の機能が高くなる	1 事業評価会議実施報告書 2 プロジェクト報告書 3 農民への聞き取り 4 アンケート	a 政府が開発政策を変更しない b 大規模な自然環境変化が起こらない c 地域の経済構造が大きく変化しない
成果 1 産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される 2 隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される 3 隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される 4 村の集落が行う自助活動が継続され更に拡充される	1 2001年末までに、XX頭の牛とXX頭の山羊が農民に配布される 2 2001年末までに、XX件の農家が普及研修にXX回参加する 3 2001年末までに、XX本の野菜・食用作物の苗が農民に配布される 4 2001年末までに、農民委員会が将来活動を維持するための計画を作成する	1 牛・山羊の数(新生、貸出、返還) 2 プロジェクト報告書から農家の件数 3 プロジェクト報告書から苗の本数 4 農民への聞き取り調査	a 研修を受けた農民やC/Pが農村で働き続ける
活動 1-1 バリ牛普及事業・山羊飼育の運営を行う 1-2 牛・山羊の適切な飼育管理を支援する 2-1 新たに導入した作物(アカウケギ、チリ、メロン、オクラ等)の栽培及び普及を促進する 2-2 園芸作物のマニュアルを作成する 2-3 農民に研修を行う 3-1 育苗所の運営について助言する 3-2 育苗所の給水施設を設置する 4-1 灌漑施設を修理する 4-2 生活給水施設を設置する 4-3 農民会議を促進する	投入 日本側 1 協力隊員の派遣：6名(シニア2名、一般4名) 2 研修員受け入れ：1名(3ヶ月、畜産分野) 3 国内研修: 4 供与機材:トラクター用のエンジン 1 5 ローカルコスト負担:135,341,945 Rp	インドネシア側 中央政府レベル 1.予備措置 2.調整 州政府レベル 1.土地、建物と施設 2.カウンターパート及び関連職員員の配置 3.ローカルコスト 原政府レベル 1.土地、建物と施設 2.カウンターパート及び関連職員員の配置 3.ローカルコスト 村・農民レベル 1.ローカルコスト 2.資材 3.労力 コスト負担：93,750,000 Rp (育苗小屋建設費を含む)	a 自然災害が起こらない b 気象条件に大きな変化が生じない c 治安が悪化しない 前提条件 a 地域農民にプロジェクトが受け入れられる

評価グリッド

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法	
実績	上位目標の達成度(見込み)	農業生産性や農民の所得	県、村のデータ 知事、村長、農民	資料レビュー インタビュー	
	プロジェクト目標達成	農民の情報 村の資材やインフラの質と量 農民組織の機能	農業局所長、農民、グナワン氏、 農民 農民会議の記録	インタビュー インタビュー 資料レビュー	
	成果の達成度	1 バリ牛普及事業・山羊銀行の運営状況	牛・山羊の飼育・配布記録 村長、農民、ハサヌディン氏 苗の栽培・配布記録	牛・山羊の飼育・配布記録 村長、農民、ハサヌディン氏 苗の栽培・配布記録	資料レビュー (バラッカ、アナバナア村) インタビュー (アレジャン集落、バンガバング集落) 資料レビュー (ガルン村) インタビュー (同上)
		2 野菜・食用作物苗の配布状況	村長、農民 (アリスン氏等)、グナワン氏、JOCV	村長、農民 (アリスン氏等)、グナワン氏、JOCV	資料レビュー (トンボ村) インタビュー (同上)
3 育苗所の運営状況		活動記録、運営管理計画 村長、農民、C/P、JOCV	活動記録、運営管理計画 村長、農民、C/P、JOCV	資料レビュー (トンボ、ガルン、バラッカ、ハラバン村) インタビュー (ゲレンゲ集落)	
実施プロセス	投入の実績	機材等	台帳、運営記録	資料レビュー	
	実施プロセス	活動は計画通りに行われたか	台帳、運営記録	資料レビュー	
	モニタリングの実施状況	PDM軌道修正内容 外部及び内部条件の変化対応 プロジェクトの促進及び阻害要因	終了時評価PDM 知事、村長、農民 C/P、JOCV	資料レビュー アンケート・インタビュー	
	専門家とC/Pとの関係性	コミュニケーションの状況 カウンターパートの変化	JOCV、C/P JOCV、C/P	アンケート・インタビュー	
	相手国実施機関のオナシップ	予算の手当て	県知事、BAPPEDA所長	アンケート・インタビュー	
妥当性	上位目標は相手側の開発政策に合致しているか	国家開発計画 (PROPENAS)、地方行政放等	内務省職員、C/P、JOCV	資料レビュー、アンケート・インタビュー	
	ターゲットグループ以外への波及効果は期待できるか	総合地域開発計画 (PPWT)	州、県、BAPPEDA、村職員	アンケート、インタビュー	
	プロジェクト目標は相手側のニーズに合致しているか	村落保全委員会 (LKMD)の計画	村長、村の担当者	アンケート、インタビュー	
有効性	プロジェクトに実施により、「村、農民の経済活動が活性化」されたか	プロジェクト目標の達成度合い	最終報告書	資料レビュー、アンケート	
		農民の協力状況 バリ牛普及事業、山羊銀行利用者の満足度 野菜・食用作物栽培者の満足度 給水施設利用者の満足度 育苗施設利用者 灌漑利用者の満足度	県、村職員、C/P ハサヌディン氏、農民 グナワン氏、農民 農民 グナワン氏、農民 農民	資料レビュー、インタビュー インタビュー インタビュー インタビュー インタビュー インタビュー	
効率性	投入された資源量に見合った成果が達成されているか	成果の達成度合いの適正度	JOCV、報告書	資料レビュー	
		投入(人、資機材、資金等)の活用度 投入タイミングの適正度 プロジェクト運営スタッフの定着度	JOCV、報告書、C/P JOCV、報告書、C/P JOCV、報告書、C/P	資料レビュー、アンケート 資料レビュー、アンケート 資料レビュー、アンケート	
インパクト	プロジェクトにより実施された活動に波及効果が見られる	C/Pのプロジェクトに対する満足度 (何か良くなったことはあるか)	C/P、農民、県・村職員	アンケート、インタビュー	
		周辺住民の対応 上位目標の達成度合い C/P以外への影響 社会的影響等	県職員、村職員、農民 内務省職員 県、村職員 C/P、県・村職員	インタビュー (リブレン、ハラバン)、アンケート インタビュー、アンケート インタビュー アンケート、インタビュー	
自立発展性	政策支援の継続	農民の計画案に対する信頼度	内務省開発計画	資料レビュー	
	実施機関の組織能力の有無	人材配置の適正度 職員の割合	JOCV、C/P JOCV、C/P	アンケート、インタビュー インタビュー	
		バリ牛普及事業・山羊銀行及び育苗所の予算の確保、財政支援の継続性 モニタリングの仕組み	農業局所長、県の予算 JOCV、C/P	資料レビュー、インタビュー アンケート、インタビュー	
	技術の定着度・普及の仕組み	村落集会の決定事項 技術職員の定着度 技術普及の仕組み 農民の合意書に基く給水施設等維持管理状況	農民、県・村職員 C/P、JOCV 育苗所のマニュアル等 農民、県・村職員	資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー 観察、アンケート、インタビュー	

2. プロジェクトの計画達成度

プロジェクトの計画達成度

プロジェクトの要約	指標	実績	影響した外部条件の変化
スーパーゴール バル県農民の生活レベルが向上する	農家実態調査	(バル県知事はプロジェクトをバル県の開発モデルにしていきたいと述べている)	
上位目標 農民の生活レベルが向上する	1 保健・衛生、栄養、教育、飲料水、農業労働時間、コミュニティへの参加率等	1 農民からの聞き取りによると、収入の向上により、生活の安定、子供を学校に行かせることができること、給水施設により病気が減少した、労働が軽減された等が挙げられた。	
プロジェクト目標 村・農民の経済活動が活性化される	1 農民の経済活動に関する資料やインフラの量や質が改善される 2 農民組織の機能が高くなる	1 バリ牛、山羊のリボルビングも開始され、野菜・食用作物の普及、育苗所の活用で多少課題もあるが、経済活動が活性化されている。 2 バリ牛普及事業、山羊銀行、野菜・食用作物栽培及び販売グループ、ダム・灌漑の維持管理、生活給水維持管理、拡充された市場の運営等、農民が自主的に組織化して運営管理を行っている。	地方分権化政策で県政府の権限が強化された
成果 1 産まれた牛・山羊を分配して家畜飼育の活動が促進される 2 隊員がこれまでに導入した野菜・食用作物の苗の普及活動が継続される 3 隊員チームが建設した育苗所の活用、特に野菜栽培普及のための活用が促進される 4 村の集落が行う自助活動が継続され更に拡充される	1 2001年末までの牛と山羊の配布数 2 2001年末までに普及研修に参加した農家の数 3 2001年末までに農民に配布された野菜・食用作物の苗の数 4 2001年末までに農民委員会が将来活動を維持するための計画を作成すること	1 (1) 牛87頭、山羊19匹がリボルビングされた。 (2) 飼育改善の普及をC/Pが継続した。 2 (1) 農作物の直販研修、他県への見学等が行われ、参加した農家が篤農家として独立を始めている。 (2) トウガラシ、アカワケギ、トマト、ナス、メロンの作物及び野菜は一般農家に普及している。特にトウガラシ、アカワケギの評判が良く、村の朝市でも販売されている。 (3) オクラは篤農家や女性グループが普及、販売活動を行った。 3 (1) 2001年に10,300本(トウガラシ、オクラ、ナス)の苗が販売された。 (2) 堆肥作り、新規の作物紹介(オクラ、メロン)、トラクターの貸し出しが行われた。 (3) 県政府が、育苗所長を任命し、屋根付育苗小屋を建設した。 (4) 今年度の栽培計画も報告され、県は育苗所を多目的農業開発センターにする計画を明確にした。 4 (1) 灌漑施設の日常の維持管理は住民が自主的に行っている、また改修に必要な資材購入費用を県が計上した。 (2) 生活給水施設は農民が水利委員会などを設置し自主的に組織運営を行っている。 (3) 拡充された市場は農民の運営管理で維持され、利用者が増加し、朝市の開催時間が長くなった。	日本で研修を受けたC/Pの身分は今だ不安定なままである。
活動 1-1 バリ牛普及事業・山羊銀行の運営を行う 1-2 牛・山羊の適切な飼育管理を支援する 2-1 新たに導入した作物(アカワケギ、チリ、メロン、オクラ等)の栽培及び普及を促進する 2-2 園芸作物のマニュアルを作成する 2-3 農民に研修を行う 3-1 育苗所の運営について助言する 3-2 育苗所の給水施設を設置する 4-1 灌漑施設を修理する 4-2 生活給水施設を設置する 4-3 農民会議を促進する	投入計画 日本側 1 協力隊員の派遣: 6名(シニア2名、一般 4名) 2 研修員受け入れ: 1名(3ヶ月、畜産分野) 3 機材 4 ローカルコスト負担: 現地業務費 インドネシア側 1 土地、建物、施設の提供 2 カウンターパート及び関連職員 の配置 3 ローカルコストの支出	投入実績 日本側 1 協力隊員の派遣: 6名(シニア2名、一般 4名) 2 研修員受け入れ: 1名(3ヶ月、畜産分野) 3 機材: トラクターエンジン1機 4 ローカルコスト負担: 135,341,946 Rp インドネシア側 1 <中央及び州レベル>関係機関の調整 2 <県レベル>: コスト負担: 93,750,000 Rp (育苗小屋建設費を含む)、C/P配置 3 <農民レベル>労働力、土地提供、コスト負担	2001年反日デモで治安が悪化し活動が停滞した

3. 終了時評価（フォローアップ期間分）ミニッツ（2002年4月8日署名）

THE MINUTES OF THE JOINT EVALUATION
ON
THE JICA JUNIOR EXPERT TEAM COOPERATION
FOR
***THE FOLLOW-UP OF IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED
AREA DEVELOPMENT PROJECT IN BARRU DISTRICT
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA***

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Japanese Team”), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) headed by Mr. TSUJIOKA Masao, Senior Assistant to the Managing Director, Secretariat of the Japan Overseas Cooperation Volunteer (hereinafter referred to as “JOCV”), JICA, visited the Republic of Indonesia from April 1 to April 9, 2002.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Japanese Team made field survey and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned in order to conduct an overall review and evaluation on the Follow-up of “Implementation Support for Integrated Area Development Project in Barru District in the Republic of Indonesia” (hereinafter referred to as “the Project”).

As the result of a series of scrutiny, the Japanese Team and the Indonesian Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Evaluation Team”) agreed to submit their respective governments a summary of the evaluation and recommendations as stated in the attached Joint Evaluation Report.

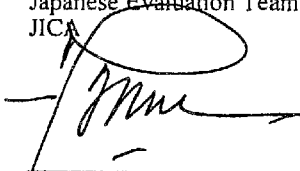
Jakarta, The Republic of Indonesia
April 8, 2002



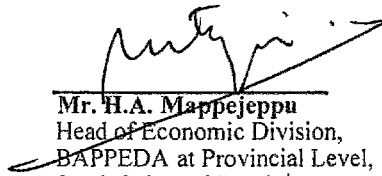
Mr. TSUJIOKA Masao
Leader,
Japanese Evaluation Team
JICA



Drs. Sumarsono, MDM
Director General of Regional Development,
Ministry of Home Affairs and Regional Autonomy



Mr. H.A. Muhammad Rum
Head,
Government of Barru District,
South Sulawesi Province

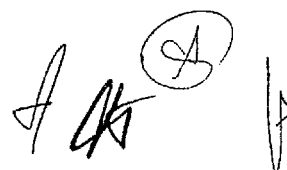


Mr. H.A. Mappedjeppu
Head of Economic Division,
BAPPEDA at Provincial Level,
South Sulawesi Province

THE MINUTES OF THE JOINT EVALUATION
ON
THE JICA JUNIOR EXPERT TEAM COOPERATION
FOR
*THE FOLLOW-UP OF IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED
AREA DEVELOPMENT PROJECT IN BARRU DISTRICT
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA*

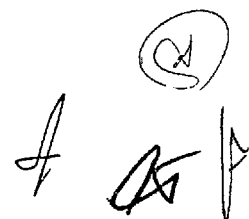
[TABLE OF CONTENTS]

1. INTRODUCTION
2. MEMBERS OF THE JOINT EVALUATION TEAM
 - 2-1 THE JAPANESE TEAM
 - 2-2 THE INDONESIAN TEAM
3. EVALUATION OF THE PROJECT
 - 3-1 OBJECTIVES OF THE EVALUATION
 - 3-2 EVALUATION METHODS
 - 3-2-1 Survey
 - 3-2-2 Items of the Evaluation
4. RESULTS OF INVESTIGATION
 - 4-1 ACCOMPLISHMENT IN TERMS OF INPUTS
 - 4-1-1 Japanese Inputs
 - 4-1-2 Indonesian Inputs
 - 4-2 PROJECT ACTIVITIES AND ACCOMPLISHMENT
 - 4-2-1 Animal Husbandry
 - 4-2-2 Food Crop / Vegetables
 - 4-2-3 Horticultural Nursery
 - 4-2-4 Self-Support
- 5 RESULTS OF EVALUATION
 - 5-1 RELEVANCE
 - 5-1-1 Project Purpose
 - 5-1-2 Project Design
 - 5-2 EFFICIENCY
 - 5-2-1 Timing of Inputs
 - 5-2-2 Relations Between Input and Output
 - 5-3 EFFECTIVENESS
 - 5-4 IMPACT
 - 5-4-1 Technical Impacts
 - 5-4-2 Institutional Impacts
 - 5-4-3 Social and Cultural Impacts
 - 5-5 SUSTAINABILITY
 - 5-5-1 Institutional Sustainability
 - 5-5-2 Financial Sustainability
 - 5-5-3 Technological Sustainability
- 6 CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS
 - 6-1 SUMMARY OF EVALUATION
 - 6-2 RECOMMENDATIONS



ANNEXES:

- Annex 1 Project Design Matrix
- Annex 2 JICA Junior Experts Dispatched and Indonesian Counterparts Assigned
- Annex 3 Expenses by Japanese Side

Handwritten signature and initials in the bottom right corner. The signature consists of a stylized 'A' followed by 'G' and 'P'. Above the 'G' is a circled 'G'.

1. INTRODUCTION

To accelerate development in the eastern area of Indonesia was one of the important subjects in REPELITA-V (Fifth Five Year Development Plan). In the plan, South Sulawesi province was regarded as the center of the development of eastern Indonesia. In accordance with the circumstances, the Government of Indonesia requested the Government of Japan for Junior Expert (hereinafter referred to as "J.E.") team cooperation in the region. In response to the request, the Japanese side decided to support the implementation of the on-going program conducted by the local government of Barru District, namely "Integrated Area Development Program (PPWT) in Barru District" based on the feasibility study, and both governments agreed to conduct the Project for 5 years from January 1, 1995.

In December 1999, at the end of the above-mentioned cooperation period of the Project, the both sides conducted joint evaluation. As the result of this evaluation, the Evaluation Team recommended follow-up of the Project for two years from January 1, 2000 to December 31 2001, because some activities had just begun and had not been completed yet. The follow-up cooperation program was expected to support self-helping management of the local government in Barru district in order to extend the impacts of the Project.

After the end of the follow-up cooperation program, in April 2002, both sides conducted a joint evaluation of the Project according to the Minutes of Meeting (hereinafter referred to as "M/M") on the follow-up of the Project signed on December 6 1999.

2. MEMBERS OF THE JOINT EVALUATION TEAM

2-1 THE JAPANESE TEAM

- | | |
|---|-------------------------|
| (1) Mr. TSUJIOKA Masao:
Senior Assistant to the Managing Director
Secretariat of JOCV, JICA | Leader |
| (2) Ms. KAKITA Mieko:
Second Overseas Assignment Division
Secretariat of JOCV, JICA | Planning & Coordination |
| (3) Ms. KAKINUMA Jun:
Earth and Human Corporation | Evaluation Analysis |



(4) Mr. HOSHI Suguru
Assistant Resident Representative
JICA Indonesia Office

(5) Mr. YOSHIJIMA Shoichi
Team leader of the Project

(6) Ms. KATO Kazumi
Junior Expert of the Project

2-2 THE INDONESIAN TEAM

(1) Drs. Sumarsono, MDM
Director for Synchronized of Regional Development,
Ministry of Home Affairs and Regional Autonomy

(2) Mr. H.A. Muhammad Run
Head,
Government of Barru District,
South Sulawesi Province

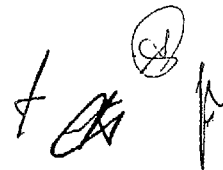
(3) Mr. H.A. Mappedjeppu
Head of Economic Division,
BAPPEDA at Provincial Level,
South Sulawesi Province

(4) Mr. H.Andi Bau Oddang
Head of BAPPEDA at District Level,
Barru District, South Sulawesi Province

(5) Mr. Abustan
Head of Sub-District,
Government of Barru District,
South Sulawesi Province

(6) Mr. Gunawan
Counterpart assigned the Project

(7) Mr. Syafruddin
Counterpart assigned the Project



- (8) Mr. Hasanuddin
Counterpart assigned the Project

3. EVALUATION OF THE PROJECT

3-1 OBJECTIVES OF THE EVALUATION

The objectives of the joint evaluation are:

- (1) To conduct a comprehensive and objective review on the achievement of the Follow-up Cooperation Program with reference to the contents of M/M.
- (2) To give recommendations and suggestions to the authorities of both governments concerning after the end of the cooperation.

3-2 EVALUATION METHODS

3-2-1 Survey

Before the survey in Indonesia, the Japanese Team conducted interviews with J.E.s dispatched and sent out questionnaires to the Indonesian counterparts concerned.

The Evaluation Team visited the target villages and observed project activities, conducted interviews with the Indonesian counterparts assigned the Project and villagers, had series of discussions with the Indonesian authorities concerned, and exchanged views among them.

3-2-2 Items of the Evaluation


(1) Accomplishment of the Project

The accomplishment of the Project was measured in terms of inputs, activities, outputs and project purpose, all of which accord with the M/M, Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") prepared for the evaluation. (see Annex 1)

(2) Evaluation on Five Criteria

1) Relevance

Relevance of the Project was reviewed as the validity of project purpose and overall goal in connection with the development policy of the Government of Indonesia and needs of the beneficiaries.



2)Efficiency

Efficiency of the Project implementation was analyzed focusing on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity.

3)Effectiveness

Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project had achieved outputs and project purpose, and the extent to which outputs and activities had contributed to achieving project purpose and outputs respectively.

4)Impact

Impact of the Project activities was identified as positive or negative changes produced by the Project directly or indirectly (including unexpected changes).

5)Sustainability

Sustainability of the Project was forecasted in institutional, financial and technological aspects by examining the extent to which the achievement of the Project would be sustained or expanding after the assistance has been completed.

4. RESULTS OF INVESTIGATION

4-1 ACCOMPLISHMENT IN TERMS OF INPUTS

4-1-1 Japanese Inputs

(1)Dispatch of J.E.s

A total number of 6 long term J.E.s have been dispatched. The number includes 2 team leaders and the J.E.s with expertise in Food Crop, Vegetable and Rural Development. (see Annex 2)

(2)Supplementary funds

The Japanese side has paid 135,341,945 Rupiahs (as of December 31, 2001) as a part of the Project cost to implement the Project effectively. (see Annex 3)

(3)Acceptance of trainees in Japan

One counterpart visited Japan to participate three months technical training on animal husbandry in 2000.

(4)Provision of machinery and equipment

One tractor engine was provided for the Horticultural Nursery.

④
A. J. P.

4-1-2 Indonesian Inputs

(1) Provision of land, buildings and facilities

The Government of Indonesia has provided land, buildings and facilities as follow:
Greenhouse in the Horticultural Nursery

(2) Allocation of budgets

The Indonesian side allocated 93,750,000 Rupiahs as the operational costs of the Project from 2000 to December 2001.

(3) Assignment of counterparts and other personnel

Indonesian technical counterparts, three full-time and contract persons assigned for the implementation of the Project.

4-2 PROJECT ACTIVITIES AND ACCOMPLISHMENT

Results of activities in the Project which have been accomplished in each sector are as follows.

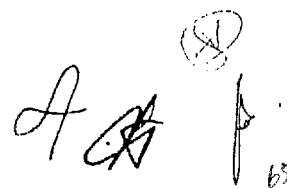
4-2-1 Animal Husbandry

Before follow-up cooperation, this project did not gain specific outputs. During the follow up period, 87 cows were revolved for farmers from 100 cows, which were distributed in 1996 and 1997. Goat bank also started revolving activity. However, the bank faces problems of diseases and death caused by diarrhea. Hence, those problems verified technical and environmental knowledge to be improved for goat bank. Both cow and goat bank provided not only livestock but also appropriate technology on animal husbandry for farmers.

The notable achievement is that the Counterpart's motivation has been highly improved after training in Japan during the follow-up cooperation.

4-2-2 Food Crop / Vegetables

Some newly introduced vegetables and food crops did not meet farmers' needs. However, J.E.s and some farmers tried to promote and find markets. This activity helps income-generation for young women's group and advanced farmers. Red onion and chili seedlings have been disseminated very well. The next activities to find markets for new crops such as okra and obtain transportation to carry the products.



Handwritten signature and initials, possibly 'A.A.' and 'P.', with a circled 'P' above and the number '65' below.

4-2-3 Horticultural Nursery

Due to the delay for construction of office and water supply facility, the function of Horticultural Nursery was slow to start. There was also a security problem; around the Nursery, 2 tractors' engines were stolen, therefore it was required that project hire a part-time guard and set lattice windows of the office.

However, during the follow-up period, seeds and seedlings have been sold for neighboring farmers. Chili and eggplant are the most popular vegetables because of the low price of seedlings. At this Nursery three main activities have been implemented, for instance compost making, introduction of new crops (okra, melon) and lending tractors to the farmers. 10,300 seedlings, which included chili, okra and eggplants, were sold in 2001.

Last December, Barru district government allocated 35,000,000 Rp for construction of a greenhouse in the Nursery and the condition of seedling beds was much improved. The number of staff and operation budget is still short and the utilization of the Nursery by farmers is not enough at the evaluation time. However, under the leadership of this governor, the district government is going to enhance and expand this Nursery as seeds center for food crops, horticulture, and forestry to make it a regional agricultural center.

4-2-4 Self-Support

Farmers constructed the Irrigation facility in 1997. In the next year unfortunately the facility was severely damaged by flood. Farmers could not implement repair work until the last year, then the counterpart reported the issue to the district office. The district agreed to allocate budget for purchasing construction materials and farmers are going to repair it by themselves.

Clean water supply facilities have been well maintained by villagers. They are organizing water committees and operation is fully handled by each villagers group. This project was met with villagers' needs and so many people became beneficiaries. Those reasons motivate the people to maintain water facilities.

5 RESULTS OF EVALUATION

5-1 RELEVANCE

5-1-1 Project Purpose

The purpose of the Project was to increase the farming income through (1) To enhance the activities of animal husbandry through dissemination of reproduced cattle and goats. (2) To sustain activities for dissemination of plants and seedlings of vegetables and food crops which have already been introduced by the JICA J.E.s. (3) To enhance the utilization of the Horticultural Nursery constructed by the J.E.Team, especially for the purpose of vegetable cultivation extension. (4) To continue and further promote the self-helping activities by the village communities. The purpose of the Project as above meets the basic farming families' needs in the target villages and also meets the national development plan (PROPENAS) of the Government of Indonesia and Japanese development policy for Indonesia.

5-1-2 Project Design

The project design to support the implementation of the on-going PPWT was appropriate, since PPWT had put up with lack of personnel who could cope with each local problem and low efficiency of the program. Linkage between the Project and PPWT has, however, become weak due to shortage communication between JICA and BAPPEDA during the course of implementation.

Implementation principle to utilize the existing community mobilization practices through promotion of participation of the farmers was appropriate as shown in the high-satisfactory results of the Project.

Introduction of PDM at the beginning of the project would have been useful for smooth operation of the Project.

5-2 EFFICIENCY

5-2-1 Timing of Inputs

(1) Japanese side

All kinds of inputs including of J.E.s and provision of machinery and equipment were made of schedule from January 2000 based on M/M. However, due to the contract termination of J.E.s team leader, who was replaced in 2001, and the successor could not meet the former leader in Indonesia due to the delay of dispatch. This operation interrupted continuous activities of the team leader at the final project stage.

One J.E. returned to Japan three months earlier than termination of his contract.

①
A. J. P.

(2) Indonesian side

The greenhouse construction was delayed, but it was completed within the follow-up cooperation period. The counter budget was not released timely, and hence some activities were delayed.

5-2-2 Relations Between Input and Output

Almost all of the inputs such as personnel, equipment and budget have been utilized, except the Horticultural Nursery.

Three of Counterparts worked very hard even though they were not permanent government staff. Their knowledge and skill has been very much improved during the project period.

5-3 EFFECTIVENESS

There has been progress of dissemination activities such as cow / goat bank and food crops / vegetables during follow-up period compare with previous period. In the first year, the constraints were shortage of budget and manpower, in the second year of this follow-up period, under the leadership of the governor in Barru, the local government allocated the budget and appointed a new director in the Horticultural Nursery.

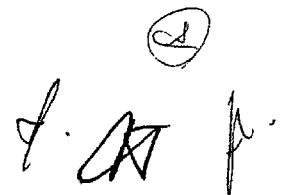
Even though J.E.s left from some activities, such as irrigation, water supply facilities, food crops and animal husbandry, Counterparts devoted themselves to the project, hence villagers could sustain self-support activities. The friendship among villagers, J.E.s and Counterparts is the most important factor to facilitate this project.

5-4 IMPACT

5-4-1 Technical Impacts

Full time Counterparts and farmers have enhanced their technical knowledge and skill on agriculture, animal husbandry and rural development during this follow-up period.

Improved cultivation techniques of red onion, melon, chili and okra attracted farmers and are being disseminated. Farmers have improved their techniques of breeding and treatment of cattle and goats.

Handwritten signature and initials in black ink, including a circled '2' above the signature.

5-4-2 Institutional Impacts

At various implementation stages of the Project, J.E.s have made efforts to take people-oriented participatory approach, which includes utilization of appropriate technology and planning of activities based on communities' potential. They gave impacts to all levels especially the district and village community levels.

(1) Barru District Level

Under the leadership of the governor, the project has been well motivated and facilitated by local government in Barru. The local government is planning to further enhance and utilize the Horticultural Nursery as Seeds Center in Barru, and The Breeding Center is also being planned.

(2) Village Community Level

In many of the target communities, the farmers have come to realize the needs of self-helping development planning and implementation through various participatory activities. And organizations such as water supply facilities' management committees have strengthened their capacity. A group of women is organized by J.E., which helped income generating activities for young women by way of cultivation of okra

5-4-3 Social and Cultural Impacts

The project has facilitated the community people's participation of self-helping development. Most of J.E.s lived with villagers and learned villagers' culture. Many farmers said that they learned discipline and time management from J.E.s.

Water supply facilities have saved farmers' time to get water at a distance and thus the farmers now can spend more time for production. The facilities have reduced water born diseases and farmers' health conditions have been improved compare with before the Project. New kinds of vegetables and crops woke up business mind for the both men and women villagers.

5-5 SUSTAINABILITY

5-5-1 Institutional Sustainability

The project has been implemented with participation from each technical office under the responsibility of the head of the Barru District government. According to the structural change of the government introduced in January 2000, the district government has been authorized to manage it's own development program. Moreover, motivation is



very high for utilizing the Horticultural Nursery as multi-purpose agricultural development center not only for Barru, also South Sulawesi province. It is expected that the district government take more care for the daily operation of it from now.

5-5-2 Financial Sustainability

Budget allocation is also depending on the district government under the new structure. Decentralization has been facilitating to sustain and disseminate outputs of the project to other villages in Barru district.

5-5-3 Technological Sustainability

Through the discussion, interviews and documentation from the survey, the Evaluation Team found that counterparts and villagers are capable to sustain their activities without support from JICA, which means technology, knowledge and skills have been well transferred to them.

The most serious issue is that employment of three counterparts who are contract workers of BAPPEDA. In order to maintain and disseminate the outputs from the project, it is essential that they are treated as permanent staff of district office.

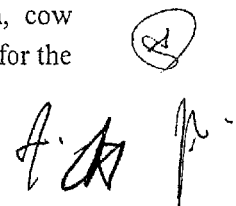
6 CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

6-1 SUMMARY OF EVALUATION

Toward the direction of social economic development in South Sulawesi province, in PPWT, this Project is expected to play a role of development model of other districts in the province.

The Evaluation team discussed with stakeholders and evaluated five criteria (relevance, efficiency, effectiveness, impact and sustainability) of the Project. Based on careful studies and discussions, the Evaluation Team concluded that the Project had progressed high-satisfactorily during the follow-up period. Most of the activities instructed by J.E.s have met the needs and the conditions of the village communities. All infrastructures constructed or rehabilitated by the Project have been beneficial to all villagers concerned. Thus people-oriented and participatory approach has been extensively introduced to the target villages as a meaning full process of rural development.

The villagers in the target villages, such as water supply project, irrigation, cow breeding project etc., showed remarkable improvement of self-supporting system for the sustainable development.

Handwritten signature and initials in black ink, located at the bottom right of the page. The signature appears to be 'A. A. P.' with a circled 'A' above it.

The Japanese Team would like to highly appreciate the firm determination of the district government for the sustainable development of the Project, under the leadership of governor.

The district government is now going to exercise leadership to keep promoting fruits and effects of the Project after the end of the follow-up term.


In particular, the Horticultural Nursery is expected to become first institution to extend its role to other provinces.

The next issue is how to transfer the technologies to other villages in Barru District. In the light of the decentralization policy, the support from the district government is key factor of sustainability.

6-2 RECOMMENDATIONS

Regarding to the institutional issues, the existence of active coordinating role at district level is essential for integrated regional development programs. Since last year, district government has been enhancing support for this project, hence we could observe some progress of their activities. However some issues still remain to be solved. To sustain and disseminate outputs of the project to other villages in Barru district, the recommendations are as follows:

- (1) To sustain and develop the fruits of this Project, it is essential that three (3) contract counterparts are going to be employed as permanent staff of district office because their knowledge and experiences is considered indispensable for the future development.
- (2) To enhance the dissemination activities of vegetables and food crops, the vehicle which was provided from JICA needs to belong to the Horticultural Nursery. And also other materials (computers etc.) which were provided from JICA needs to be utilized well for the agricultural development.
- (3) To encourage extension program; it is recommended that both the Nursery and farmers have exchange programs frequently.

A.  P.

Annex 1. PROJECT DESIGN MATRIX (PDM) FOR EVALUATION

Project name (Name of the recipient country).

Project period

Japanese implementing agency

Project area:

IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED AREA DEVELOPMENT PROJECT IN BARU DISTRICT IN THE REPUBLIC OF INDONESIA (Follow up period)

2000.1.1-2001.12.31 (2 years)

JICA, JOCV
Selected six villages in Baru District, South Sulawesi Province, Indonesia

Prepared by JICA evaluation team
Indonesian implementing agency
Department of Home Affairs (KAPMEDA)

Target Group: Farmers in the village

As of Apr. 8 2002

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Super Goal The level of farmers' life is improved in Baru District	Living standard of farmer	Farm household survey	
Overall Goal The level of farmers' life is improved in the target region.	1. The level of public health, nutrition, drinking water, field labor, school enrollment, participation for community activities and so on	1. Statistical data of local government	
Project Purpose Village and farmers' economic activities become more active	1. Quality and quantity of information, materials and infrastructure is improved that is relating to farmers' economic activities 2. Functionality of farmers' organization is improved	1. Report on activities evaluation meeting in villages 2. Project report 3. Interview with the farmers 4. Questionnaires	a. Government will not change its development policy b. Natural environment will not change significantly c. Regional economic structure will not change significantly
Outputs 1. The activities of animal husbandry through dissemination of reproduced cattle and goats is enhanced 2. The dissemination of plants and seedlings of vegetables and food crops introduced by J.E. is sustained 3. The utilization of the Horticultural Nursery constructed by the J.E. team is enhanced, especially for the purpose of vegetable cultivation extension 4. The self-helping activities by the village communities are continued and further promoted	1. By the end of 2001, cattle and of goats are distributed to farmers 2. By the end of 2001, of households participated times of extension training 3. By the end of 2001, of vegetables and food crops seedlings are distributed to farmers 4. By the end of 2001, the village communities are designing future plan for sustainable activities	1. The number of cattle and goats (slowly born, but, returned from the project report 2. The number of households from the project report 3. The number of seedlings from the project report 4. Interview with the farmers	a. The trained villagers and CHs will continue with their work in the village
Activities 1-1 Operate cattle and goats bank 1-2 Support appropriate cattle and goat 2-1 Promote cultivation and introduction of new crops (Red onion, Okura, Chili, and so on) 2-2 Prepare manual for horticulture extension 2-3 Train farmers in villages 3-1 Support and advice management of Horticulture Nursery 3-2 Construct water facility for Nursery 4-1 Rehabilitate irrigation facilities 4-2 Build clean water facilities 4-3 Facilitate farmers' meeting	Inputs Japan 1 Junior Experts (Senior level: 2 person, Long term: 3 persons) 2 Training in Japan: 1 person (3 months on animal husbandry) Indonesia <i>Central level</i> 1. Budget allocation 2. Coordination <i>Provincial level</i> 1. Land, building and facilities 2. Counterpart and staff allocation 3. Running cost <i>District level</i> 1. Land, building and facilities (greenhouse) 2. Counterpart and staff allocation 3. Running cost <i>Village and Villagers level</i> 1. Operation cost 2. Materials 3. Labor 5. Supplemental funds: 1,159,418,945Rp (include the construction of a greenhouse)		a. Natural disaster will not occur b. Weather will not change significantly c. Order of the region will not be disturbed Preconditions a. Project is accepted by the community

A. [Signature]

Annex 2. JICA JUNIOR EXPERTS DISPATCHED AND INDONESIAN COUNTERPARTS ASSIGNED

	20 00	20 01	20 02	
1 Team Leader (2 persons)	Mr. ABUNO Hajime ('97.12~'00.12)		Mr. YOSHIJIMA Shoichi ('01.2~)	
2 Junior Experts A. Rural Development (2 persons)	Mr. TAKAHASHI Kazushi ('98.4~'01.4)		Mr. OKADA Masayuki ('00.4~'01.11)	
	B. Food Crop (1 persons)	Mr. TAYA Toru ('97.12~'00.12)		
C. Vegetables (1 persons)	Ms. KATO Kazumi ('99.7~'01.8)			
3 Full-Time Counterparts				
	Mr. Gunawan MK, Mr. Syafruddin, Mr. Hasanuddin ('95.1~)			
	Ms. Hema Malini ('95.1~'00.12)			

[Handwritten signatures and initials]

Annex 3. Expenses by Japanese Side

(Unit:Rupiah)

Year	2000	2001	Total
Quarter (month)			
Jan.-Mar.	44,103,250	33,763,150	
Apr.-Jun	4,953,152	4,540,750	
Jul.-Sep.	18,142,893	10,961,925	
Oct.-Dec.	12,194,925	6,681,900	
Annual Expenses	79,394,220	55,947,725	135,341,945

Notes:

1.The figures above includes the cost of machinery, equipment, seminars, training, office travel, administration, etc.

2.The figures above not include any cost to dispatch J.E.s

3.Annual budget of JICA is approved basically in the beginning of every fiscal year in Yen terms.

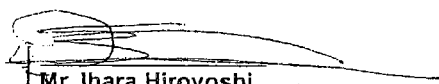
A G P.

4. フォローアップ・ミニッツ (1999年12月6日署名)

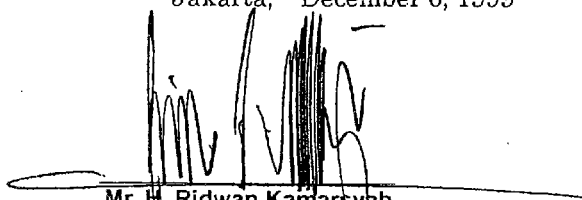
THE MINUTES OF THE MEETING
ON
THE JICA JUNIOR EXPERT TEAM COOPERATION
FOR
THE FOLLOW-UP OF IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED AREA
DEVELOPMENT PROJECT IN BARRU DISTRICT
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA

According to the recommendations written on the Minutes of the Joint Evaluation on JICA Junior Expert Team Cooperation for Implementation Support for Integrated Area Development Project in Barru District in the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Project"), the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), represented by Mr. Ihara Hiroyoshi, Resident Representative of its Indonesia Office, and the authorities concerned of the Republic of Indonesia agreed on the implementation of follow-up cooperation which will be conducted in accordance with the attached Tentative Action Plan for the Follow-up Cooperation.

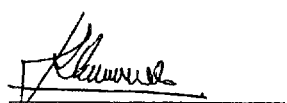
Jakarta, December 6, 1999




Mr. Ihara Hiroyoshi
Resident Representative,
Indonesia office,
JICA
Japan




Mr. H. Ridwan Kamarsyah
Director of Area Development,
Directorate General of
Regional Development,
Department of Home Affairs
The Republic of Indonesia



Dr. Ikhwanuddin Mawardi
Head,
Bureau for Regional Development II,
BAPPENAS,
The Republic of Indonesia



Mr. H. Andi Makkasau Razak
Head,
Government of Barru District,
South Sulawesi Province,
The Republic of Indonesia



Mr. Moh. Alwy Rum
Head,
BAPPEDA at provincial level,
South Sulawesi Province,
The Republic of Indonesia

e

**TENTATIVE ACTION PLAN
FOR
THE FOLLOW-UP COOPERATION PROGRAM**

1 PURPOSE OF THE FOLLOW-UP

To extend the result of the Project in accordance with the recommendations described in the attached Minutes of Joint Evaluation on the JICA Junior Expert Team Cooperation for Implementation Support for Integrated Area Development Project in Barru District in the Republic of Indonesia (hereinafter referred as M/JE) which was agreed upon on December 6, 1999.

2 SPECIFIC OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP COOPERATION

- (1) To enhance the activities of animal husbandry through dissemination of reproduced cattle and goats.
- (2) To sustain activities for dissemination of plants and seedlings of vegetables and food crops which have already been introduced by the JICA Junior Experts (hereinafter referred as J.E.s).
- (3) To enhance the utilization of the Horticultural Nursery constructed by the J.E. Team, especially for the purpose of vegetable cultivation extension.
- (4) To continue and further promote the self-helping activities by the village communities.

3 ACTIVITIES AND TECHNICAL FIELDS OF THE J.E.s

- (1) To support dissemination of cattle and goats according to the revolving systems.
- (2) To support for improving of the planting of vegetables introduced by J.E.s such as red onion, melon and chili.
- (3) To provide advice on the management of the Horticultural Nursery.
- (4) To provide technical support for maintenance and rehabilitation of the facilities built through the Project.
- (5) To empower community organizations.
- (6) To facilitate the extension of the Project experience by the farmers.

4 PERIOD OF THE FOLLOW-UP COOPERATION

For 2 years from January 1, 2000 to December 31, 2001.

5 STATUS OF THE FOLLOW-UP PROGRAM

This follow-up cooperation is planned to support self-helping management of the Government of Indonesia to sustain activities which have been implemented by the Project as mentioned in the attached M/JE. Therefore it should be implemented in accordance with the recommendations described in M/JE.

6 COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

The Government of Indonesia agreed to continue the activities of the Project with its full responsibility, and the Government of Japan agreed to partly cooperate by

[Handwritten signatures and initials]

means of dispatch of J.E.s.

7 MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

In accordance with laws and regulations in force in Japan and normal procedures of JICA Technical Cooperation Scheme, the Government of Japan, represented by JICA, will dispatch J.E.s at its own expense (Annex 1). Their local travel cost will be borne by JICA.

8 MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF INDONESIA

In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, the Government of Indonesia will:

- (1) provide necessary office space for each J.E., land, buildings and facilities to implement the follow-up cooperation.
- (2) provide necessary fund to ensure self-helping operation of the follow-up cooperation.
- (3) provide human resources in the form of Indonesian counterpart personnel and administrative personnel (Annex 1).
- (4) ensure that the equipment provided by the Government of Japan through the Project should be utilized effectively in consultation with the J.E.s, and that the priority of the usage should be given to the follow-up cooperation (Annex 2).
- (5) effectively utilize the knowledge, skill, attitudes and experiences acquired by the Indonesian counterparts through the Project.

9 ADMINISTRATION OF THE FOLLOW-UP COOPERATION

- (1) The head of Bureau of Regional Development II, Deputy V, BAPPENAS bears the responsibility for coordination of the follow-up cooperation.
- (2) The Director of Area Development, Directorate General of Regional Development, Ministry of Home Affairs, bears the overall responsibility for the administration of the follow-up cooperation.
- (3) The head of BAPPEDA at provincial level, South Sulawesi Province bears the responsibility for the monitoring, coordination and supervision of the follow-up cooperation.
- (4) The head of Barru District (*Bupati*) is responsible for the overall implementation of the follow-up cooperation.
- (5) J.E.s will give necessary technical support and advice to the Indonesian counterpart personnel regarding the implementation of the follow-up cooperation.

10 MONITORING AND ASSESSMENT

- (1) Annual monitoring of the follow-up cooperation should be conducted by the Government of Indonesia.
- (2) The achievement of the whole follow-up to the Project will be assessed by the Government of Indonesia and the Government of Japan jointly, during the last six months in the follow-up term or after the end of the follow-up term, if the both governments agree.



11 TIME SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP COOPERATION

Tentative time schedule of the action plan of the follow-up cooperation will be prepared jointly by the Barru District government and the J.E. Team by the middle of January 2000.

[Handwritten signature and initials]

D.

Annex 1. TENTATIVE PLAN OF DISPATCH OF J.E.s AND ASSIGNMENT OF FULL-TIME COUNTERPARTS (CP)

	2000				2001			
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
(1) Rural Development (J.E.) Mr. TAKAHASHI Kazushi		→						
(CP) Mr. OKADA Masayuki								→
(CP) Ms. Hema Malini								→
(2) Food Crop (J.E.) Mr. TAYA Toru			→					
(CP) Mr. Gunawan MK								→
(3) Vegetables (J.E.) Ms. KATO Kazumi						→		
(CP) Mr. Syafruddin								→
(4) Rural Development (Senior Level J.E.) Mr. ABUNO Hajime (to be nominated)		→						→
(CP) Mr. Hasanuddin								→

Handwritten signature and initials.

Annex 2. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT WHICH ARE GIVEN PRIORITY TO BE UTILIZED BY JUNIOR EXPERT DURING THE FOLLOW-UP COOPERATION PERIOD

(Unit : Rp)

Condition I/ A:very good B:good C: not good D:abandoned

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Location	Condition	Notes
FY1994							
1	Photocopy machine(XEROX V-500)	1995/1/27	35,860,000	1	J.E.s' Office	B	
2	Fax machine(XEROX-7016)	1995/3/16	2,500,000	1	J.E.s' Office	A	
3	OHP(ELMO HP-300S)	1995/3/16	1,320,000	1	J.E.s' Office	A	
FY1995							
4	battery charger(SENDON625)	1995/6/12	786,500	1	J.E.s' Office	B	
5	DAIHATSU HILINE/DD115L	1995/8/16	58,530,000	1	J.E.s' Office	A	
6	Printer(CANON BJ230)	1995/7/10	1,150,000	1	J.E.s' Office	A	
7	Shooting Video Camera(SONY 8mm)	1995/8/11	1,727,000	1	J.E.s' Office	A	
8	OHP Screen(REFLECTA)	1995/9/22	550,000	1	J.E.s' Office	A	
9	Safty Box	1995/9/22	167,200	1	J.E.s' Office	A	
10	Rain meter(Pengukur Curah Hujan)(LOKAL)	1995/8/17	231,000	7	Horticultural Nursery	-	already managed by villagers
11	measuring tape 100m (Alat Pengukur) (DX100)	1995/8/14	918,500	1	Horticultural Nursery	A	
12	pH meter(HANNA)	1995/8/14	194,838	1	Horticultural Nursery	A	
13	Air Conditioner(CW70L3225)	1995/12/13	4,492,000	4	J.E.s' Office	A	
14	Office Accesary (Lemari buku, meja, kursi)	1995/9/6	3,468,000	1	J.E.s' Office	A	
15	Soil Analyzing Kits(Alat Analisa Tanah)	1995/11/14	3,499,650	1	Horticultural Nursery	A	
16	Electronic Precision Long Term Thermo Hygraph(3-	1995/10/13	2,200,000	1	Horticultural Nursery	A	
17	Plane Table Set(MIZOX-1510)	1995/10/13	1,180,000	1	J.E.s' Office	A	
18	Colour Printer(EPSON Stylus Pro XL)	1996/3/15	5,500,000	1	J.E.s' Office	A	
19	battery charger(SENDON825)	1996/3/15	1,590,000	1	J.E.s' Office	C	
20	Computer desk	1996/3/15	150,000	1	J.E.s' Office	A	
21	battery charger(SENDON825)	1996/3/15	795,000	1	J.E.s' Office	A	
22	CD-ROM Drive(for Notebook)(PCMCIA)	1996/3/15	1,150,000	1	J.E.s' Office	A	

Handwritten signatures and initials.

Annex 2. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT WHICH ARE GIVEN PRIORITY TO BE UTILIZED BY JUNIOR EXPERT DURING THE FOLLOW-UP COOPERATION PERIOD

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Location	Condition	Notes
23	Hand Tractor (FARMINDO YZT85)	1996/3/26	11,000,000	2	Horticultural Nursery	A	one of them already managed by the technical office of agriculture(Dinas Pertanian T.P.).
24	Water Pomp(YANMAR TF105H/NS100)	1996/1/16	3,846,750	1	J.E.s' Office	B	
25	Rotary Hammer(HR5000)	1996/3/8	3,468,000	1	J.E.s' Office	A	
FY1996							
26	Office Accesarry (Meja, kursi)	1996/7/6	552,000	2	Technical Office concerned	A	1 for BAPPEDA and 1 for the technical office of agriculture and are utilized by the J.E.s concerned.
27	CM.V11 Metric set 109 tools (Alt Perbaikan Mobil)	1996/9/18	7,487,050	1	J.E.s' Office	A	
28	Mitsubishi COLT L300/DD623L (Mobil)	1996/11/11	41,900,000	1	J.E.s' Office	A	
29	Book Rack(Brother)(Lemari Buku)	1996/11/15	2,475,000	5	J.E.s' Office	A	
30	Refrigerator(National)	1997/1/18	561,000	1	J.E.s' Office	A	
31	Moisture Tester(Dole)	1997/1/29	2,750,000	1	Horticultural Nursery	A	
32	Soil Colour Chart Book(MUNCELL)	1997/1/29	1,430,000	2	Horticultural Nursery	A	
33	MAKITA PBK 250(Mesin Pemotong Rumput)	1997/2/14	830,500	1	Horticultural Nursery	A	
34	Precisa 3000 D (Timbangan)	1997/2/25	4,045,800	1	Horticultural Nursery	A	
35	Typewriter (Panasonic)	1997/3/12	541,200	1	J.E.s' Office	A	
36	Lemari Kamera/Rolfilm(Eureka AS-101)	1997/3/14	1,350,000	1	J.E.s' Office	A	
FY1997							
37	Office Accessary(desk, table, chair)	1997/5/28	2,259,000	1	Horticultural Nursery	A	
38	ZIP DRIVE	1997/9/16	753,500	1	J.E.s' Office	A	
39	Software(Inggris) MS OFFICE 97	1997/10/17	2,152,800	1	J.E.s' Office	B	
40	Computer(ACER EXTENSA 355)	1998/3/27	14,500,000	1	J.E.s' Office	C	
41	Digital Camera(QV-100)	1998/3/31	2,475,000	1	J.E.s' Office	A	
42	Hand Tractor(Yamindo YZC)	1998/3/30	32,000,000	2	Horticultural Nursery	A	

[Handwritten signatures and initials]

5. 終了時評価ミニッツ (1999年12月6日署名)


THE MINUTES OF THE JOINT EVALUATION
ON
THE JICA JUNIOR EXPERT TEAM COOPERATION
FOR
IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED
AREA DEVELOPMENT PROJECT IN BARRU DISTRICT
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA

With about a month left until the end of the cooperation period of Implementation Support for Integrated Area Development Project in Barru District (hereinafter referred to as "the Project") in the Republic of Indonesia which was initiated on January 1, 1995 in accordance with the Minutes of Meeting (hereinafter referred as "M/M") signed on November 17, 1994, the Japanese Evaluation Team organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Dr. Nishimura Yoshihiko, Professor, Nagoya University, visited the Republic of Indonesia from November 25 to December 7, 1999. In order to conduct an overall review and evaluation on the performance of the Project, a Joint Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") was formed, which consisted of the aforementioned Japanese Team and the Indonesian Evaluation Team, and was entrusted by the respective governments with the signing authorities.

The Team conducted interviews with the Japanese Junior Experts (hereinafter referred as "J.E.s"), their Indonesian counterparts who had been assigned to the Project and some farmers who had been engaged in the Project, had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned through the evaluation seminars, made field surveys and exchanged views among themselves.


As a result of the series of scrutinies, the Team agreed to submit their respective governments a summary of the evaluation and recommendations as stated in the attached Joint Evaluation Report.

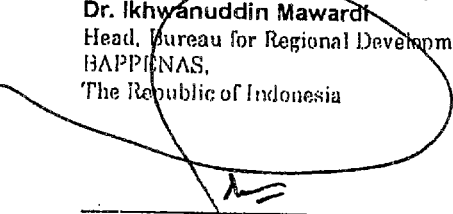
Jakarta, December 6, 1999


Dr. Nishimura Yoshihiko
Leader, Evaluation Team, JICA
Japan


Mr. H. Ridwan Kamarsyah
Director of Area Development,
Directorate General of Regional Development,
Department of Home Affairs
The Republic of Indonesia


Dr. Ikhyanuddin Mawardi
Head, Bureau for Regional Development II,
BAPPENAS,
The Republic of Indonesia


Mr. Mon. Alwy Rum
Head, BAPPEDA at provincial level,
South Sulawesi Province
The Republic of Indonesia


Mr. H. Andi Bau Oddang
Head, BAPPEDA at district level,
Barru District, South Sulawesi Province,
The Republic of Indonesia

JOINT EVALUATION REPORT
ON
THE JICA JUNIOR EXPERT TEAM COOPERATION
FOR
IMPLEMENTATION SUPPORT FOR INTEGRATED
AREA DEVELOPMENT PROJECT IN BARRU DISTRICT
IN THE REPUBLIC OF INDONESIA

[TABLE OF CONTENTS]

- 1 INTRODUCTION
- 2 MEMBERS OF THE JOINT EVALUATION TEAM
- 3 EVALUATION OF THE PROJECT
 - 3-1 OBJECTIVES OF THE EVALUATION
 - 3-2 ITEMS OF THE SURVEY
 - 3-3 EVALUATION METHODS
- 4 RESULTS OF THE INVESTIGATION
 - 4-1 ACCOMPLISHMENT IN TERMS OF INPUTS
 - 4-1-1 JAPANESE INPUTS
 - 4-1-2 INDONESIAN INPUTS
 - 4-2 PROJECT ACTIVITIES AND ACCOMPLISHMENT
 - 4-2-1 ANIMAL HUSBANDRY
 - 4-2-2 FOOD CROP / VEGETABLES
 - 4-2-3 IRRIGATION
 - 4-2-4 MARKETING RESEARCH / REHABILITATION OF MARKET
 - 4-2-5 WATER FOR DAILY LIFE
- 5 RESULTS OF EVALUATION
 - 5-1 EFFECTIVENESS
 - 5-2 PROJECT IMPACTS
 - 5-2-1 TECHNICAL IMPACTS
 - 5-2-2 INSTITUTIONAL IMPACTS
 - 5-2-3 SOCIAL AND CULTURAL IMPACTS
 - 5-3 EFFICIENCY
 - 5-3-1 TIMING OF INPUTS
 - 5-3-2 RELATION BETWEEN INPUTS AND OUTPUTS
 - 5-4 RATIONALE
 - 5-4-1 PROJECT PURPOSE
 - 5-4-2 PROJECT DESIGN
 - 5-5 PROSPECTS FOR SUSTAINABILITY
 - 5-5-1 INSTITUTIONAL SUSTAINABILITY
 - 5-5-2 FINANCIAL SUSTAINABILITY
 - 5-5-3 TECHNOLOGICAL SUSTAINABILITY
- 6 CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS
 - 6-1 SUMMARY OF EVALUATION
 - 6-2 FOLLOW-UP COOPERATION

ANNEXES:

- Annex 1. Project Design Matrix
- Annex 2. List of JICA Junior Experts dispatched
- Annex 3. Expenses by Japanese Side
- Annex 4. List of Indonesian Counterparts Trained in Japan
- Annex 5. List of Machinery and Equipment Provided by JICA
- Annex 6. Expenses by Indonesian Side
- Annex 7. List of Indonesian Counterparts assigned

1 INTRODUCTION

To accelerate development in the eastern area of Indonesia was one of the important subjects in REPELITA-V (Fifth Five Year Development Plan). In this plan, South Sulawesi Province is regarded as the center of the development of eastern Indonesia. In accordance with the circumstances, the Government of Indonesia requested the Government of Japan for technical cooperation in the region. In response to the request, the Japanese side conducted a study on the possibility of forming a rural development project through cooperation of J.E. Team in a district of South Sulawesi Province.

Based on that feasibility study, the Japanese side decided to support the implementation of the on-going program conducted by the local government of Barru District: viz., "Integrated Area Development Program (PPWT) in Barru District" as stated in M/M, and the both governments agreed to start the Project.

JICA dispatched J.E.s according to the Tentative Schedule of Implementation (hereinafter referred to as "TSI") and the Project started on January 1, 1995.

As the Project period is coming to an end on December 31, 1999, the both sides agreed to conduct a joint evaluation of the Project according to the M/M. For the sake of the evaluation, a Joint evaluation Team comprising the representatives of both the Indonesian and Japanese sides was formed. The Joint Evaluation Team first looked into the Project purpose defined in M/M.

The purpose of the Project was to generate the farm family income with increasing productivity of the farmers' economic activities. This purpose, however, is supposed to be achieved after the implementation of the Project. In order to conduct evaluation more precisely, the Joint Evaluation Team has defined the Project purpose as "Village and farmers' economic activities become more active" and prepared Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") as shown in Annex 1.

2 MEMBERS OF THE JOINT EVALUATION TEAM

2-1 THE JAPANESE EVALUATION TEAM

Dr. NISHIMURA Yoshihiko :Leader
Professor, Graduate School of International Development,
Nagoya University

Ms. YAMASHITA Yoshie :Sub-leader
Deputy Director, First Overseas Assignment Division,
Secretariat of JOCV, JICA

Ms. FUJITA Kiyoka :Project Evaluation
Project Officer, First Overseas Assignment Division,
Secretariat of JOCV, JICA

Mr. YAMAMOTO Ikuo : Evaluation Analysis
Senior Researcher, Consulting Department,
I C Net Limited

2-2 THE INDONESIAN EVALUATION TEAM

Mr. H. Ridwan Kamarsyah	Director of Area Development, Director General, BANGDA
Mr. H. Soejari	Head of Sub-Division Regional Identification and Analysis, Director General of Regional Development, BANGDA
Ms. Besmi Suharti	Head of Section of Economics, Sub-Division Regional Identification and Analysis, Director General of Regional Development, BANGDA
Dr. Ikhwanuddin Muwardi	Head, Bureau for Regional Development, BAPPENAS
Mr. Deddy Koespramudyo	Head of Division of Eastern Indonesian Development II, BAPPENAS
Ms. Endang Indriati	Head of Sub-Division of Sulawesi, BAPPENAS
Mr. Moh.. Alwy Rum	Head, BAPPEDA at provincial level, South Sulawesi Province
Mr. Zubair Suyuti	BAPPEDA at provincial level, South Sulawesi Province
Mr. A. M. Yamin	BAPPEDA at provincial level, South Sulawesi Province
Mr. H. Andi Bau Oddang	Head, BAPPEDA at district level, Barru District, South Sulawesi Province

3 EVALUATION OF THE PROJECT

3-1 OBJECTIVES OF THE EVALUATION

The objectives of the evaluation are:

- (1) To conduct a comprehensive and objective review on the achievement of the Project with reference to the contents of M/M, the Minutes of Joint Planning Meeting signed on June 5, 1996 (hereinafter referred to as "M/JP") and TSI.
- (2) To give recommendations and suggestions to the authorities of both governments concerning the future of the Project after the end of the cooperation period of the Project.

3-2 EVALUATION METHODS

3-2-1 Survey

Before the visit of the Japanese Evaluation Team, an investigation was internally conducted by the J.E. Team, and another one was externally added by a local NGO called, Lembaga Mitra Lingkungan. The former implemented the investigation in the form of participatory evaluation meetings at village level, and the latter conducted the investigation through focus group discussions and interviews.

The Team visited the target villages and observed project activities, conducted interviews with J.E.s, the Indonesian counterparts assigned to the Project and villagers, had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned, and exchanged views among themselves.

The Team joined the two seminars in which J.E.s, their counterparts and some farmers from the target villages reported on their activities, and discussed the results.

3-2-2 Items of the Evaluation

(1) Accomplishment of the Project

The accomplishment of the Project was measured in terms of inputs, activities, outputs and project purpose, all of which accord with the M/M, TSI and PDM prepared for the evaluation.

(2) Analysis on Evaluation Issues

1) Effectiveness

Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project had achieved outputs and project purpose, and the extent to which outputs and activities had contributed to achieving project purpose and outputs respectively.

2) Impact

Impact of the Project activities was identified as positive or negative changes produced by the Project directly or indirectly (including unexpected changes).

3) Efficiency

Efficiency of project implementation was analyzed focusing on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity.

4) Rationale

Rationale of the Project was reviewed as the validity of project purpose and overall goal in connection with the development policy of the Government of Indonesia and needs of the beneficiaries.

5) Sustainability

Sustainability of the Project was forecasted in institutional, financial and technological aspects by examining the extent to which the achievement of the Project would be sustained or expanding after the assistance is completed.

4 RESULTS OF INVESTIGATION

4-1 ACCOMPLISHMENT IN TERMS OF INPUTS

4-1-1 JAPANESE INPUTS

(1) Dispatch of J.E.s

A total of 23 long-term J.E.s have been dispatched. The number includes 3 team leaders and 4 coordinators, and the J.E.s with expertise in Food Crop, Animal Husbandry, Vegetables, Irrigation, Marketing Research and Rural Development (see Annex 2). In line with TSI, 2 short-term J.E.s were also dispatched in addition.

(2) Supplementary funds

The Japanese side has paid 2,688,182,460 Rupiahs (as of September 30, 1999) as a part of the Project cost to implement the Project effectively (see Annex 3).

(3) Acceptance of trainees in Japan (Annex 4)

Training of counterpart personnel in Japan started in fiscal year 1994 (the Japanese fiscal year starts on April 1, ends on March 31, and is hereinafter referred to as "FY."). So far, 8 counterparts have visited Japan to participate in technical training. In addition, the application for training of another counterpart in FY 1999 is in the process.

(4) Provision of machinery and equipment

Machinery and equipment have been provided as shown in Annex 5.

4-1-2 INDONESIAN INPUTS

(1) Provision of land, buildings and facilities

The Government of Indonesia has provided land, buildings and facilities as follows:

Project office in Barru District

Coordination office in BAPPEDA at Provincial level

Other necessary buildings, land and facilities

(2) Allocation of budgets

The Indonesian side has allocated 1,345,000,000 Rupiahs as the operational costs of the Project from 1994 till now (Annex 6).

(3) Assignment of counterparts and other personnel

Indonesian technical counterparts, full-time counterparts and contact persons have been assigned for the implementation of the Project (Annex 7). The Indonesian side

have not been able to provide permanent government staff as full-time counterparts, and therefore, temporary staff of BAPPEDA have been provided instead.

4-2 PROJECT ACTIVITIES AND ACCOMPLISHMENT

Results of activities in the Project which have been accomplished in each sector are as follows.

4-2-1 ANIMAL HUSBANDRY

100 head of cattle were provided for farmers by the Japanese side in 1996 and 1997, and J.E.s have been required to instruct breeding skills and knowledge to the farmers. In addition, guidance of the breeding and the medication was made and introduced by J.E.s. At present, about 60 head of calves have already been reproduced and are scheduled to be disseminated to other farmers who are in a waiting list.

In addition to cattle breeding, which was agreed on in M/JP, goat breeding with the revolving system: viz., "Goat Bank," was also introduced in 1998. Women groups were formed for this activity in consideration of increasing chances of economic activities for the women in the target villages.

4-2-2 FOOD CROP / VEGETABLES

Dissemination of a superior kind of groundnut seed as an activity of Food Crop sector was planned in 1995 based on a request from the Technical Office of Agriculture (*Dinas Pertanian T.P.*) and was tried on a small scale until 1998 as an action research. Result of the trial, however, showed the reproduction of groundnut seed was difficult at the village level, because it did not suit the existing farming system.

The main activity of this sector changed into red onion planting in 1999 in compliance with its market potentiality and farmers' needs. Leading farmers were sent to short training programs in eastern Jawa for this activity. The first trial was done by 3 farmers' groups headed by the alumni of the training under the instruction by the J.E. Team, and resulted in a good harvest.

With regard to Vegetable Planting sector, several kinds of new vegetables, such as Melon and Chili, were introduced on a small scale as the first step for the purpose of nurturing leading farmers. In order to support the activity, the Horticultural Nursery that includes nurseries, an office building, equipment, manure stockyard and irrigation facilities, was established by the J.E. Team. The whole facilities have already been completed.

4-2-3 IRRIGATION

In 1997, construction of a weir and a gutter was implemented by farmers with the advice of a J.E., and the facilities proved to be sufficiently beneficial in the dry season in 1998. The gutter, however, was seriously damaged by a big flood in January 1999, and the farmers have rehabilitated the facilities by themselves.

Besides this, other 3 local irrigation facilities were rehabilitated under J.E.s instruction and assistance in 1999. Moreover, a weir is under construction by farmers as a result of J.E.s' facilitation.

4-2-4 MARKETING RESEARCH / REHABILITATION OF MARKET INFRASTRUCTURE

Three local market facilities were rehabilitated and enlarged through the joint effort of J.E.s and farmers. The rehabilitations were planned as a result of a basic research conducted in advance by J.E.s, and were realized based on the proposals submitted by the heads of hamlets (*Dusun*).

Besides this, marketing conditions of groundnuts, goats and other local products were investigated and the results were explained to the target villages in order to support the farmers' economic activities.

As a result of the research, the primary processing of cashew nuts was identified as a possible means of non-farm income for the village women. Through the first trial, some of the women became highly motivated for cash income generation, but the activity is being suspended due to the poor yielding of cashew nuts in 1999.

4-2-5 WATER FOR DAILY LIFE

Farmers constructed or rehabilitated water delivery facilities in 5 hamlets with J.E.s' support. The whole process of the implementation was handled by farmers on the basis of participatory approach. Most of the people in each target hamlet are benefited by the facilities, and the facilities are now wholly maintained and extended by the farmers themselves.

Another water delivery facilities are under construction by farmers themselves as a result of J.E.s' facilitation.

5 RESULTS OF EVALUATION

5-1 EFFECTIVENESS

From 1997 to early 1999, the Project site suffered from natural disasters such as floods, severe droughts and soil slides which seriously damaged the crops and the facilities in the villages. Moreover, all activities of the Project were interrupted for about two months from May 1998 due to the J.E.s' retreat from the political turmoil in Indonesia. These factors made several activities of the Project delay or cancel.

Even though the Project had such difficulties, through conducting various activities, the village and farmers' economic activities have become more active, which means that the project purpose will be almost achieved by the end of the Project.

Although the installed irrigation facilities were heavily damaged by a big flood, it was rehabilitated by farmers themselves and the farmers are benefited from the irrigation again. Also 3 other irrigation facilities were rehabilitated and farmers get benefit. Introduction of new vegetables, cattle breeding and goat breeding are expected to provide new sources of income for farmers. Water delivery facilities

constructed or rehabilitated, have released farmers from the daily work to get water from far. The rehabilitated local market infrastructures have brought more merchants to the villages and have facilitated farmers' economic activities.

In the process of conducting all those activities, people-oriented participatory approach was taken, and thus village communities and farmers have been empowered to promote their economic activities.

5-2 PROJECT IMPACT

5-2-1 TECHNICAL IMPACTS

Full-time counterparts and farmers have enhanced their technical knowledge and skill on agriculture, animal husbandry, rural development, marketing research and civil engineering through the Project.

Improved cultivation techniques of red onion, melon and chili attracted farmers and are being disseminated. Farmers have improved their techniques of breeding and medication of cattle and goats. Constructed or rehabilitated irrigation facilities have increased production. Farmers have learned skills about construction, maintenance and management of water delivery facilities.

5-2-2 INSTITUTIONAL IMPACTS

At various implementation stages of the Project, J.E.s have made an effort to take people-oriented participatory approach, which includes utilization of appropriate technology and planning of the activities based on communities' potential. The ways of implementation are very different from those of existing governmental programs, and they gave impact to all levels especially the district and village community levels.

(1) Barru District Level

Institutional impact of the Project at District level, however, has been relatively unclear because cooperation in planning as well as implementation between the J.E. Team and the local government staff in Barru District has not been so sufficient as a consequence of the status of full-time counterparts being temporary and the technical counterparts being too busy with non-project work.

(2) Village Community Level

In many of the target communities, the farmers have come to realize the needs of self-helping development planning and implementation through various participatory activities. And organizations such as water delivery facilities management committees have enhanced their capacity and are well operated.

5-2-3 SOCIAL AND CULTURAL IMPACTS

The ways of implementation have facilitated the community people's participation in self-helping development especially the youth and women to participate in self-helping development. Most of J.E.s lived with villagers and learned their culture. Water delivery facilities have saved farmers' time to get water from far and thus the farmers now can spend more time for production. Also, clear water provided

from the facilities has reduced diarrhea and other sickness among the benefited population. Women's participation in economic activities has increased, especially through cashew nuts processing and the Goat Bank.

5-3 EFFICIENCY

5-3-1 TIMING OF INPUTS

(1) Japanese side

All kinds of inputs including dispatch of J.E.s and provision of machinery and equipment were made on schedule from January 1995 based on M/M except for a J.E. of Irrigation Engineering who was late for one year and actually dispatched in August 1996.

A J.E. of Vegetables sector was additionally dispatched in August 1997 based on a proposal by the Government of Indonesia.

All activities of the Project were interrupted for about two months from May 1998 due to J.E.s' retreat from the political turmoil in Indonesia. Some of the Project activities such as vegetable planting and rehabilitations of irrigation facilities were seriously hampered.

(2) Indonesian side

All land and facilities were utilized as scheduled. The counter budgets, however, was not released timely, and hence some activities were delayed. Inefficiency of disbursement of the budgets has become bigger since FY1997 owing to the economic crisis, and the hindrance has caused more than half a year delay of implementation of the several activities planned together by the J.E. Team and Technical Offices in Barru District.

5-3-2 RELATION BETWEEN INPUT AND OUTPUT

Almost all of the inputs such as personnel, equipment and budget have been well utilized.

However, some full-time counterparts did not meet the technical requirement of the Project. They were not permanent government staff, and therefore it is anticipated that after the end of the Project they will not be given opportunities to fully utilize their knowledge and skill, which have been transferred from J.E.s through the Project.

On the other hand, assigned technical counterparts from Technical Offices in Barru District have hardly worked together with J.E.s through the Project period because they could not afford to work with J.E.s besides their routine work.

5-4 RATIONALE

5-4-1 PROJECT PURPOSE

The purpose of the Project was to increase the farming family income through (1) improving farming systems, (2) developing human resources, (3) improving

capacity of the local apparatuses, and (4) improving farming support systems. The purpose of the Project as above meets the basic farming families' needs in the target villages and also meets the development policy of the Government of Indonesia.

5-4-2 PROJECT DESIGN

The Project design to support the implementation of the on-going PPWT was appropriate, since PPWT had put up with lack of personnel who could cope with each local problem and low efficiency of the program. Linkage between the Project and PPWT has, however, become weak during the course of implementation.

Implementation principle to utilize the existing community mobilization practice through promotion of participation of the farmers, was appropriate as shown in the satisfactory result of the Project.

5-5 PROSPECTS FOR SUSTAINABILITY

5-5-1 INSTITUTIONAL SUSTAINABILITY

The Project has been implemented with participation from each technical office under the responsibility of the head of the Barru District government (*Bupati*). All activities of the animal husbandry sector in the Project are planned to be extended by the Technical Office of Livestock (*Dinas Peternakan*). Some of the facilities which have already been constructed by the villagers in cooperation with J.E.s, such as water delivery facilities and market facilities can be maintained by the target groups at village level. The activities of Food Crop and Vegetable Planting should be continued autonomously by the Technical Office of Agriculture (*Dinas Pertanian T.P.*) after the end of the Project. As for the Horticultural Nursery, which has not become fully operational, management and operation system needs to be established by the Technical Office of Agriculture to ensure the institutional sustainability.

5-5-2 FINANCIAL SUSTAINABILITY

It is confirmed that the necessary budgets to continue the Project activities after the end of the cooperation period will be wholly coordinated by BAPPEDA and Technical Offices at district level. With the advancement of decentralization, it is essential that each district will prepare and plan its budget to ensure financial sustainability.

Some equipment used in the J.E. Team coordination office in the South Sulawesi Provincial Office will be transferred to BAPPEDA at provincial level after the coordination office is closed.

5-5-3 TECHNOLOGICAL SUSTAINABILITY

Through the discussions, interviews and documentation from the survey, the Team found out that appropriate technique and technology had been used for the development activities in target village communities respecting the indigenous

knowledge and skill. The introduced technique and approaches such as participatory planning and implementation were acquired by the full-time counterparts and also by the target groups at village level. The full-time counterparts who gained technologies from J.E.s, have not been guaranteed appropriate positions to disseminate the technologies.

Some of the improved technology and technique have been directly transferred to villagers in order that the villagers would be able to utilize them for their community development.

6 CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

6-1 SUMMARY OF EVALUATION

The Team discussed and evaluated efficiency, effectiveness, impact, rationale and sustainability of the Project. Based on careful studies and discussions, the Team concluded that the Project had progressed satisfactorily. Most of the activities instructed by J.E.s have met the needs and the conditions of the village communities. All infrastructures constructed or rehabilitated by the Project have been beneficial to all villagers concerned. Thus people-oriented concept has been extensively introduced to the target area as a meaningful process of rural development.

Since technical counterparts could not work together with J.E.s, technological sustainability of Barru district has not been ensured.

Also there are activities which have not completely been achieved at this stage as mentioned below. It is expected that follow-up will be done by the counterparts of the Project under the responsibility of each technical office in Barru District along with partial support from J.E.s.

6-2 RECOMMENDATIONS

Regarding institutional issues, the existence of active coordinating role at district level is essential for integrated regional development programs. It has been observed that JICA as an outside donor has faced with difficulties caused by the sectoral execution of the Project at the district level. Through this experience, it is recommended for local governments in Indonesia to keep endeavoring to enhance the quality of the function and human resources of BAPPEDA at district level, which should play a significant role to coordinate and create integration among all activities for regional development. Considering funds preparation, however, Barru District still needs management support by the authorities at provincial level and the central level.

The Project is characterized by its process; that is, initiating with basic surveys and trials on a small scale before the implementation, reviewing activities every year, and then utilizing the experiences as feedback for the continuing activities. The Project implemented with this methodology can be a model of rural development projects based on the potential of communities.

It is recommended that machinery and equipment provided by the Japanese side

be allocated to and managed by appropriate institutions. The responsible institutions proposed are shown on annex 5.

6-2-1 FOLLOW-UP OF THE ACTIVITIES

(1) Animal Husbandry

Dissemination of reproduced cattle and goats will be conducted by the Technical Office of Livestock in Barru District. Instruction about medication and guidance of breeding, which are required by farmers, also will be provided by the staff of the technical office.

In order to implement these activities, the full-time counterpart of animal husbandry sector who has played an active part for the Project is highly recommended to be engaged at the technical office because only he has full experience in working with J.E.s in this sector through 5 years from the beginning of the Project.

Also, it is recommended that the cattle and goat revolving be supported by J.E.s for about a year to enhance the quality of the activities.

(2) Food Crop / Vegetables

While the activities of Vegetables sector began two years ago, activities at the Horticultural Nursery have not started yet, although various trials have been held in other sites on a small scale.

Considering these situations, assignment of more functional staff from the Technical Office of Agriculture, especially for management of the Horticultural Nursery, is recommended. The staff are expected to handle mainly the two activities; that is, dissemination of plants and seedlings of vegetables and food crops, and farmers' training in cooperation with the alumni of the training in eastern Jawa. In addition, it is recommended that the J.E. of Food Crop continue activities for another year, and that the J.E. of Vegetables continue to support the activities at the Horticultural Nursery.

Management cost of the Horticultural Nursery is recommended to be funded by Barru District.

(3) Irrigation

All scheduled activities in this sector will be completed before the end of the Project. Regarding rehabilitation of the gutter which was damaged by a big flood in January 1999, the head of Barru District as well as institutions concerned at district level are recommended to pay high attention to the facilities continuously and to support the target group in the form of technical advice and subsidiary funding.

(4) Facilitation for self-helping development

Through the J.E.s' continuous facilitation of village activities by participatory approach, farmers have been empowered to solve their problems by themselves and have started to implement their own projects. It is recommended that JICA dispatch a J.E. specialized in Rural Development for supporting and monitoring these farmers' activities. It is also recommended the J.E. in Rural Development

facilitate the extension of the Project experience by the farmers.

6-2-2 FOLLOW-UP COOPERATION

All activities mentioned above are scheduled to be continually conducted by each institution concerned in the local government of Barru District in coordination with the central and the provincial governments. Several activities, however, have just begun and have not been completed yet. Therefore, the Team recommends that there be some more cooperation from Japan as follow-up of the Project.

Through the careful discussions, the follow-up period is recommended to be about 1 or 2 years in accordance with the progress of each activity. This follow-up term is regarded as a period to support self-helping management of the local government in Barru District in order to extend the impacts of the Project.

Annex 1. PROJECT DESIGN MATRIX (PDM) FOR JOINT EVALUATION

Project period : 1995.1.1 - 1999.12.31 (5 years)

Japanese implementing agency : JICA/JOCV

Target region : Selected six villages in Barru district, South Sulawesi province, Indonesia

Prepared by : JICA HQ and JICA evaluation team

Indonesian implementing agency : Department of Home Affairs / BAPPENAS

Target group : Farmers in the village

As of December 6, 1999

Narrative Summary	Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<Super Goal> Farm family income in the target region increase	1. Living standard of the farmer	1. Farm household survey	
<Overall Goal> Productivity of the farmers' economic activities in the target region increase	1. Amount of agricultural yield 2. Amount of agricultural production 3. Amount of off-farm income	1. Statistical data of local government 2. Farm household survey	
<Project purpose> Village and farmers' economic activities become more active	1. Quality and quantity of information, materials and infrastructure obtained by farmers 2. Functionality of farmers' organization	1. Report on activities evaluation meetings in the villages 2. Result of evaluation survey conducted by local consultant 3. Project report 4. Interview with the farmers	a. Government will not change its development policy b. Natural environment will not change significantly c. Regional economic structure will not change significantly
<Outputs> 1. Farming system is improved 2. Human resources are developed (farmers' activities to participate development are facilitated) 3. Capacity of the local apparatus is improved 4. Farming support system (infrastructure, etc.) is improved	1. Results of surveys and situation of their use 2. Contents of introduced technologies and probability of their extension 3. Numbers and contents of conducted trainings and seminars 4. Number of installed agricultural infrastructure and living infrastructure, and their conditions	1. Self evaluation sheet, project report, interview with related personnel 2. Self evaluation sheet, project report, interview with related personnel and farmers 3. Project report, interview with related personnel 4. Project report, interview with related personnel 5. Self evaluation sheet, project report, site survey	
<Activities> Following activities of which employ participatory approach 1. Install simple irrigation facilities 2. Provide appropriate operation and maintenance of simple irrigation facilities 3. Improve cultivation methods 4. Extend improved cultivation methods 5. Suggest diversified marketing management and market infrastructure improvement measures 6. Introduce intensive breeding and other methods 7. Conduct survey and identify local conditions, and (if necessary arises) extend by production or increase the value of agricultural products 8. Conduct survey and identify local conditions, and (if necessary arises) provide water supplies, health facilities, and conduct reforestation	<Inputs> <u>Japanese contribution</u> 1. Dispatch of Junior Expert (JE) : Senior level JE, 7 persons Long-term JE, 16 persons Short-term JE, 2 persons 2. Training in Japan : 8 persons 3. Training in the country : 4 times (5-10 Persons/time) 4. Machinery and equipment 992,214,042 Rupiahs (as of September 30, 1999) 5. Supplementary funds 1,695,968,418 Rupiahs (as of September 30, 1999)	<u>Indonesian contribution</u> <Central level> 1. Budget allocation 2. Coordination <Provincial level> 1. Land, building and facilities 2. Counterpart and staff allocation 3. Running cost <District level> 1. Land, building and facilities 2. Counterpart and staff allocation 3. Running cost <Village and villagers level> 1. Operational Cost 2. Materials 3. Labor	a. Natural disaster will not occur b. Weather will not change significantly c. Order of the region will not be disturbed <Pre condition> a. Project is accepted by the community

Annex 2. DISPATCHMENT OF JICA JUNIOR EXPERTS

	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	2000
Dispatch of J.E.									
1. Team Leader (3 persons)			Mr. NAKAYAMA Ichizo (March, '94-April, '96)				Mr. ABUNO Hajime (December, '97-)		
2. Team Coordinator (4 persons)					Mr. SUGINAGA Masahiko (January, '96-January, '98)				
			Mr. TAKADA Hiroyuki (July, '94-July, '96)			Mr. KAWATA Sozaburo (May, '97-May, '98)			
					Mr. SHIBUYA Shigeo (April, '96-July, '97)		Ms. OGUNI Kazuko (May, '98-February, 2000)		
3. Junior Experts									
A. Rural Development (3 persons)				Ms. OGUNI Kazuko (December, '94-December, '96)			Mr. TAKAHASHI Kazushi (April, '98-		
						Ms. MIZOE Keiko (July, '96-November, '98)			
B. Rural Development (2 persons)				Mr. KAWAZOE Keiichiro (July, '95-July, '97)			Mr. WATANABE Masao (July, '97-January, 2000)		
C. Animal Husbandry (Cattle Breeding) (2 persons)				Mr. WADA Yoshihiro (December, '94-December, '97)			Ms. YOSHIDA Chikako (December, '97-January, 2000)		
D. Animal Husbandry (Goat Breeding) (1 person)						Ms. YOSHIKAWA Ayumi (July, '97-January, 2000)			

Annex 2. DISPATCHMENT OF JICA JUNIOR EXPERTS

	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	2000
E. Food Crop (2 persons)					Mr.KIMURA Takusaburo(July,'95 - November,'97)		Mr.TAYA Toru (December,'97- December,2000)		
F. Marketing Research (2 persons)					Mr.NINOMIYA Nobuyuki(July,'95-July,'97)		Mr.TACHIBANA Hideharu(April,'97- April,'99)		
G. Irrigation Engineering (2 persons)					Mr.MIYASHITA Toru(July,'96-July,'98)		Mr.HIBINO Tatsushi(April,'98- April, 2000)		
H. Vegetables (2 persons)					Mr.WATANABE Ryogo(July,'97- September,'99)		Ms.KATO Kazumi(July,'99- July,'2001)		
4. Short-term Senior level Junior Experts									
A. Rural Development (Basic Survey in 4 villages)					Mr.ODASHIMA Nariyoshi(August,'95- March,'96)				
B. Irrigation Engineering (Basic Survey in 2 villages)) (2 persons)					Mr. OKADA Hiroaki(October,'95-April,'96)				

Total JICA Junior Experts dispatched during the Project period: 25 persons

Annex 3. EXPENSES BY JAPANESE SIDE

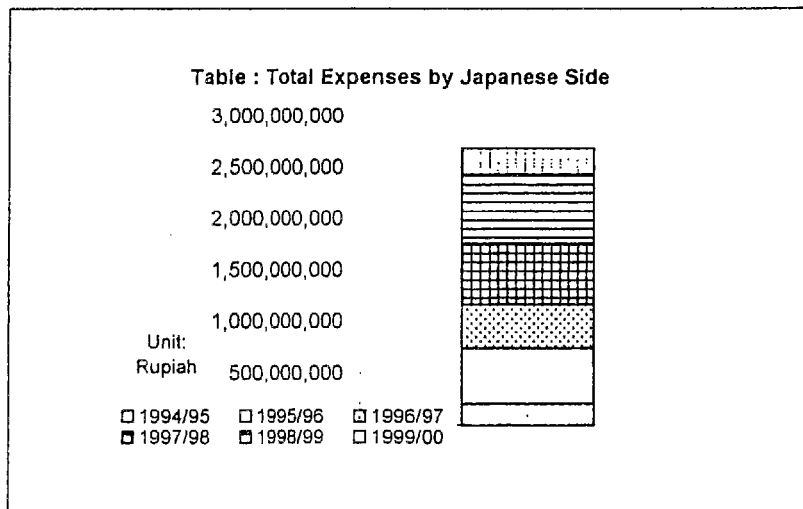
(Unit : Rupiah)

FY/ Quarter	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/00	Total
4-6	0	18,538,110	48,880,350	123,861,115	23,686,775	76,760,484	
7-9	0	191,873,380	91,712,017	50,532,367	244,945,737	182,779,125	
10-12	0	144,066,818	112,257,750	71,060,197	71,984,125		
1-3	209,853,629	177,665,766	169,207,755	346,509,310	332,007,650		
Annual Expenses	209,853,629	532,144,074	422,057,872	591,962,989	672,624,287	259,539,609	2,688,182,460

※ As of September 30, 1999.

Notes:

1. The figures above includes the costs of machinery, equipment, seminars, training, official travel, administration, etc.
2. The figures above do not include any cost to dispatch J.E.s.
3. Annual budget of JICA is approved basically in the beginning of every fiscal year in Yen terms.



Annex 4. LIST OF INDONESIAN COUNTERPERTS TRAINED IN JAPAN

No.	Name	Occupation	Subject of Training	Training Period	
1	Drs Amas Yamin	Chief of Regional Development Planning Board(BAPPEDA) of Barru District	Regional Development/ Introduction to JICA Activities	1995/1/8	1995/1/22
2	Drs H A Pamade ngrukka Mappanyompa	Head, Barru District	Regional Development/ Introduction to JICA Activities	1995/1/8	1995/1/22
3	Dr.S.Ruslan, MS	Head of Economic Division, Regional Development Planning Board(BAPPEDA) of South Sulawesi	Regional Development/ Introduction to JICA Activities	1995/6/29	1995/7/15
4	Ir. Baharuddin Nur	Head of Agriculture Section, BAPPEDA of South Sulawesi	Seminar in Regional Development and Planning for the Eastern Provinces of Indonesia	1996/2/25	1996/4/19
5	Drs H.M.Yusuf Ruki	Chief of Regional Development Planning Board(BAPPEDA) of Barru District	Regional Development/ Introduction to JICA Activities	1997/1/11	1997/1/24
6	Drs.Herry Yuherman	Head of Economic Section, Sub Dit Of Analysis and Identification, Directorate General of Regional Development, MOHA	Regional Development/ Introduction to JICA Activities	1997/1/11	1997/1/24
7	Ir.Iskandar Hamid	Secretary of BAPPEDA of Barru District	Seminar in Regional Development and Planning for the Eastern Provinces of Indonesia	1997/2/25	1997/4/19
8	Syamusuddin	Staff of Rural Community Development Office(PMD) of Barru District	Regional Development and Planning	1998/10/28	1998/11/29

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

(Unit:Rp)

Condition : A:very good B:good C: not good D:abandoned

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
FY1994							
1	Photocopy machine(XEROX V-500)	1995/1/27	35,860,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	B	
2	Photocopy machine(XEROX V-500)	1995/1/27	35,860,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Province	C	
3	DAIHATSU HI LINE/DD620L	1995/2/9	55,973,700	1	Local Government of Barru District	B	
4	DAIHATSU HI LINE/DD421	1995/2/9	55,716,200	1	BAPPEDA, South Sulawesi Province	B	
5	Fax machine(XEROX-7016)	1995/3/16	2,500,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
6	OHP(ELMO HP-300S)	1995/3/16	1,320,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
7	Fax machine(XEROX-7016)	1995/3/16	3,028,600	1	BAPPEDA, South Sulawesi Province	A	
8	Slide Projector(MEREK REFLECTA)	1995/3/16	577,500	1	Local Government of Barru District	A	
FY 1995							
9	battery charger(SENDON625)	1995/6/12	786,500	1	(BAPPEDA, Barru District)	B	
10	Computer(Acer 486DX33)	1995/6/12	4,290,000	1	-	D	broken down
11	Printer(CANON BJ230)	1995/7/10	1,150,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
12	Computer(ACER486DX2)	1995/7/10	4,510,000	1	-	D	broken down
13	Computer(ACERNOTE760ic)	1995/7/10	6,050,000	1	-	D	broken down
14	Alat pengukur berat ternak (ALLFLEX F600)	1995/7/17	4,000,000	1	Technical Office of Livestock	A	
15	Alat pengukur tinggi ternak (HAUPTNER)	1995/7/17	1,800,000	1	Technical Office of Livestock	A	
16	Alat Suntikan Hewan(HAUPTNER)	1995/7/17	90,000	1	Technical Office of Livestock	A	
17	Alat Pemasang Nomor Telinga(alflex)	1995/7/17	70,000	1	Technical Office of Livestock	A	

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
18	Shooting Video Camera(SONY 8mm)	1995/8/11	1,727,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
19	Video(SONY SLV X711PS)	1995/8/11	990,000	1	-	D	broken down
20	Kaset Rekaman(SONY WM W800)	1995/8/11	660,000	2	-	D	broken down
21	measuring tape 100m (Alat Pengukur) (DX100)	1995/8/14	918,500	1	Horticultural Nursery	A	
22	pH meter(HANNA)	1995/8/14	194,838	1	Horticultural Nursery	A	
23	wind measuring machine AM4201(Pengukur angin)	1995/8/14	1,375,000	1	Local Government of Barru District	-	already managed by PEMDA TK-II(DINAS)
24	DAIHATSU HILINE/DD115L	1995/8/16	58,530,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
25	Truk(DELTA V82/DD114L)	1995/8/16	42,650,000	1	Local Government of Barru District	A	
26	Safy Box	1995/8/16	627,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
27	Rain meter(Pengukur Curah Hujan)(LOKAL)	1995/8/17	231,000	7	Horticultural Nursery	-	already managed by villagers
28	Penggiring Rumput (EX LOCAL)	1995/8/25	7,725,000	1	-	D	broken down
29	Office Accesarry (Lemari buku, meja, kursi)	1995/9/6	3,468,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
30	Pompa Air(HONDA GX120)	1995/9/20	825,000	1	-	D	broken down
31	Pemotong Rumput(SHINAKA)	1995/9/20	522,500	1	-	D	broken down
32	OHP Screen(REFLECTA)	1995/9/22	550,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
33	Safy Box	1995/9/22	167,200	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
34	Drawing table (Meja gambar)	1995/9/22	2,667,500	1	Technical Office of Public Works	A	
35	Motorcycle(HONDA WIN)	1995/9/26	11,326,500	3	Local Government of Barru District	-	already managed by PEMDA TK-II(BAPPEDA)

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
36	Generator(HONDA EM2200X)	1995/10/6	2,062,750	1	Local Government of Barru District	A	
37	Electronic Precision Long Term Thermo Hygraph(3-3	1995/10/13	2,200,000	1	Horticultural Nursery	A	
38	Plane Table Set(MIZOX-1510)	1995/10/13	1,180,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
39	Soil pH Measure(PHS-120)	1995/10/13	6,510,000	1	-	D	broken down
40	Soil Solidity Measure(DIK-5551)	1995/10/13	2,825,000	1	-	D	broken down
41	Pluviograph With Recorder(TM-1019)	1995/10/13	5,800,000	1	-	D	broken down
42	Instrument Screen(Shelter)(3-17130-5)	1995/10/13	5,510,000	1	-	D	broken down
43	Leveling Staff	1995/10/13	1,120,000	4	Technical Office of Public Works	A	
44	Staff Stand (MIZOX. A-TYPE)	1995/10/13	170,000	2	Technical Office of Public Works	A	one of them was lost
45	Pole(151/170)	1995/10/13	210,000	2	Technical Office of Public Works	A	
46	Measuring Tape-50m	1995/10/13	195,000	1	-	D	broken down
47	Transit(TOPKON TL-20GF)	1995/11/3	11,050,875	1	Technical Office of Public Works	A	
48	Level Machine(TOPCON AT-G6)	1995/11/3	3,198,938	1	Technical Office of Public Works	A	
49	Soil Analyzing Kits(Alat Analisa Tanah)	1995/11/14	3,499,650	1	Horticultural Nursery	A	
50	Air Conditioner(CW70L3225)	1995/12/6	2,246,000	2	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
51	Air Conditioner(CW70L3225)	1995/12/13	4,492,000	4	(BAPPEDA, Barru District)	A	
52	Video Projector(EIKI)	1995/12/19	11,075,000	1	-	D	broken down
53	Computer (Acernote350c)	1996/1/4	5,880,000	1	-	-	stolen(Oct.'99)
53	Water Pump(YANMAR TE105H/NS100)	1996/1/16	3,846,750	1	(BAPPEDA, Barru District)	D	broken down
54	Generator(HONDA G2500)	1996/1/16	1,700,375	1	Local Government of Barru District	D	broken down
55	Motorcycle(Untuk Pendamping Fulltime/HONDA WIN)	1996/2/26	3,800,500	1	Local Government of Barru District	-	already managed by BAPPEDA, Barru District
56	Rotary Hammer(HR5000)	1996/3/8	3,468,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
57	Office Accessary (Book rack, dll.)	1996/3/8	2,948,729		BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
58	Chainsaw STHIL 070(Meson-Sense)	1996/3/8	2,750,000	1		-	stolen(Oct.'99)
59	Electric Breaker(HM1800)	1996/3/8	4,967,000	1	Local Government of Barru District	A	
60	Motorcycle(Untuk Pendamping Teknis/HONDA WIN)	1996/3/14	15,402,000	4	Local Government of Barru District	-	already managed by BAPPEDA, Barru District
61	Colour Printer(EPSON Stylus Pro XL)	1996/3/15	5,500,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
62	battery charger(SENDON825)	1996/3/15	1,590,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	C	
63	Computer desk	1996/3/15	150,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
64	battery charger(SENDON825)	1996/3/15	795,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
65	CD-ROM Drive(for Notebook)(PCMCIA)	1996/3/15	1,150,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
66	Laser Printer(HP Laserjet 4V)	1996/3/15	5,400,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	C	
67	Stabiliser(STAVOL)(1000VA)	1996/3/15	350,000	2	Local Government of Barru District	C	
68	Computer(AcerPower Ultima)	1996/3/15	9,450,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
69	Colour Printer(EPSON Stylus Pro)	1996/3/15	1,750,000	1	Local Government of Barru District	A	
70	TV(SONY KV2567MNT)	1996/3/22	2,194,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
71	Video machine(SONY SLV-K872MN)	1996/3/22	2,004,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	C	
72	TV desk	1996/3/22	275,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
73	Computer(Notebook)(DELL LATITUDE)	1996/3/25	8,075,000	1		D	broken down
74	Hand Tractor (FARMINDO YZT85)	1996/3/26	11,000,000	2	Horticultural Nursery	A	one of them already managed by the technical office of agriculture(Dinas Pertanian)

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
75	YanmarTS50C+MesinMolen	1996/3/26	7,260,000	2	Technical Office of Public Works	B	
FY 1996							
76	Office Accesarry (Desk. Chair)	1996/7/6	552,000	2	Technical Office concerned	A	1 for BAPPEDA and 1 for the technical office of agriculture broken down
77	Radio Alinco & Antena	1996/7/19	1,056,000	2	-	D	
78	CM.V11 Metric set 109 tools (Alt Perbaikan Mobil)	1996/9/18	7,487,050	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
79	Mitsubishi COLT L300/DD623L (Mobil)	1996/11/11	41,900,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
80	FAX Modem(Hayes 14,400)	1996/11/11	500,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	B	
81	Book Rack(Brother)(Lemari Buku)	1996/11/15	2,475,000	5	(BAPPEDA, Barru District)	A	
82	Book Rack(Brother)(Lemari Buku)	1996/11/15	495,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
83	Refrigerator(National)	1997/1/18	561,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
84	Moisture Tester(Dole)	1997/1/29	2,750,000	1	Horticultural Nursery	A	
85	Soil Colour Chart Book(MUNCELL)	1997/1/29	1,430,000	2	Horticultural Nursery	A	
86	Radio Alinco & Antena	1997/1/30	2,112,000	4	-	D	broken down
87	MAKITA PBK 250(Mesin Pemotong Rumput)	1997/2/14	830,500	1	Horticultural Nursery	A	
88	Motorcycle(Utk.CP.Teknis/HONDA WIN)	1997/2/19	7,969,000	2	Local Government of Barru District	-	already managed by BAPPEDA, Barru District
89	Precisa 3000 D (Timbangan)	1997/2/25	4,045,800	1	Horticultural Nursery	A	
90	Generator(HONDA EP 5000)	1997/3/11	8,250,000	2	Local Government of Barru District	A	

Annex 5. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

No	Name	Year/Month /Day	Price	VOL.	Proposed Responsible Institution	Condition	Notes
91	Typewriter (Panasonic)	1997/3/12	541,200	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
92	KEVREX Crenes 1000	1997/3/12	34,585,000	1	Local Government of Barru District	A	
93	Water Pump	1997/3/12	2,035,000	1	-	D	broken down
94	Eureka AS-101(Lemari Kamera/Rolfilm)	1997/3/14	1,350,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
FY 1997							
95	Autolevel(TOPCON AT-G6)	1997/4/14	3,881,250	1	Technical Office of Public Works	A	
96	Levelling Sta(DATASCRIP 5M)	1997/4/14	360,940	1	Technical Office of Public Works	A	
97	Office Accessary(desk, table, chair)	1997/5/28	2,259,000	1	Horticultural Nursery	A	
98	Vetarinary kit (Peralatan Kedokteran Hewan)	1997/7/9	1,535,750	3	DINAS Peternakan Barru	A	
99	ZIP DRIVE	1997/9/16	753,500	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	
100	Software(Inggris) MS OFFICE 97	1997/10/17	2,152,800	1	(BAPPEDA, Barru District)	B	
101	Computer(ACER EXTENSA 355)	1998/3/27	14,500,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	C	
102	Computer(ACER EXTENSA 355)	1998/3/27	14,500,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	C	
103	Brother Book rack B-304(Lemari Buku)	1998/3/27	2,250,000	3	Local Government of Barru District	A	
104	Brother Book rack B-304(Lemari Buku)	1998/3/27	750,000	1	BAPPEDA, South Sulawesi Proince	A	
105	Hand Tractor(Yamindo YZC)	1998/3/30	32,000,000	2	Horticultural Nursery	A	
106	Digital Camera(QV-100)	1998/3/31	2,475,000	1	(BAPPEDA, Barru District)	A	

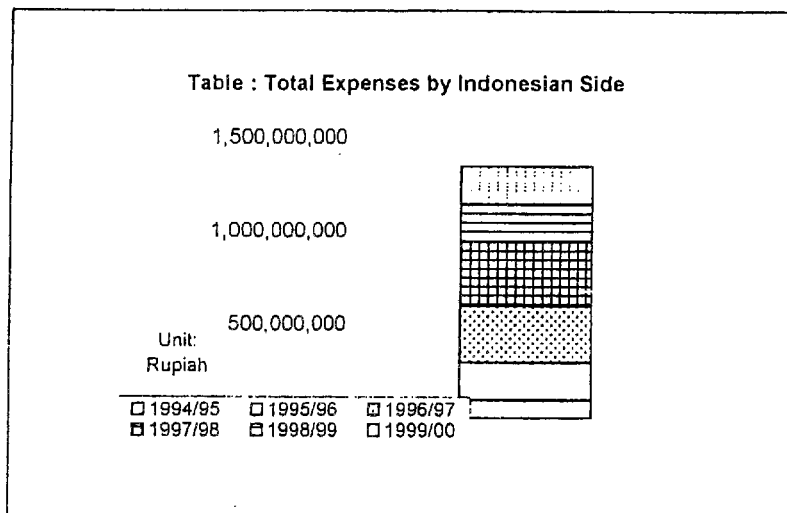
Total Rp. 992,214,042

Annex 6. EXPENSES BY INDONESIAN SIDE

(Unit : Rupiah)

FY/ Quarter	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/00	Total
Annual Expenses	95,000,000	200,000,000	300,000,000	350,000,000	200,000,000	200,000,000	1,345,000,000

Resource : BAPPEDA TK-II Barru



Annex 7. LIST OF INDONESIAN COUNTERPARTS ASSIGNED

Fiscal Year	Project Period				
	1995	1996	1997	1998	1999
Name of the Counterparts					
1. Fulltime Counterparts (Temporary staff in BAPPEDA at District level, Barru District)					
A. Rural Development					
1) Hema Malini					
2) Amri					
3) Muh, Arfah, SH					
B. Animal Husbandry					
4) Ir. Hasanuddin					
C. Food Crop/ Vegetables					
5) Ir. Syafruddin					
D. Marketing Research/ Estate Crops					
6) Muh, Arfah, SH					
7) Ir. Gunawan					
E. Irrigation Engineering					
8) Rusli					
9) Andi Baso Makna					
2. Technical Counterparts : Local governmental staff in Barru District					
A. Head, BAPPEDA Baru					
1) Drs. Amas Yamin					
2) Drs. H.M. Yusuf Ruki					
3) Drs. Andi Makkasau					
4) Drs. Andi Bau Oddang					
B. Rural Community Development Office (PMD)					
1) Nadjamuddin					
2) H. Muh. Natsir					
3) Yusuf Tone					
C. Technical Office of Livestock (Dinas Peternakan)					
4) H. Ishak					
D. Technical Office of Agriculture (Dinas Pertanian T.P.)					
5) C.H. Tilawanno					
6) Ir. Zaman Galigo					
E. Technical Office of Estate Crops (Dinas Perkebunan)					
7) Safi					
8) Drs. Muharram					
F. Technical Office of Public Works (Dinas PU)					
9) A. Djalante					
G. BAPPEDA Baru					
10) Iskandar Hamid					
11) Drs. Zulhelmi Z.					
3. Contact Persons/ General Counterparts					
(Baru District Level); Head, Baru District (Bupati)					
1) Drs. H.A. Pamadengrukka Mappanyompa					
2) Drs. Andi Makkasau Razak					
(BAPPEDA at Provincial Level); Head, Division of economy					
1) Dr. S. Ruslan					
2) Drs. Razak Labba					
3) Ir. H. Zubair Suyuthi					
Head, Section of Agriculture					
1) Ir. Baharuddin Nur					
2) Ir. Andi Yamin					

6. アンケート集計結果 (JOCV)

協力隊員へのアンケート結果					
質問	回答/項目	A	B	C	D
1. 今回の終了時評価では、PDMを用いた5項目評価を行う予定ですが、あなたはPCMまたはPDMについてご存知ですか？	(1) 研修を受けたことがある (いつ: どこで: 研修名)				○ (2001年1月 ICネット、PCMコース)
	(2) 研修を受けたことは無いが内容を知っている		○		
	(3) 名前だけ聞いたことがある	○		○	
	(4) 全く知らない				
(1) または (2) と回答された方は、本プロジェクト活動を行う際に、PCMやPDMを知っていて有効だったことを、具体的に説明してください。			目標と活動をロジカルに関連付けようとした。		プロジェクトサイクルの一連の過程を運営・管理する能力が身についた。しかしながら、実際に使用することはなかった。
2. あなたは、本プロジェクトのプロジェクト目標や終了時評価報告書に記載されている、フォローアップ期間の目的(成果)や主な活動内容をご存知ですか？	(1) 読んだことがある		○	○	○
	(2) 聞いたことはある				
	(3) 全く知らない				
(1) または (2) の方は、覚えている範囲で結構ですから具体的に目的と活動内容をご記入ください。	プロジェクト目標	農民の所得向上	農民の取入向上→生活上	農民の所得向上、公務員の改善	スーパーゴール: 「地域農民の収入が向上する」 上位目標「農民の経済活動の生産性が向上する」
	フォローアップの目的	イ側プロジェクト事業を移行するため		プロジェクト期間中に達成できなかった事業を引き継ぎ、また終了した事業は、継続されているかどうか、助言を行うこと	「プロジェクト効果を拡大させる」①育苗所の運営について助言 ②野菜栽培の向上を支援 (JOCVが導入した野菜) ③バリ牛・ヤギの分配支援④村民の組織強化⑤当プロジェクトによって醸成された施設の維持・修復の技術支援⑥農民がプロジェクトの効果を普及するよう働きかける。
	活動内容	バリ牛普及、育苗所運営、水道事業のフォロー、野菜普及	畜産・育苗所含む野菜普及、村民の自主活動促進	プロジェクト総括(準備へ技術移転)、育苗所の経営・自立、C/Pの公務員化へ、全分野のモニタリング	
3. 本プロジェクトでチームの活動計画表に基づいて、活動を行いましたか？	(1) 完全に活動計画に沿って活動していた				
	(2) だいたいチームの活動計画に沿って活動していた	○	○		○
	(3) 一部、チームの活動計画に沿って活動していた				
	(4) チームの活動計画はあったが、特に意識して活動はしていなかった				
	(5) チームの活動計画はなかった			○	
4. フォローアップ期間以前のプロジェクトの前任者からの引継ぎは良かったですか？	(1) 非常に良かった		○		
	(2) 良かった				
	(3) 普通	○		○	
	(4) やや悪かった				
	(5) 悪かった				
5. プロジェクトの協力分野はインドネシアにおいて優先度の高い分野であると思いますか？	(1) 非常に高い	○			○
	(2) 高い				
	(3) 普通		○	○	
	(4) やや低い				
	(5) 低い				
6. 配属先のプロジェクトに対するニーズは高かったですか？	(1) 非常に高かった	○			
	(2) 高かった				
	(3) 普通			○	
	(4) やや低かった		○		○
	(5) 低かった				
7. あなたと一緒に活動していたC/Pのプロジェクトに対する期待は高かったですか？	(1) 非常に高かった	○	○	○	○
	(2) 高かった				
	(3) 普通				
	(4) やや低かった				
	(5) 低かった				
8. プロジェクトの最終受益者(農民等)の期待は高かったですか？	(1) 非常に高かった	○	○	○	○
	(2) 高かった				
	(3) 普通				
	(4) やや低かった				
	(5) 低かった				
9. フォローアップ協力はフォローアップ以前5年間の協力活動の情報に基づいて計画されていたと思いますか？	(1) 十分な情報	○		○	○
	(2) それなりの情報				
	(3) やや不十分な情報				
	(4) 全く不十分な情報				
	(5) わからない				
10. 目標達成の手段として協力隊員の派遣は妥当だったと思えますか？	(1) 大変妥当		○		○
	(2) 妥当	○			
	(3) 普通				
	(4) 他のチームの方が良かった			○ (プロ技)	
	(5) 支援の必要はなかった				
	(6) わからない				

協力隊員へのアンケート結果

質問	回答/隊員	A	B	C	D
11. 2でプロジェクト目標を記入された方は、プロジェクト目標がチームとして何%程度達成されたと思いますか？また、その理由も具体的な活動例を挙げて説明してください。			収入向上に関しては評価できない(為替レートの暴落やインフレの影響)、生活水準向上、収入向上のきっかけ作りにはなった。	50%：生活水準向上が対象となった集落全域とはいかないが、大半水が普及され、住民により管理されたことが良かった。個々の住民にとってはプラスにつながったのが良かった(アクサンと)。山手銀行、育苗所の運営がいまいち、農圃のサポーター不足がマイナス。	50%：ごく一部の村民達の収入向上にはつながったが、対象村全域となるとこの位の数字であると思う。しかしながら、今後C/Pが中心となって、プロジェクトが浸透したノウハウ(特に農業栽培、バリエーション)が普及すれば、他の農家の収入も向上すると思う。村落開発はうまくもでき、思の長い仕事である。
12. 2でフォローアップ期間の目的(成果)あるいはその他の活動計画を書かれた方は、その目的(成果)あるいは活動計画は何%程度達成されたと思いますか？また、その活動促進又は阻害要因、事例を説明してください。	% 促進した要因、事例 阻害した要因、事例		現場の隊員にたずねてみてほしい。	40%：育苗所が独立した予算を獲得したこと。育苗所長が決まったこと。水が確保されたこと。	70%：人格、能力ともに適切な人物が派遣されたこと。これにより、村民達が楽しく働けた。
13. 活動開始から終了までの間に、C/P又は配属先の知識・技術はどの程度向上しましたか？	(1) 大きく向上した (2) 向上した (3) あまり向上しなかった (4) 全く向上しなかった (5) むしろ低下した	○	○	○	○
(1) または(2)と回答された方は、具体例を書いてください。		C/Pの意識向上	知識というより意識が向上したと思う。		以前はC/Pの能力は低かったと聞いているが、私が兼任した時には自発的に活動計画を立て、積極的に行動に移すようになっていた。C/Pは「自分の能力が高まったのは、JOCVと一緒に行ったことが非常に大きい」とのことである。配属先の能力は残念ながら向上していないと思われる。
14. 隊員としての活動は、配属先の組織体制の向上に影響しましたか？	(1) 大きく影響した (2) 多少影響した (3) あまり影響しなかった (4) 全く影響しなかった		○	○	○
15. ご自身の職種と配属先の求める技術の職種とは一致していましたか？	(1) 完全に一致していた (2) ほぼ一致していた (3) 特に支障はなかった (4) 余り一致していなかった (5) 全く一致していなかった	○	○	○	○
16. ご自身の技術レベルと配属先の求める技術レベルとは一致していましたか？	(1) 求められる方が高かった (2) 求められる方がやや高かった (3) 一致していた (4) 求められる方がやや低かった (5) 求められる方が低かった	○	○	○	○
17. チーム全体として見た場合、派遣された隊員の数は妥当だと思いますか？	(1) 多すぎた (2) やや多かった (3) 妥当 (4) やや少なかった (5) 少なすぎた (6) わからない	○	○	○	○
18. チーム全体として見た場合、派遣された隊員の技術分野は妥当だったと思いますか？ 妥当でない部分の説明をしてください。	(1) 妥当であった (2) 妥当でない部分があった (3) わからない 不要な分野があった もっと加えたら良いと思う分野があった	○	○	○	○
19. チーム全体として見た場合、隊員の派遣された時期は妥当だったと思いますか？ 妥当でない部分の説明をしてください。	(1) 妥当であった (2) 妥当でない部分があった (3) わからない 具体的に	○	○	○	○
20. チーム全体として見た場合、隊員の派遣された期間は妥当だったと思いますか？ 妥当でない部分の説明をしてください。	(1) 妥当であった (2) 妥当でない部分があった (3) わからない 具体的に	○	○	○	○
21. チーム全体として見た場合、隊員の技術レベルは妥当だったと思いますか？	(1) 十分な能力がある隊員が派遣されていた (2) 一部を除いてほぼ必要な人材がなされていた (3) 隊員の人数には問題があった (4) わからない (5) その他(具体的に)	○	○	○	○
22. リーダーは必要だと思いますか？ はいと答えられた方は、リーダーにはどのような人が適切だと思いますか？	(1) はい (2) いいえ a 隊員の中から互選された人 b シニア隊員 c 専門家 d その他(具体的に)	○	○	○	○
			農業土木の派遣が大幅に遅れ、運営に支障があったと聞いている。	いざ、野菜の販売の時、市場調査がいればと思ったことがあるから	プロジェクト終了まで僅か10ヶ月という時期に、チームリーダーが交代したことは適切ではなかった。
					5年のプロジェクトなら5年で終わり、その後のフォローアップとして、個別にその分野の隊員を派遣するも可だった。けれど予算がつきにくい面もある。
					19と重なるが、プロジェクトの締めきを担当するチームリーダーの派遣期間が短すぎた。各事業の詳細を把握し切れなかった。当プロジェクトのOS/OGが派遣されたのであれば、妥当な期間であったかもしれない。
			技術レベルの低い隊員もいた。	○隊員レベルで扱うには大きなプロジェクトである。	
				○但し師学を強い基準としない方がよい。上下関係を作ったほうが有効な場合もある。	

協力隊員へのアンケート結果

質問	回答/隊員	A	B	C	D
23. あなたの活動で投入した主な機材と、特に役立つ機材を教えてください。	主な機材 特に役立つ機材	ハンドトラクター、車 車	水道管設備に関する道具	トラクター、ポンプ、温設計 トラクター：畑を越せるから、荷台をつけたら荷物を選べるから	無し 無し
24. チーム派遣の機材供与の規模は妥当だったと思いますか？	(1) 多すぎた (2) やや多かった (3) 妥当 (4) やや少なかった (5) 少なすぎた				○ ○
25. チーム派遣の現地業務費(活動費)の額は妥当だったと思いますか？	(1) 多すぎた (2) やや多すぎた (3) 妥当 (4) やや少なかった (5) 少なすぎた			○	○
26. 着任当初、配属先は隊員の活動計画や役割分担などについて十分理解していましたか？	(1) 十分に理解していた (2) 理解していた (3) 特に支障はなかった (4) やや理解不足であった (5) かなり理解不足であった			○	○
27. 着任当初、配属先のプロジェクトに対する受け入れ能力(安定性、調整能力、予算等)は十分なレベルでしたか？	(1) 高かった (2) やや高かった (3) 普通 (4) やや低かった (5) 低かった			○	○
28. 着任当初、パートナーとなるC/Pの知識・経験・能力は高かったですか？	(1) 高かった (2) やや高かった (3) 普通 (4) やや低かった (5) 低かった		○ (後半)	○	○ (BAPPEDA局長)
29. C/Pの人数は、チーム派遣の技術移転を効果的に進めるのに妥当でしたか？	(1) 多すぎた (2) やや多かった (3) 妥当 (4) やや少なすぎた (5) 少なすぎた			○ (技術C/Pが少ない)	○
30. あなたが派遣前に青年海外協力隊の活動に期待していたことは、次のどれですか？(複数回答可)	(1) 目標を設定し、その目標を達成すること (2) 自分の持っている技術や労働力を提供し、現地の人々の生活改善に役立つこと (3) 現地の人との交流 (4) 異文化体験を通じた自己啓蒙 (5) 国際協力関係の仕事につくためのステップ (6) その他(具体的に)		○	○	○
31. 自分自身はチーム派遣隊員として派遣されて良かったと思いますか？	(1) 非常に良かった (2) 良かった (3) 特に不満はない (4) 不満である (5) 非常に不満である		○	○ (現地の人と仲良くなれたから)	○
32. 個別派遣と比べて、チームで活動することのメリットは何だと思いますか？(複数回答可)	(1) 個人よりも大きな成果があげられる (2) 活動費や機材がつかうので、活動がスムーズに行える (3) 事務所や運輸が提供される (4) 受け入れの理解や体制が個別よりも比較的整っている (5) 組織で動くので、配属先との調整・協力がしやすい (6) 他隊員や専門家との知識や経験の交換ができる (7) 入ってくる情報が多い (8) 仲間と知識や経験が共有できる (9) 不安が少ない (10) 活動現場に入っていやすい (11) ODAの現場を体験できる良い機会である (12) その他(具体的に)	○	○	○	○
33. チームで活動するデメリットは何だと思いますか？(複数回答可)	(1) 自分で活動目標が決められない (2) 管理されている印象が強い (3) 日本人と接触する機会が多く、逆に現地の人と接触する機会が少ない (4) 現地の言葉が上達し難い (5) 人間関係がこじれると、活動にも影響が出る (6) 煩雑な事務処理が多い (7) その他(具体的に)			○	○
34. 活動計画の修正・モニタリングは定期的に行われていましたか？	(1) 月に1度程度行われていた (2) 4半期に1回程度行われていた (3) 年に1回程度行われていた (4) 計画修正やモニタリングは行われなかった (5) その他(具体的に)	○		○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
			モニタリングは種々、頻繁に実施、週1回全体ミーティング		○2001年以降村藩開発分野に関しては全く行われなかった。他の分野に関連しては各隊員が定期的に行った。

協力隊員へのアンケート結果

質問	回答/隊員	A	B	C	D
35. 派遣期間中に、活動計画の修正・モニタリングをもっと強化するとしたら、どんな方法が望ましいと思いますか？	(1) 現状のままでよい (2) 日本からの技術支援の会の実施 (3) 日本からの計画修正のための調査団 (4) 在外事務所がもっと計画に対するアドバイスをする (5) チーム内の隊員同士でもっと強化する (6) 配属先の上層機関などがモニタリングを行う (7) その他(具体的に)				
評価の方法に対する問題点・改善点があれば簡単に説明してください。			外部評価は主になる必要はないが、内部でどのようなことが行われているのか、もっと知ることが必要。内部の者は外部向けというより、対象住民が自らモニタリングできるような仕組み作りをサポートすることが必要。		今回の評価の場合、実施が決定されたのがあまりにも遅すぎた。このため評価団が必要とされている情報を充分に集めることができなかった。プロジェクト事務局で活動している隊員数にもよるが、当プロジェクトのように隊員は一人のみのというケースでは(評価)に必要な情報、データが何であるのか、半年前には知らせた方がよい。今回の場合PDM表がグリッドが現場に届いたのは評価団到着の数日前であったことから、現場では対応しきれなかった。
36. 個々の隊員の活動に対する第三者の評価は必要だと思いますか？	(1) 必要(理由は:) (2) 不必要(理由は:) (3) わからない	<input type="checkbox"/> チームであれば必要。活動の向上に繋がる。	<input type="checkbox"/> チーム内部の者は監視しづらいし、人間関係を気にして言いづらい面もある。	<input type="checkbox"/> (自然と評価されているであろう)	<input type="checkbox"/> 自分の活動が評価されると、より無欲的に頑張れる。
37. プロジェクト活動中に相談があった場合、だれに助言を求めましたか？(複数回答可)	(1) チームのメンバー(リーダーも含む) (2) JICA専門家(職種) (3) C/Pや現地の職員 (4) 他のドナーの専門家やNGO(組織:) (5) 在外事務所 (6) 協力隊事務局 (7) その他(具体的に)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (賛同対策)
38. プロジェクト実施中の在外事務所の対応に関して、改善すべき点はありませんか？	(1) 特に無し (2) ある(具体的に)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 村人	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
39. 運営や技術支援に対するJICA本部の対応に関して、改善すべき点はありませんか？	(1) 特に無し (2) ある(具体的に:例えば国内支援委員会に対して、本部事務局に対して、技術顧問に対して等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 隊員からの支援依頼に対して対応が遅い人もいます。	<input type="checkbox"/> 隊員の青年育成の目的を理解し、プロジェクトをプロ技の用に扱うのは少し負担になる。	<input type="checkbox"/> 本部事務局に対して①他国で行われているチーム派遣プロジェクト報告書、評価報告書、参考になる資料は積極的に送付していただきたい②評価に関する連絡等、メールでジャカルタとも連絡をとる際、CCで現場に流していただきたい。評価の件に限らないが、現場に情報が届くのが遅すぎる。
40. 募集応募時の対応に、改善すべき点はありませんか？	(1) 特に無し (2) ある(具体的に)	<input type="checkbox"/> チーム派遣は募集を別にした方がよい。	<input type="checkbox"/> 個別派遣希望隊員とチーム派遣希望隊員の区別	<input type="checkbox"/> チームのメリット・デメリットをよく伝える。	<input type="checkbox"/> 個別派遣希望者とチーム派遣希望者を分けて募集すべき、絶対!!
41. 派遣前訓練に関して、改善すべき点はありませんか？(複数回答可)	(1) 特に無し (2) 訓練期間(具体的に) (3) 訓練内容(具体的に) (4) 訓練所の施設・サービス(具体的に)	<input type="checkbox"/> 一般の訓練後、又は前にチームとしての訓練をした方がよい。	<input type="checkbox"/> 村落開発普及員はもっと村人と話す"ことば"を持つ必要がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> プロジェクトチームリーダーと開発員に対してはオラティブ調整員と同様の研修を行うべきである。予算管理等、何も知らない状態で着任した私は、ノウハウを掴むまでにかかりの時間を要することになってしまった。
42. 随学研修に関して、改善すべき点はありませんか？(複数回答可)	(1) 特に無し (2) ある(具体的に)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 専門用語をもう少し多く
43. 現地着任時の体制に関して、改善すべき点はありませんか？(複数回答可)	(1) 特に無し (2) 現地訓練(具体的に) (3) 在外事務所の対応(具体的に) (4) 配属先への説明(具体的に)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
44. 隊長として活動したことによって、その他、能力的に向上したことはありませんか？	具体的に	開発に関する知識の向上	現場活動に対してイメージが広がることで、文獻なども理解しやすくなった。	日本をもっと広い視野で見れるようになった。	能力の向上ということにはならないかもしれないが、チームリーダーの仕事は自分を鍛えるいい機会となった。自分の未熟さを思い知らされた1年3ヶ月間だったが、今後、自分の能力をより高めていけるよう努力していきたいと思う。

7. アンケート集計結果 (カウンターパート)

		C/Pへのアンケート結果					
		C/P	1	2	3	4	5
		Related program	Animal Husbandry	Horticulture	Marketing Horticulture	PPWT	BAPPEDA
Questions		Answers					
Effectiveness	1. Was work implemented by the JICA Junior Experts (J.E.s) satisfactory for Project? When you answer, please consider whether there have been positive impacts within your organization or surrounding communities caused by JICA J.E., e.g. better attitude, and introduction of new technology.	① Very satisfactory					○
		② Satisfactory			○	○	
		③ No problem	○	○			
		④ Poor					
		⑤ Very poor					
	What is the reason for the above choice? Please give us brief explanation?		Because all program planned were carried out on time with adjustment with local conditions. All programs are fully supported by the villagers	Mostly could be enjoyed by the villagers	What J.E.s does in the field was easily understood by counterpart and by people	Classification system was done well *Need more maintenance system	Inter-sectional coordination between sector has existed in more effective and efficient way
2. What are the factors, which facilitated or interfered JICA J.E.s activities? Please specify from the following list, circle either facilitating (F) or interfering (I), and explain in	① Level of the technology	(F) Very common in nature and easily understand, very easily to be carried out	(F) Because the level of technology is understandable and applicable by people	(F) J.E.s working methods are easily transferable and very discipline	(F) Easy to understand and easily cooperated	(F) Generally well acceptable	
	② Support of your organization	(F) Could become a model for the surrounding farmers	(F) Good working environment stimulates and supports our work	(F) The local government and villagers have been very supporting of the activity of J.E.s	(F) The working environment is very supporting	(I) The Indonesian side of human resources below the needed standard	
	③ Relationship with your colleagues	(F) Easy going and live together with villagers in the project area	(F) Very close working relationship and help each other	(F&I) Sometimes miss communication occurs however everything can be overcome	(F) The working environment is very suitable and good	(F) Responsible enough	
	④ Financial conditions of your organization	(F) Supporting enough, because all supporting activities could be carried out by J.E.s	(I) The working compensation always paid late. This could demotivate us.	(F) The supporting funds from JICA always comes on time	(F) The working environment and relationship is very suitable and good	(I) Very limited	
	⑤ Others	(F) Such as animal medicine, animal captivity, friability etc. Also the Bahasa Indonesia can be understood by farmers	(I) No future guarantee and career guarantee when the project finished	(I) The compensation for counterpart always comes late for the Government of Indonesia		(F) The people want to develop themselves with self support	
Relevance	1. Is there any other support from other donors than JICA in the same fields?	① No/No cooperation from other donors in contents/methods and not duplicated		○		○	
		② Yes: Similar in contents/ methods, but different in expected effect				○	
		③ Yes: Similar in contents/methods/ expected effect, but still needed due to insufficiency in scale	○		○	○	
		④ Yes: Similar in contents/methods expected effect, and duplicated with JICA					
		⑤ Perfectly suitable		○		○	
	2. How suitable was Type of technology that JICA J.E.s provide to your organization?	① Perfectly suitable		○		○	
		② Relatively suitable	○		○		
		③ No problem					
		④ Slightly different					
		⑤ Totally different					
	What is the reason for the above choice?	Because the type of technology applied were combined with the technology they introduced, and it was very suitable for the project location	Because before application a discussion was carried out with people followed the trial	What JICA J.E.s' do easily understandable by people and counterpart	Could be put into application by villagers and the animal breeding officers	There have been some coordination and integration with the existing program	
	JICA J.E.s provide to your organization?	① Perfectly suitable		○		○	
		② Relatively suitable	○		○		
		③ No problem					
		④ Slightly higher or lower			○		
		⑤ Too high or too low					
	What is the reason for the above choice?	Understandable and could be done by other people	Most people can accept it, even though a little part of their can not accept it yet.	Because still some part J.E. asks counterpart	Understandable by people	Socially acceptable, technology beneficial and economically reachable	
	4. Was Follow-up Period (2000.1.1 - 2001.12.31) of the project suitable for activities?	① Perfectly suitable	○	○	○	○	
		② Relatively suitable					
		③ No problem					
		④ Slightly long or slightly short					
		⑤ Too long or too short					
	What is the reason for the above choice?	With the follow up project, we could learn. Now far we have achieved with the technology that has been applied during the project	Before handling over the project to the government, there should be socialization program post project	Some parts of the project need to be followed up	Because people can accept it	Suitable with the field needs	
	5. How suitable was the project purpose for development policy (Central/ Provincial/ level)?	① Perfectly suitable	○			○	

C/Pへのアンケート結果

		C/P	1	2	3	4	5
Questions		Related program Answers	Animal Husbandry	Horticulture	Marketing Horticulture	PPWT	BAPPEDA
		1. Relatively suitable			○		
		2. No problem		○			
		3. Slightly different				○	
		4. Totally different					
Efficiency	1. Was the number of the counterpart (C/P) suitable for JICA J.E.s activities?	1. Perfectly suitable					○
		2. Relatively suitable					
		3. Suitable	○				
		4. Slightly superfluous or slightly insufficient			○		○
		5. Too much or insufficient		○			
	For those who chose the latter two attached with * could you explain why C/P was not properly arranged in your organization?			Region Development and Village Development better be united into village Development only	Because the technical personals are very busy, the work sometimes should be done by full time counterpart		
Impact (social/political/enviromental/ cultural and so on)	1. Was there any change, compare with before JICA J.E.s project?	1. Yes, very positively			○	○	○
		2. Yes, relatively	○	○			
		3. No, not specially					
		4. Yes, relatively					
		5. Yes, very negatively					
	2. For those who answered Yes, please give us examples to implicate the above choice?	Negative			Some local government officers and people don't understand what exactly JICA does	Animal husbandry through groups could work well	The people seems to have a dependency to the people
		Positive	The interest of people to look after cows has been increasing than before	The increase of technical knowledge and the skill of people. Also some facilities can now be enjoyed by people.	The villagers can increase their knowledge and standard of living		To bring awareness to the people about the potential that they have
	3. Are there any activities that can minimize the negative impact? Yes or No (For those who answered Yes, please give us an example to implicate the above choice.)				By consulting with local government and to village discussion		Need continuous guidance
Management	1. How often did you exchange opinions with JICA J.E.s?	1. Very often			○		○
		2. Often	○	○			
Sustainability	1. How much has your organization improved technologies level by working with JICA J.E.s?	1. Very much improved			○		○
		2. Improved	○	○		○	
		3. No change					
		4. Not much improved					
		5. Not improved at all					
	What is the reason for the above choice?		There has been awareness from farmers to strictly look after their cows in order to get better cows result	Some facilities were previously not existed. However science the presence of JICA, they are now exist. Also those facilities brought good impact to technical skills of people.	Before cooperating with counterpart the ability of counterpart the quality of people was very limited	Field guidance was objectively carried out	The improvement has been shown the application of simple technology
	2. If you chose 1. or 2., do you think you can keep the level of activities on your own?	1. Yes, we can keep it on our own		○			○
		2. Yes, and we can keep it on our own IN PART	○		○	○	
		3. No, we cannot keep it on our own					
	3. How much has your organization got improvement in working attitudes and/or institutional aspects by working with JICA J.E.s?	1. Very much improved			○		○
		2. Improved		○		○	
		3. No change					
		4. Not much improved					
		5. Not improved at all					
	What is the reason for the above choice?		In the matter of administration and technical in fields	Technical knowledge and skills of using office equipment such as computers	Can easily build relationship with the government people of province and agency (have more confidence now)	We have gained experiences in working with offices in animal husbandry sector, both with province level and recent level and with	People now could chose the type of technology application that they want to apply

C/Pへのアンケート結果

		C/Pへのアンケート結果					
		1	2	3	4	5	
		Related program	Animal Husbandry	Horticulture	Marketing Horticulture	PPWT	BAPPEDA
Questions		Answers					
	4. If you chose 3 or 2, do you think you can keep those positive changes on your own?	1- Yes, we can keep it on our own		○			○
		2- Yes, and we can keep it on our own in PAPT	○		○	○	
		3- No, we cannot keep it on our own					
5. Do you think you will be able to utilize the results of JICA activities after J.E.s leave your organization?	1- Yes, very much		○	○	○	○	
	2- Yes, sometimes						
	3- Yes	○					
	4- No, not so much						
6. If yes, in what way in concrete do you utilize the result? Or if no, could you give us your reasons?	5- No, not at all						
		I could give technical guidance continuously	To follow their way of working such as survey method, planning and carrying out management	By doing the activities that have been done by JICA with better performance	We are going to develop the allocation of technology continuously	Specially for the sustainability of this project, some budget from the Kabupaten has been allocated in the fiscal year 2002	
Overseas training	1. Please describe your comments or request on the existing Counterpart Training of the JICA J.E.s project?		If possible, I would like to have a vet. to increase my knowledge in the field of animal medicine		I support the activities because they bring benefits to the local government. In the future will bring better knowledge and make our country more developed		For the purpose of grading up the ability of planning officer, we suggest some overseas training
Others	1. What do you think you learn from JICA project/ J.E.s?		I have gained some practical knowledge about data reporting and field practicing	Technical knowledge and experiences in having communication with people from other country	I have gained more experience in terms of new technology and new culture understand from Japanese tradition	Exchange ideas and gained knowledge	We still need so guidance including technical guidance in order to utilize the potential we have
		What to do	Need to invite senior expert in the animal breeding field and some animal breeding appliances	It is advised that the model of project in Barru could also be done in other places	To support activities of JICA and to continue doing guidance to the villagers		For planning purposes we need practical knowledge for much discipline
	What not to do			It is advisable to send J.E.s with deep understanding about the project		No need general information. We need more specific location	